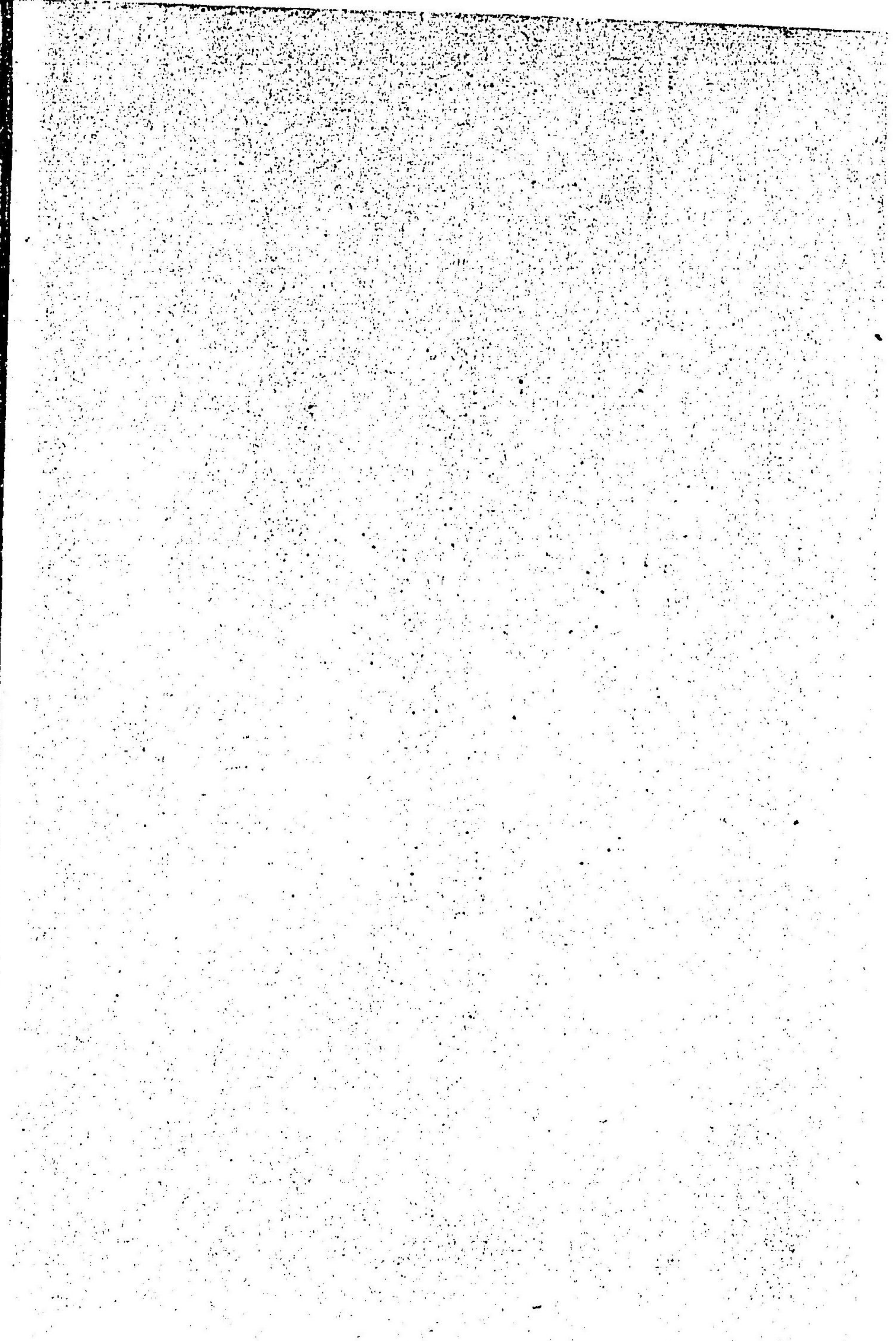
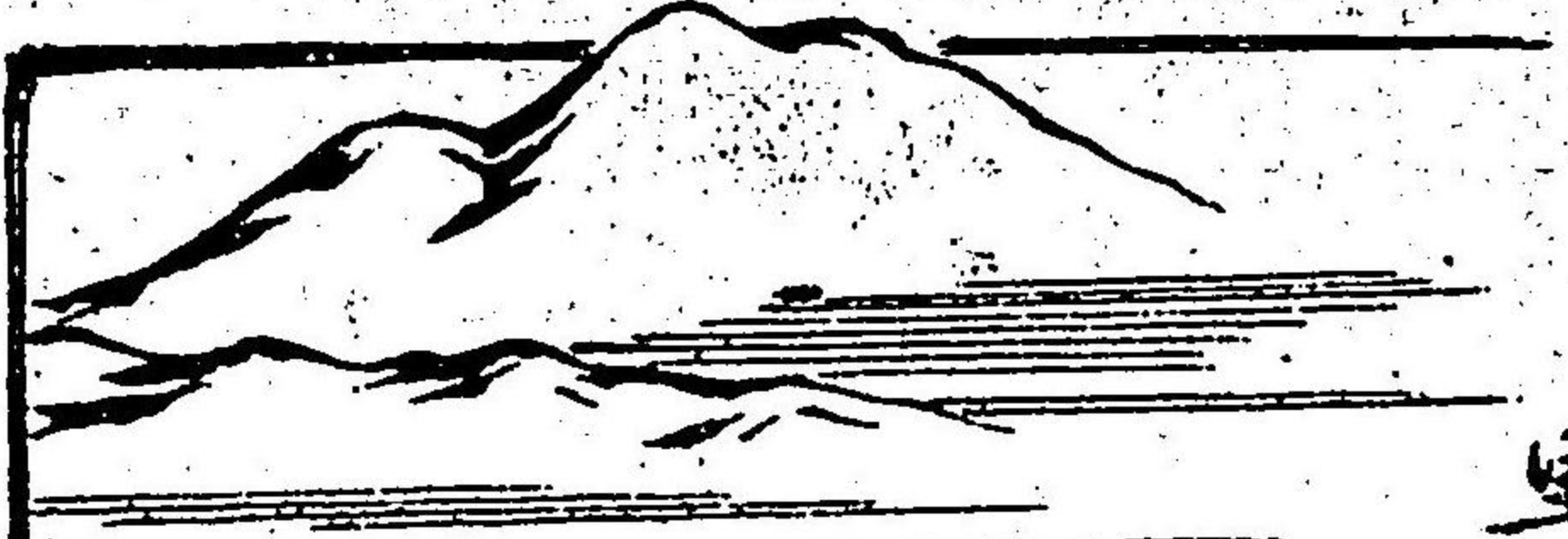


海日
陸水
しほ
の
歌
六

150





野上た文

洲崎魚揚

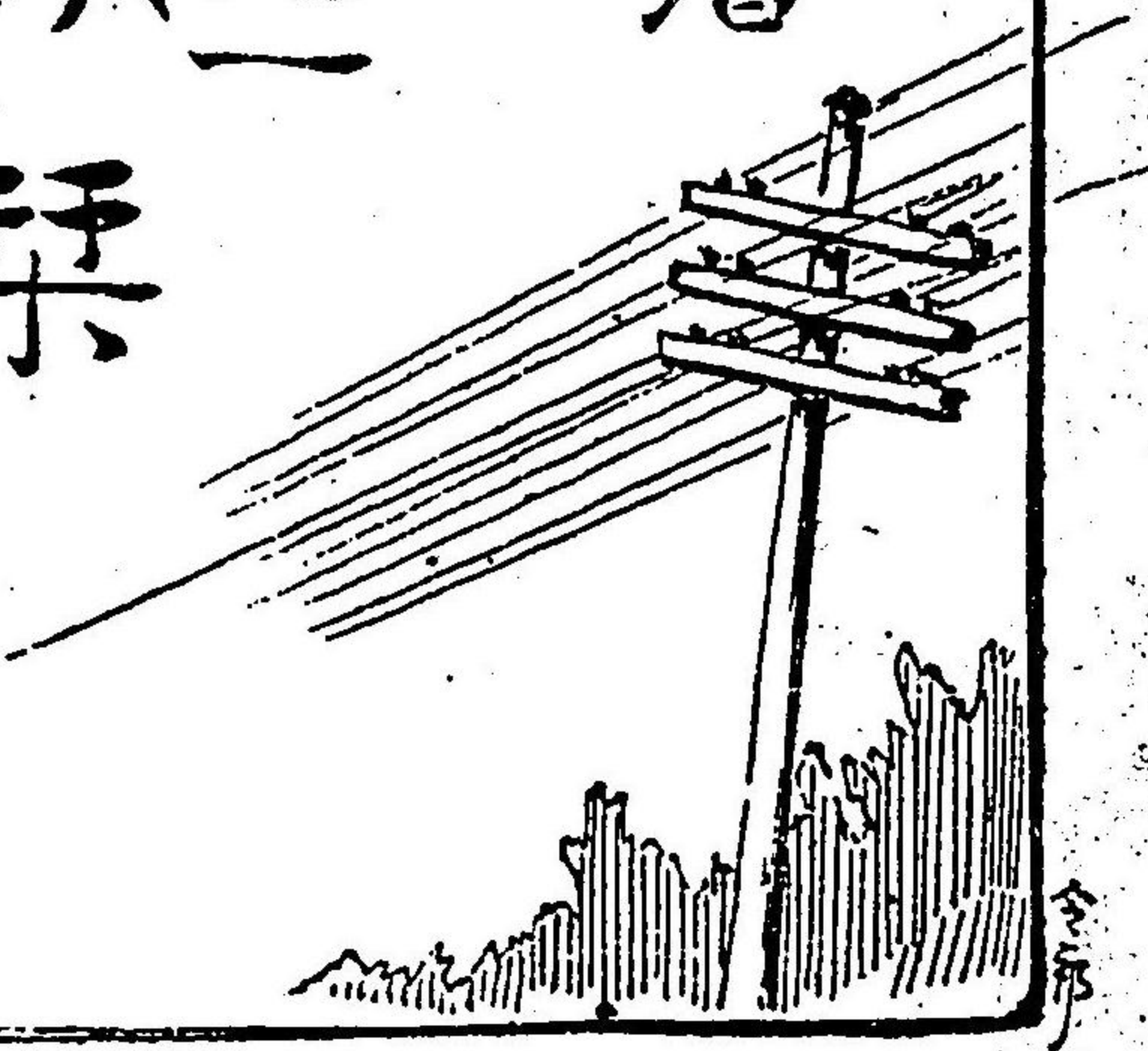
合著

日本
海陸漫

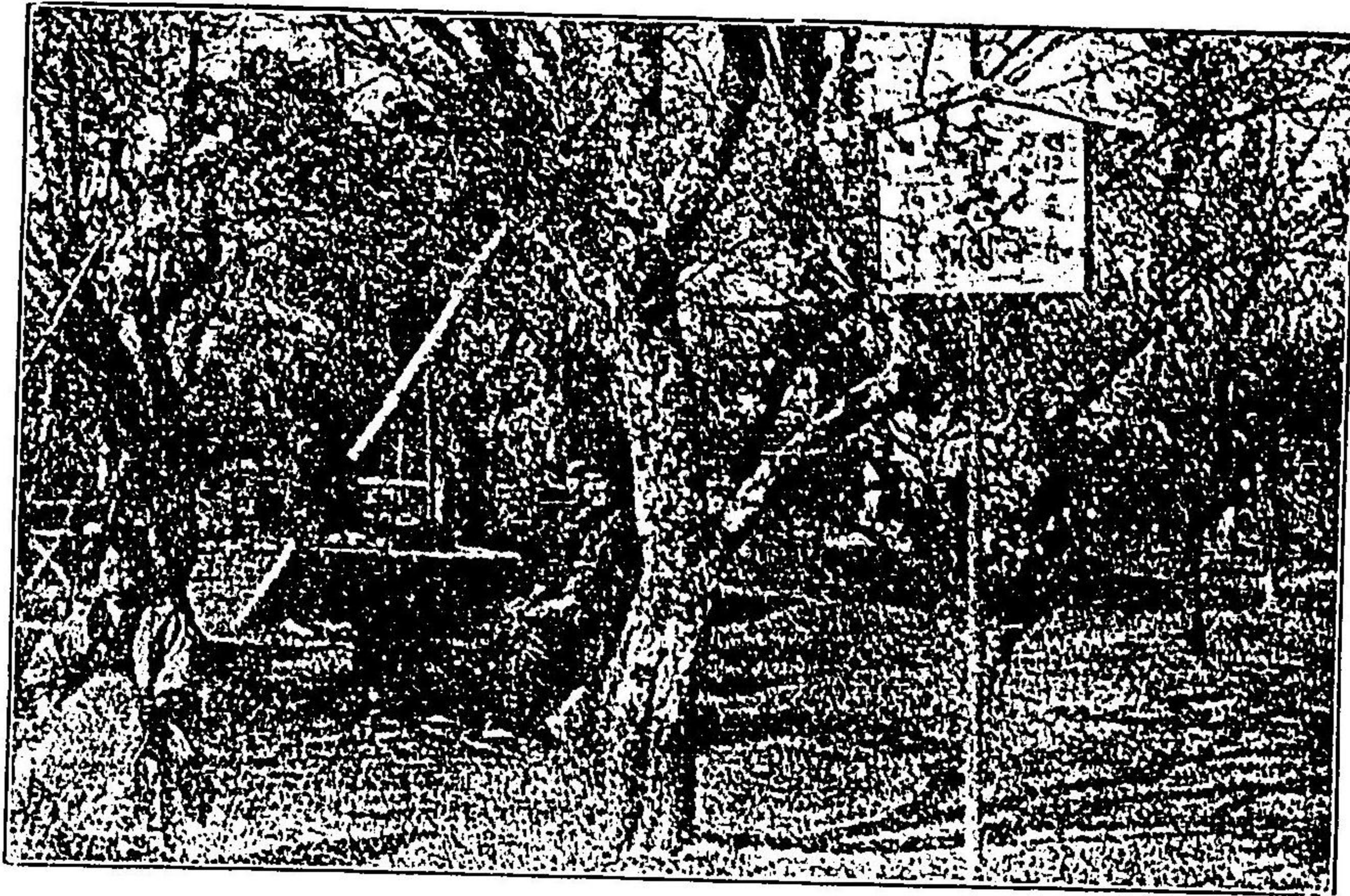
の指
葉

東部

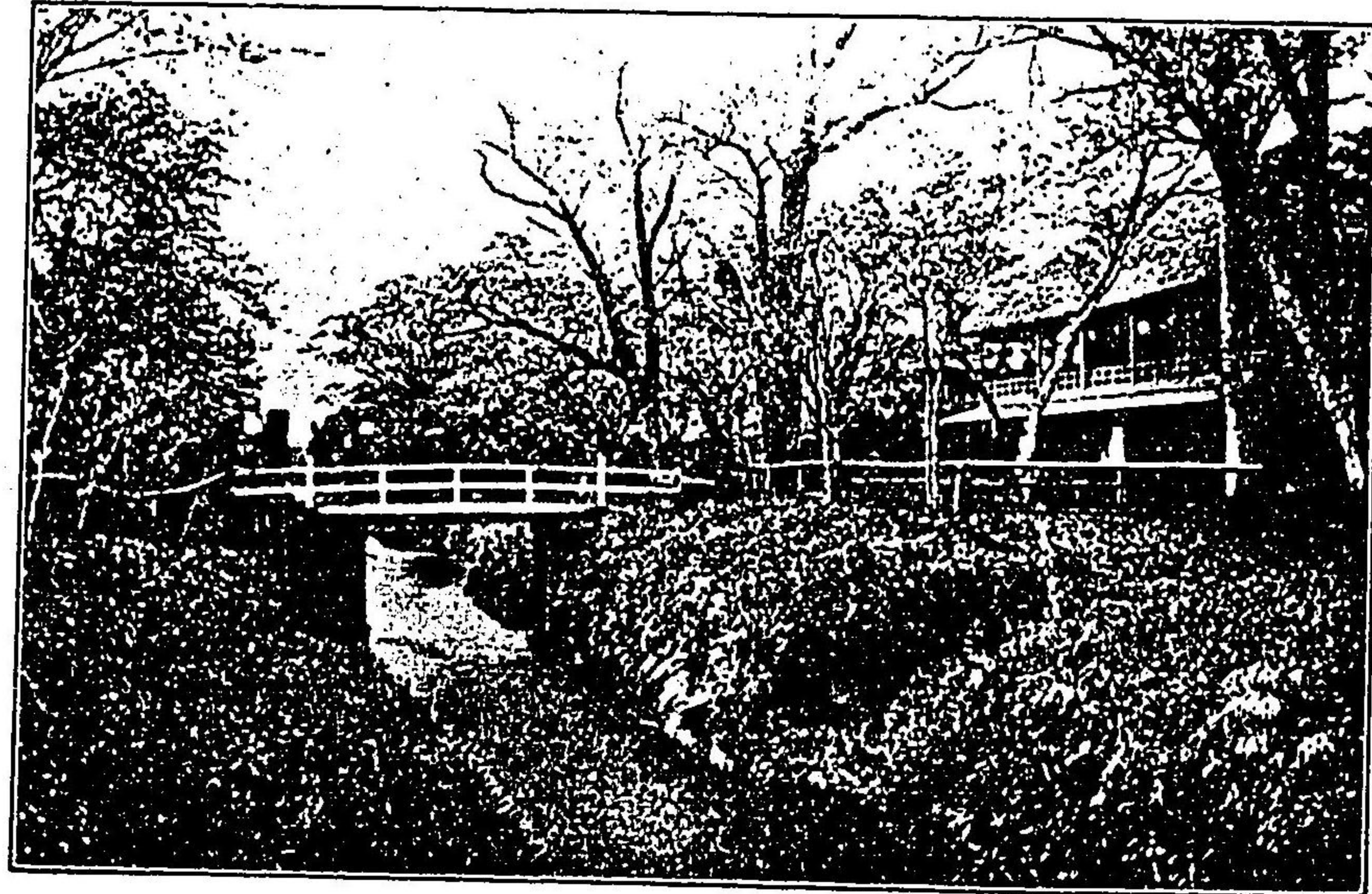
東京六六會藏版



全第



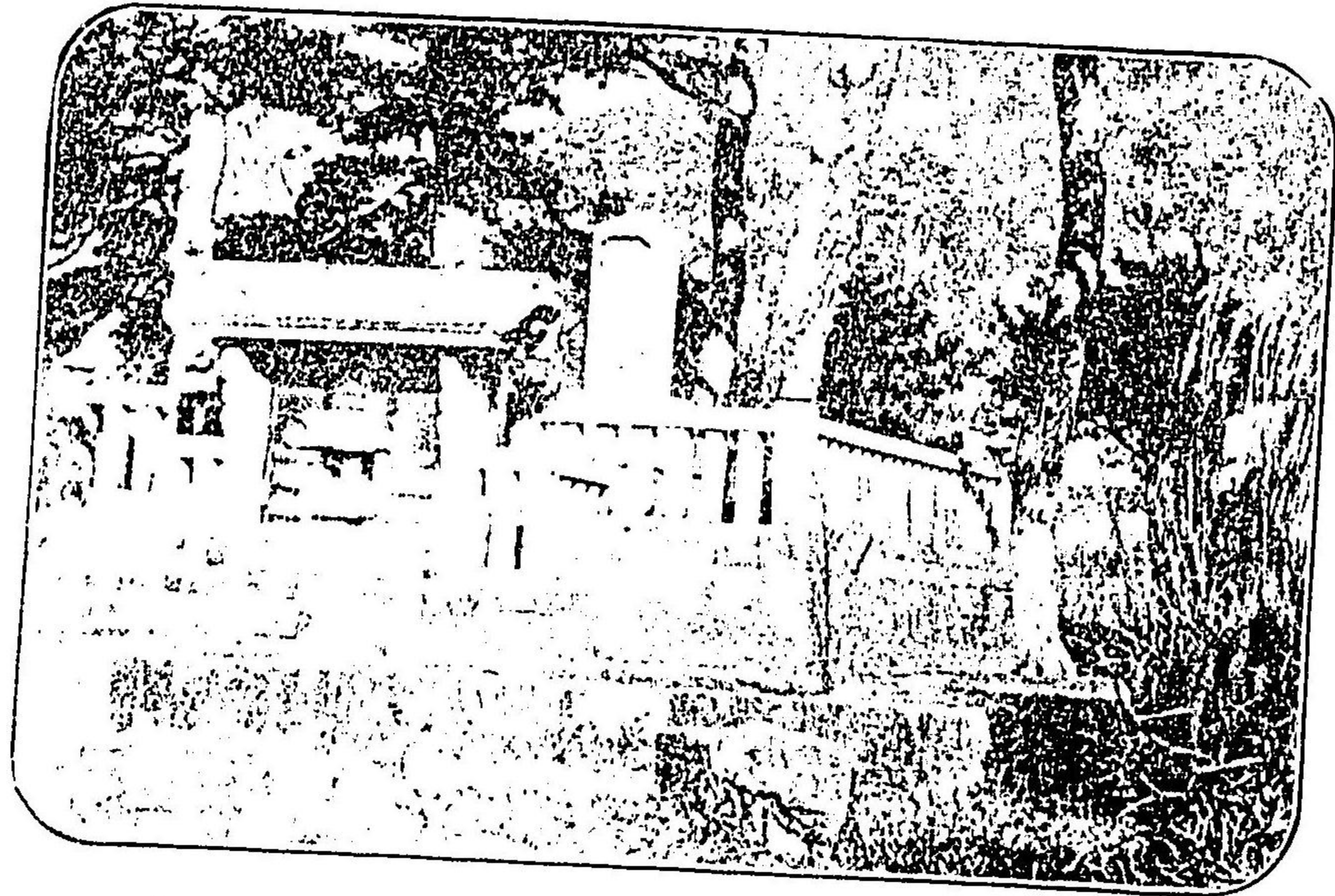
(藏武) 園梅井村小



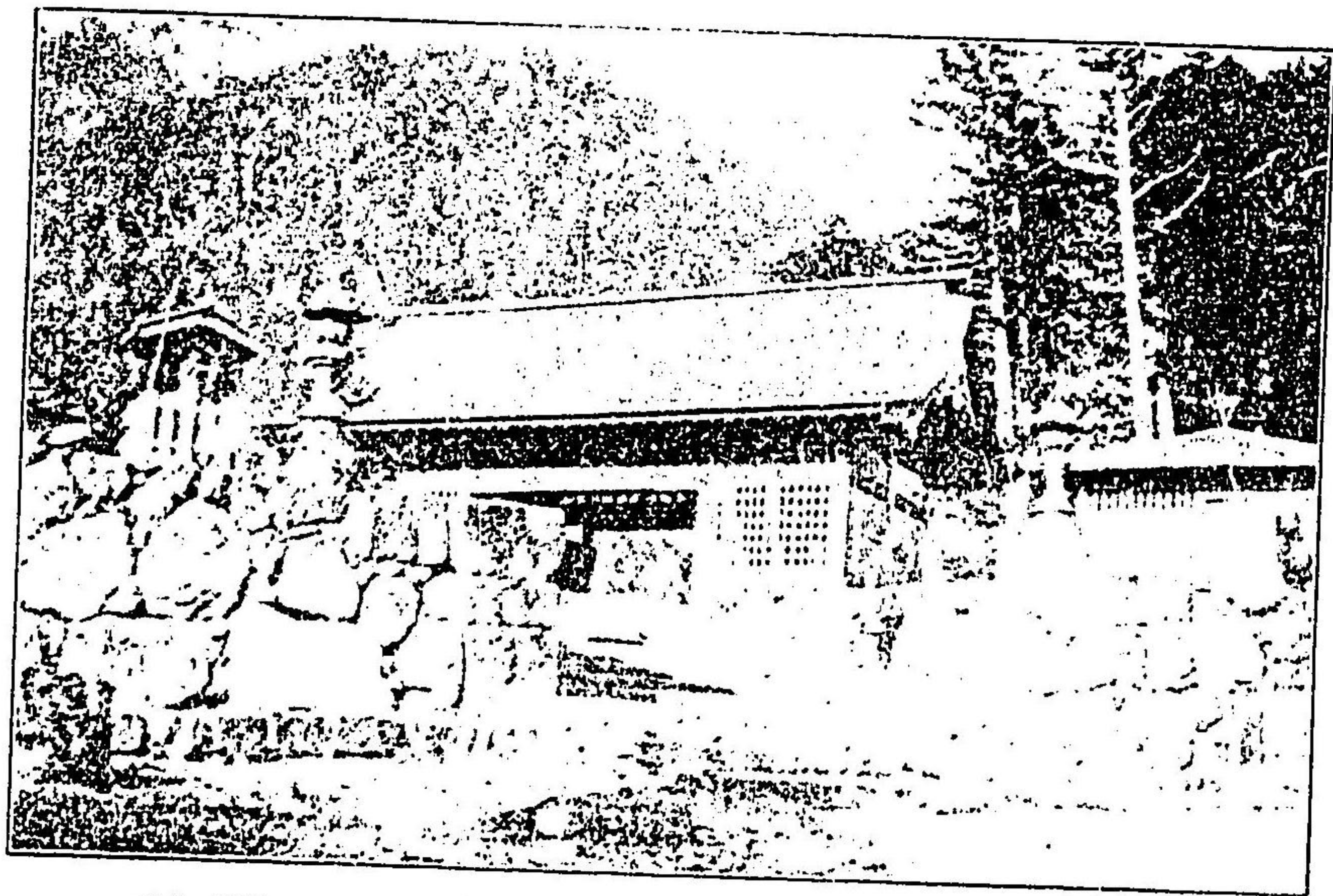
(上同) 花櫻の井金小



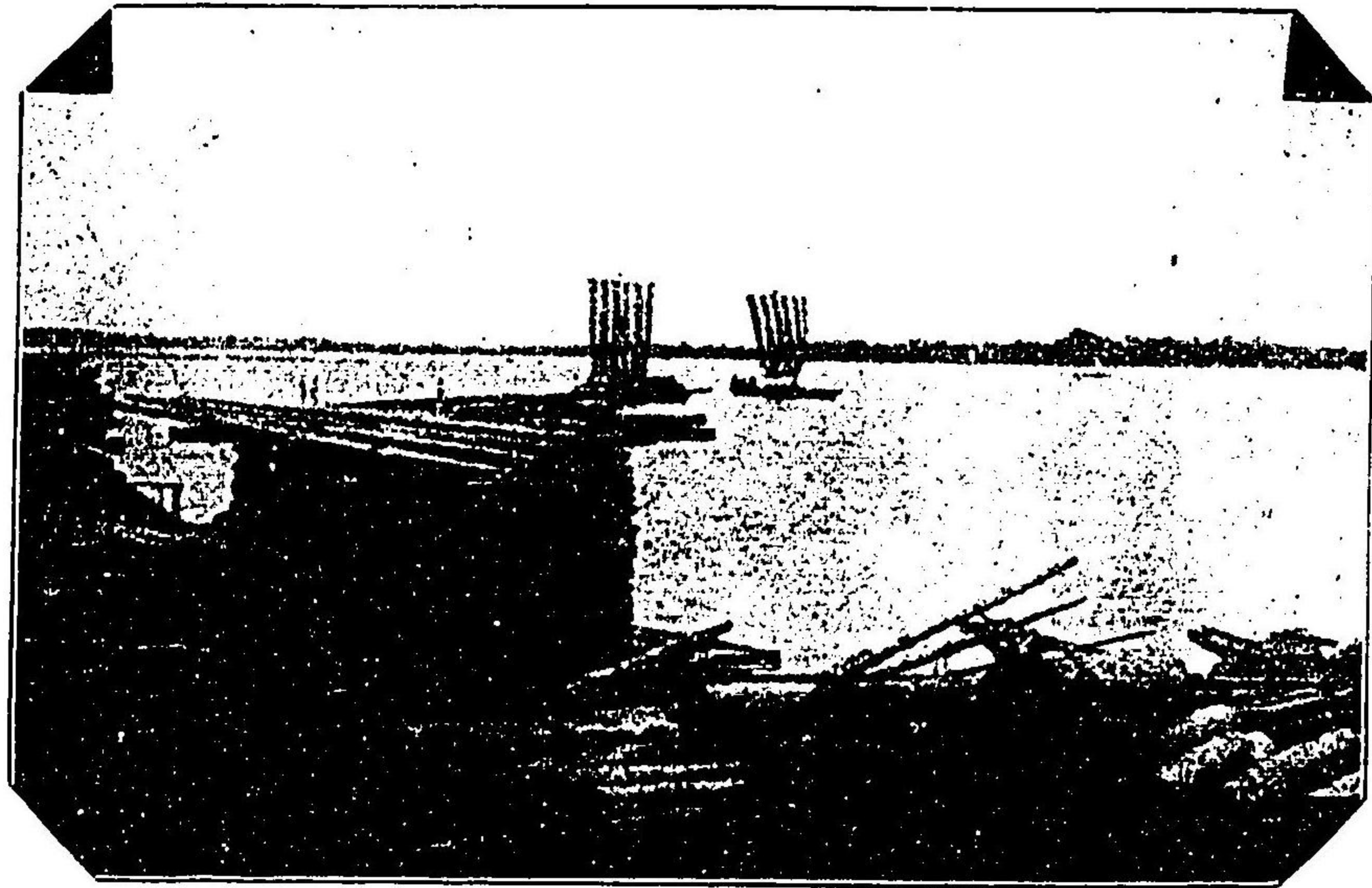
橋 隸
(斐甲)



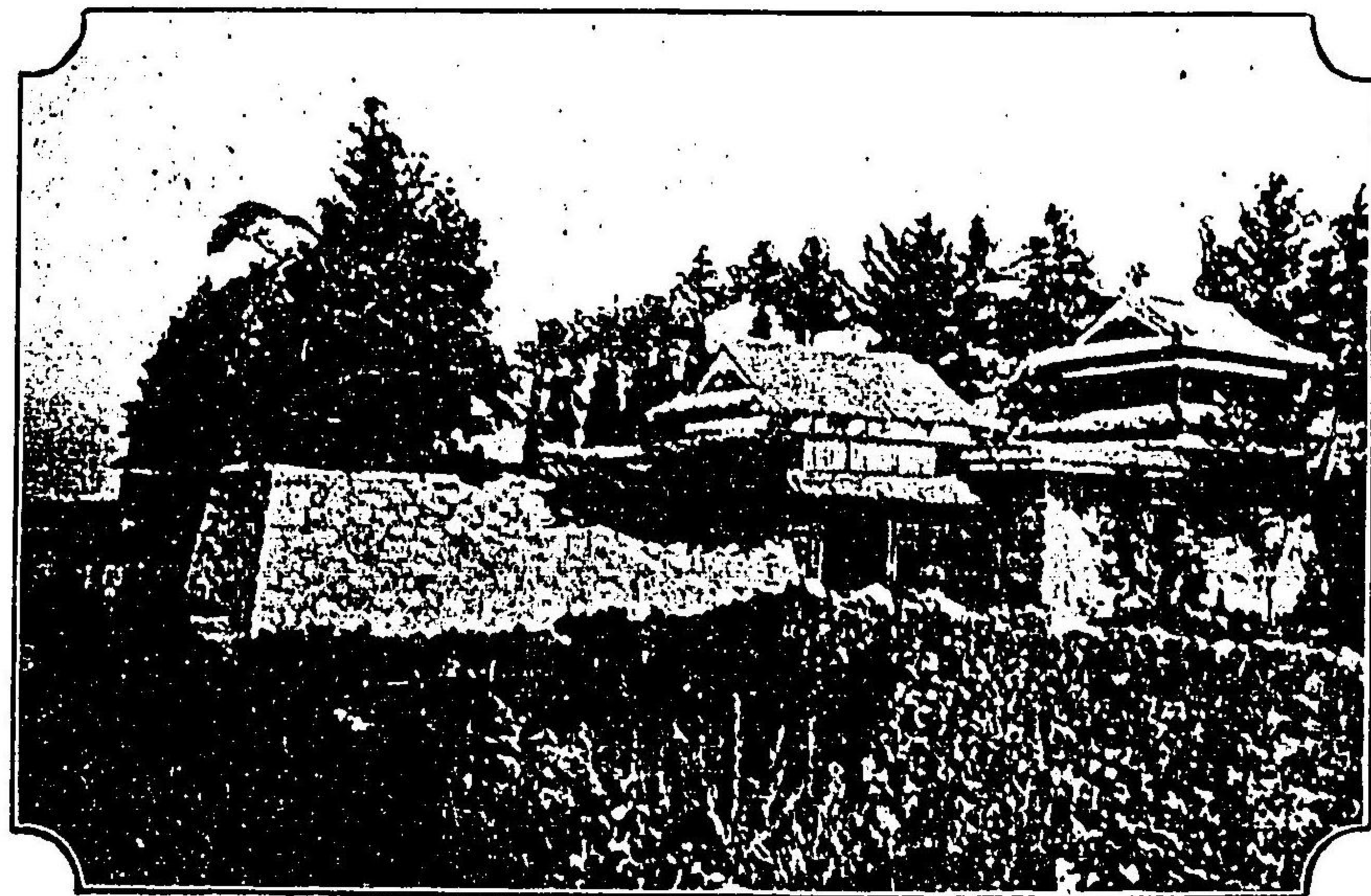
(斐甲) 武田信玄の墓



(上同) 身延山久遠寺



(新瀧) 川 濃 信



(信濃) 城 田 上

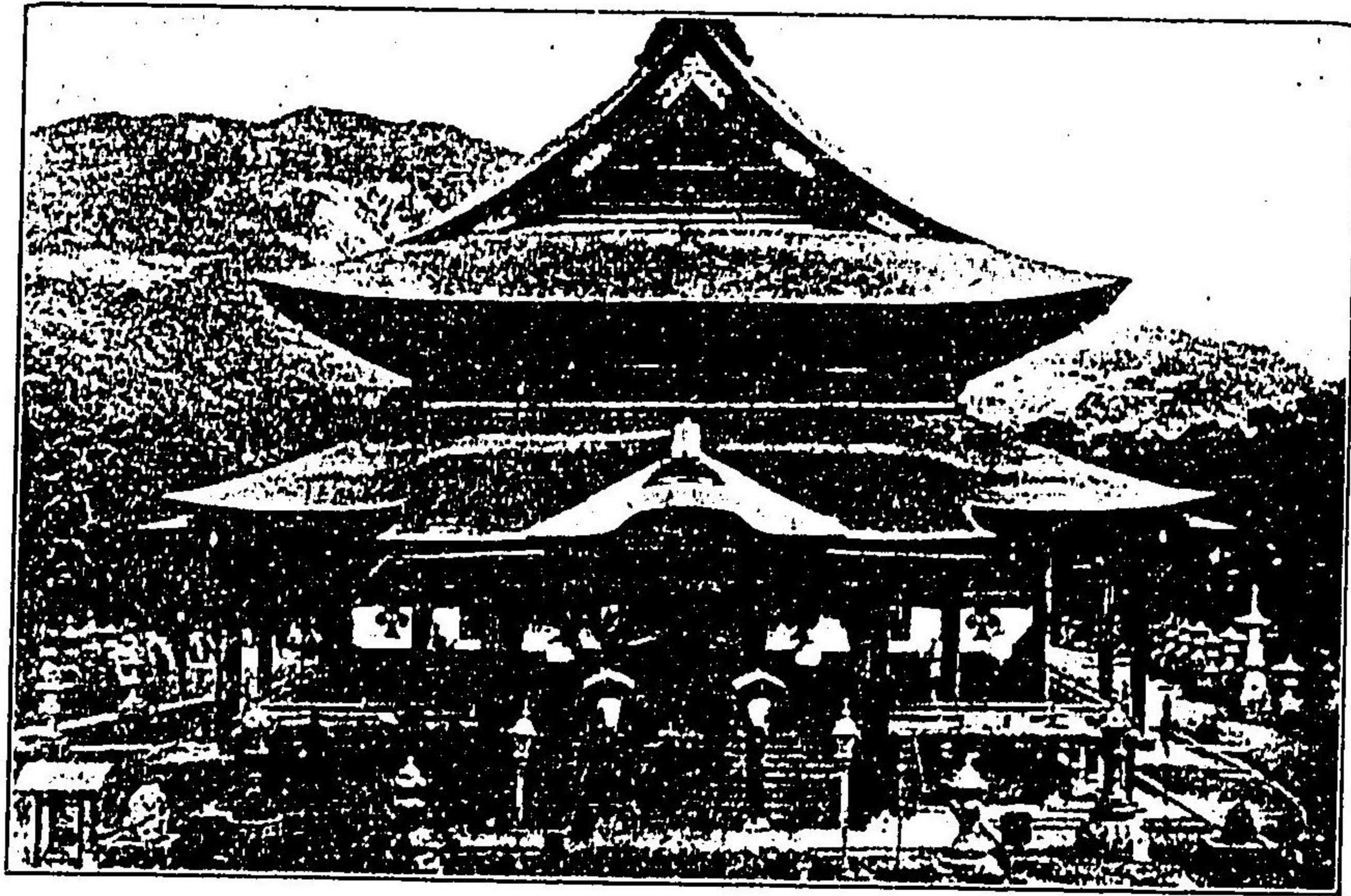


湖 景 一 景

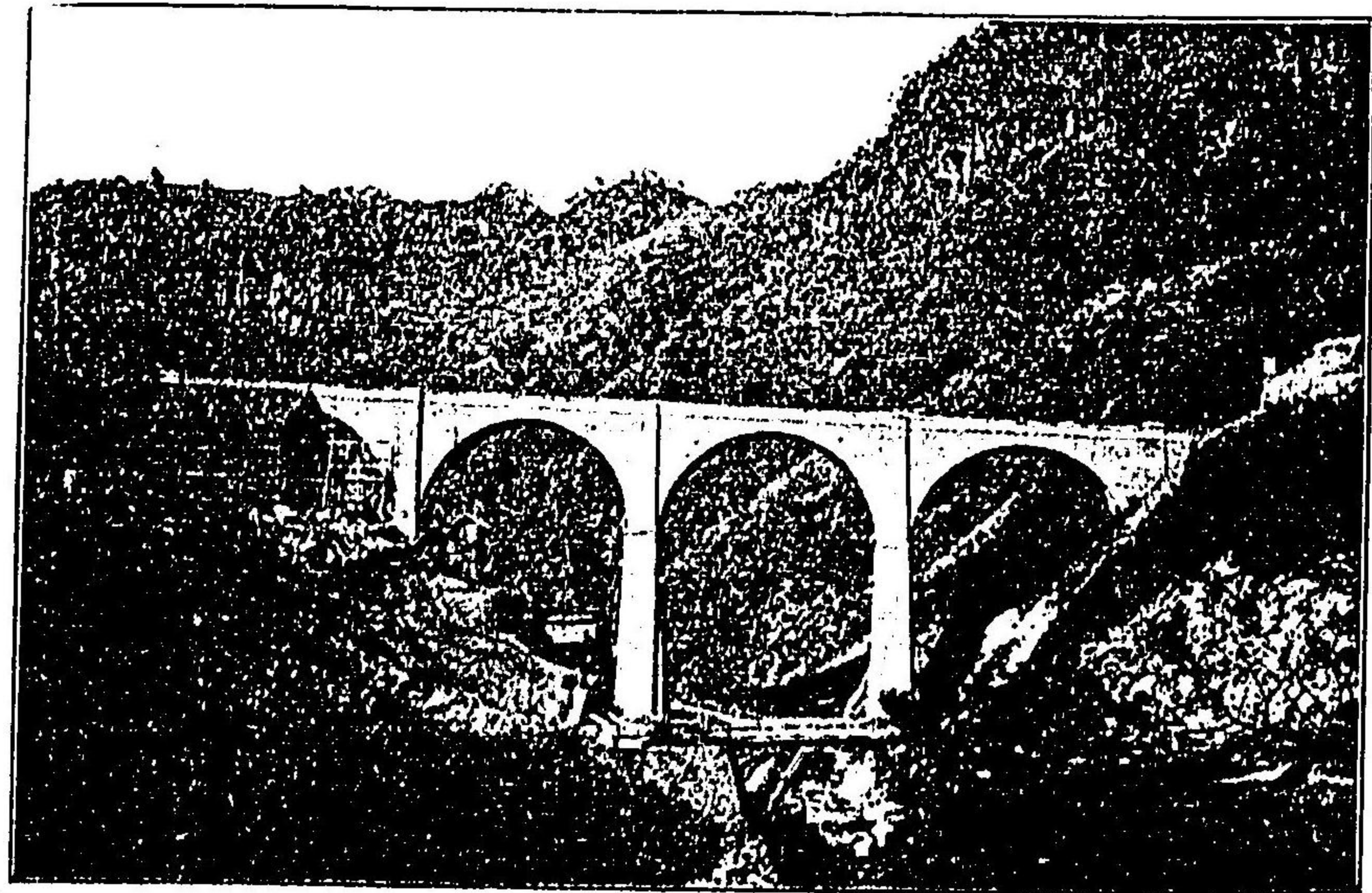


湖 景 二 景

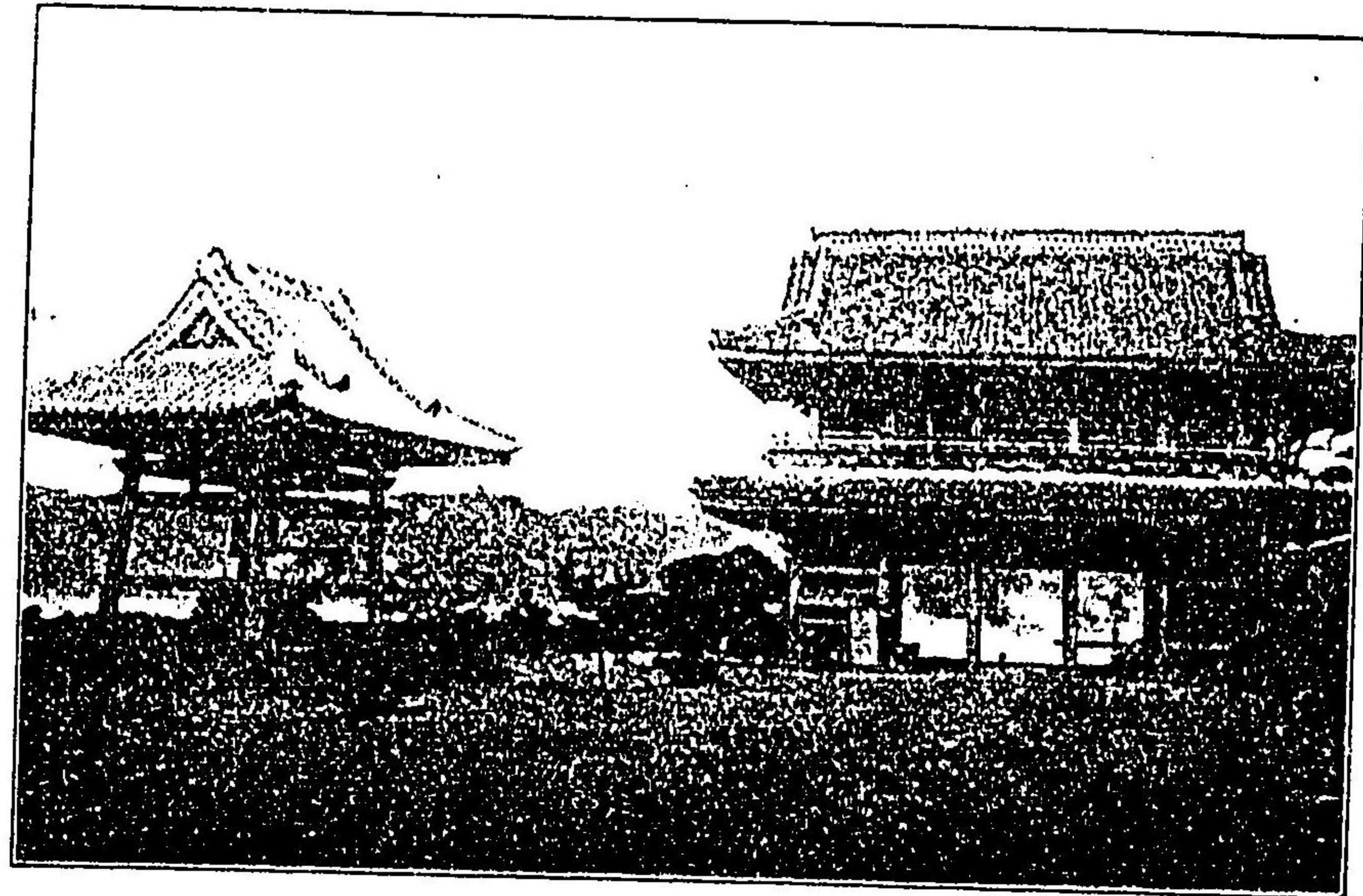




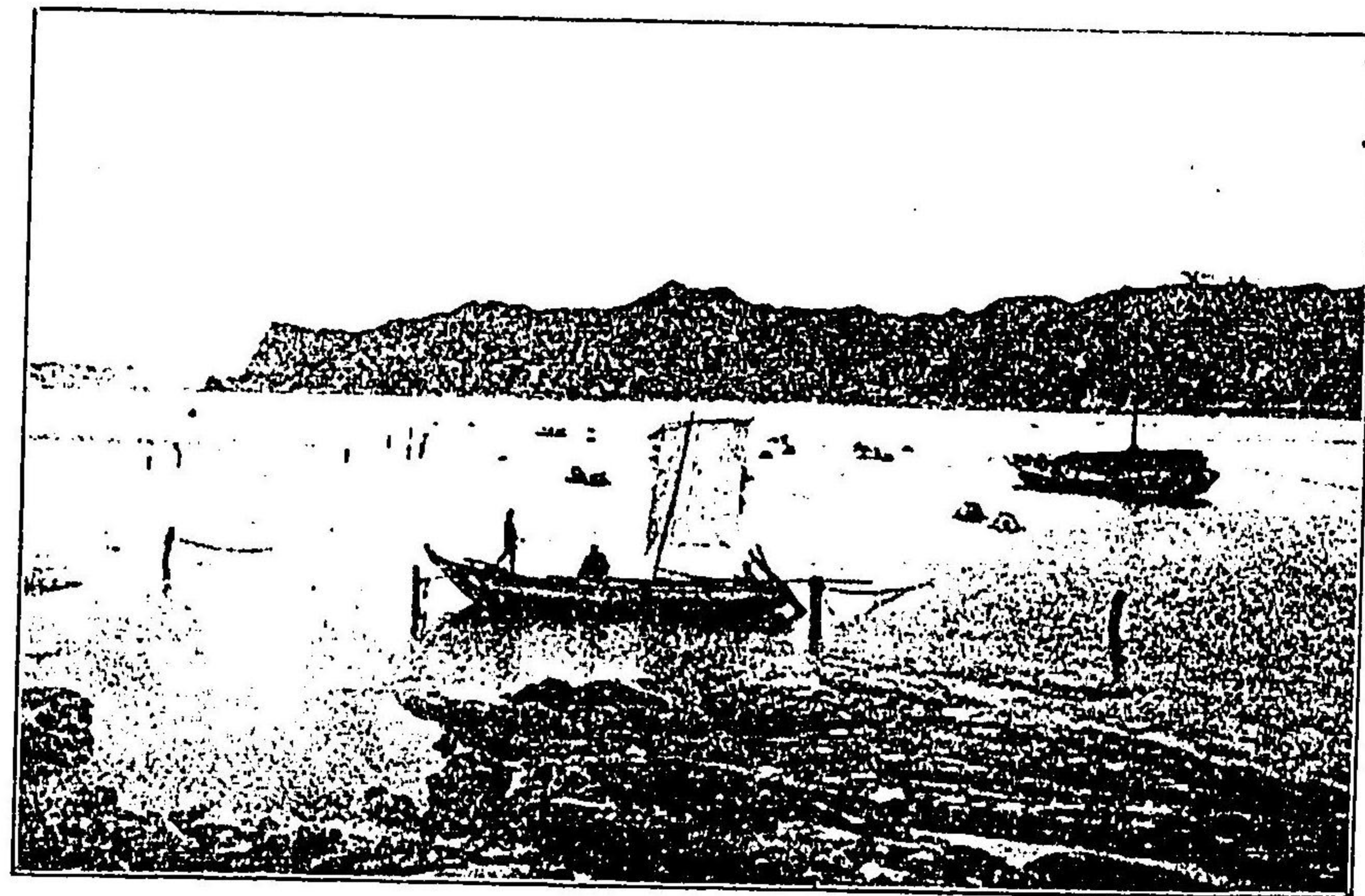
(濃信) 善光寺



(上同) 碓氷隧道路



(房安) 寺生誕淡小



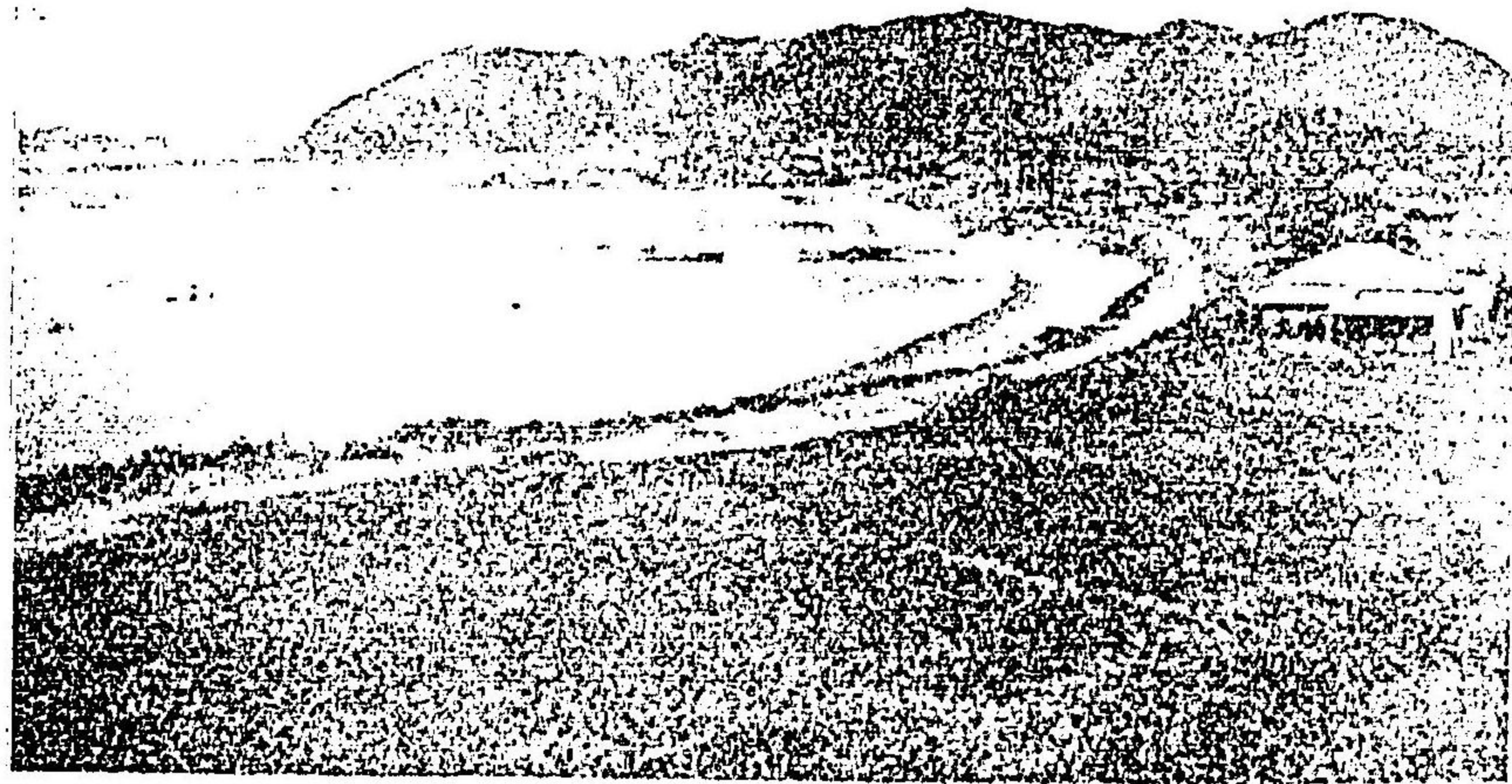
(上同) 浦の鯨



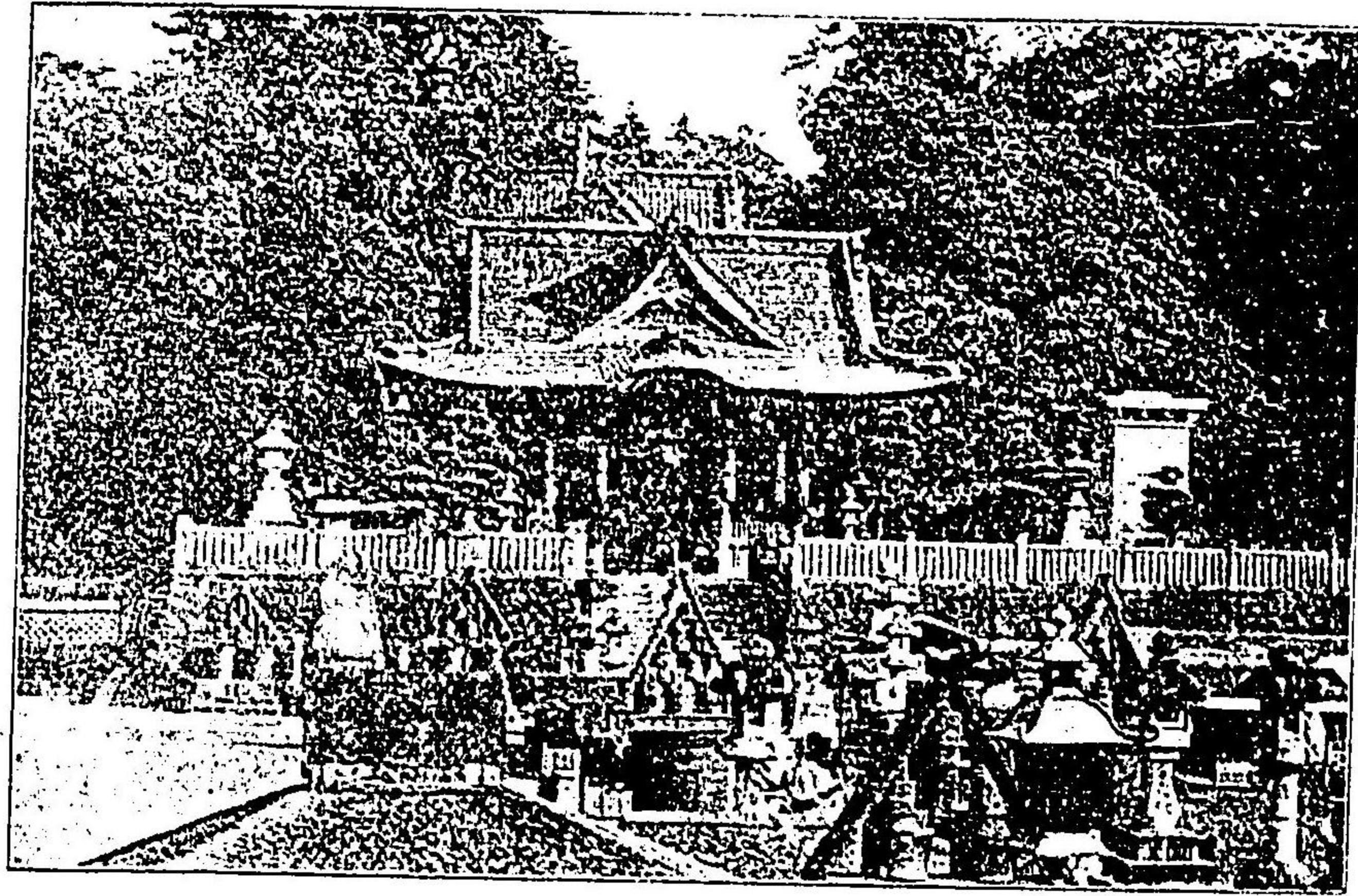
音 觀 古 那
(房 安)



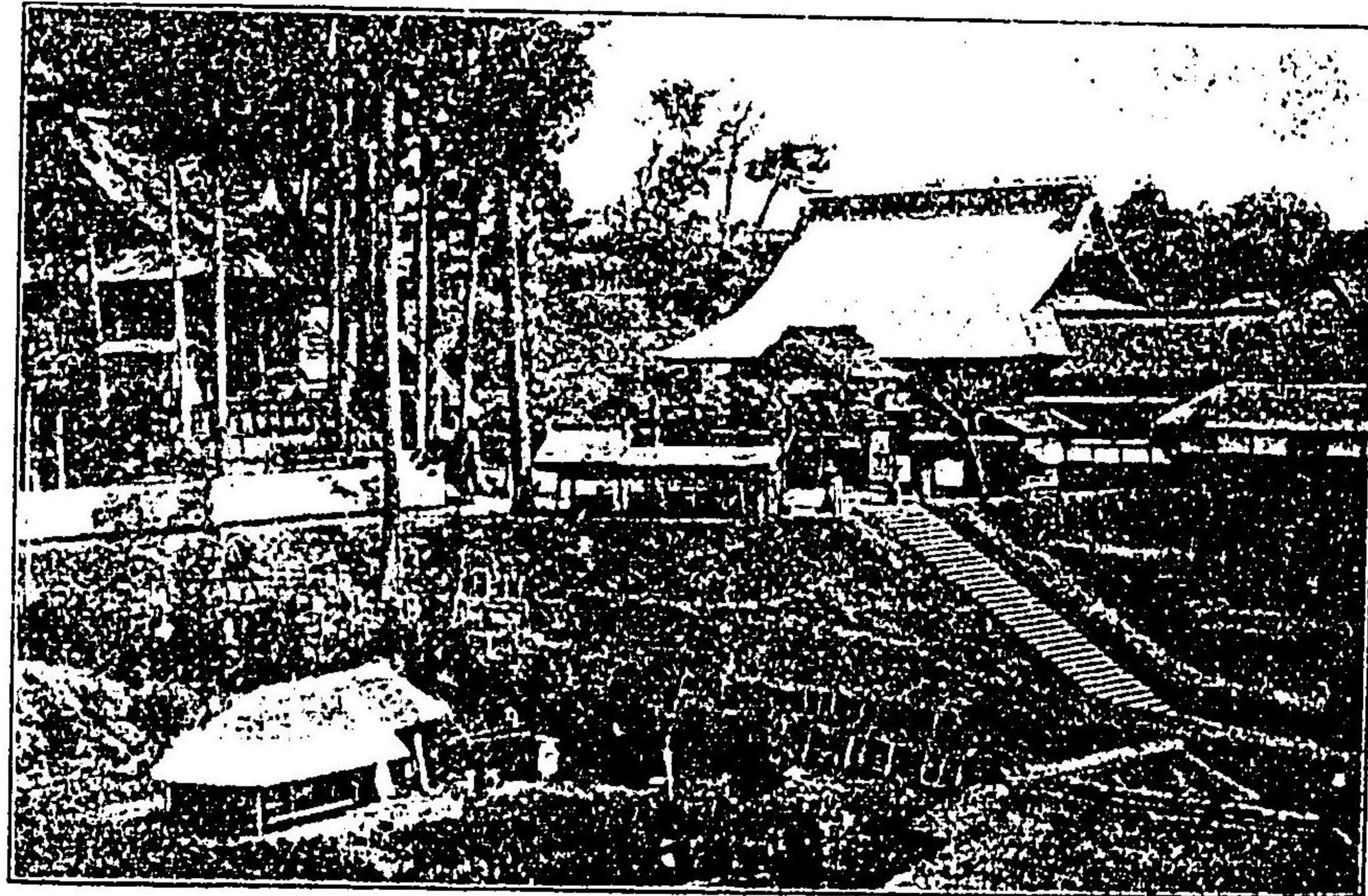
(房安) 浦 鏡 條 北



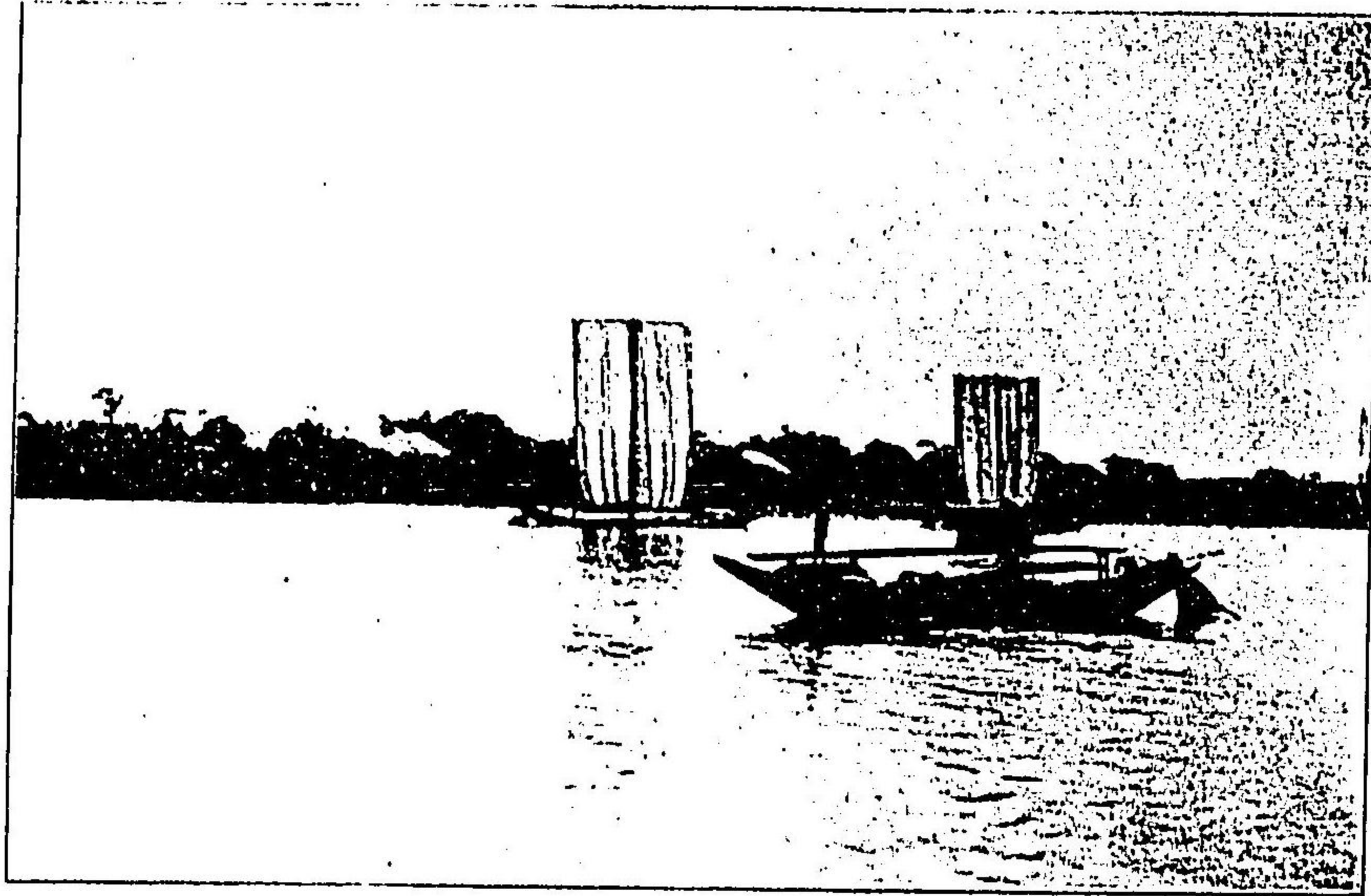
(上同) 岸 湖 山 鏡



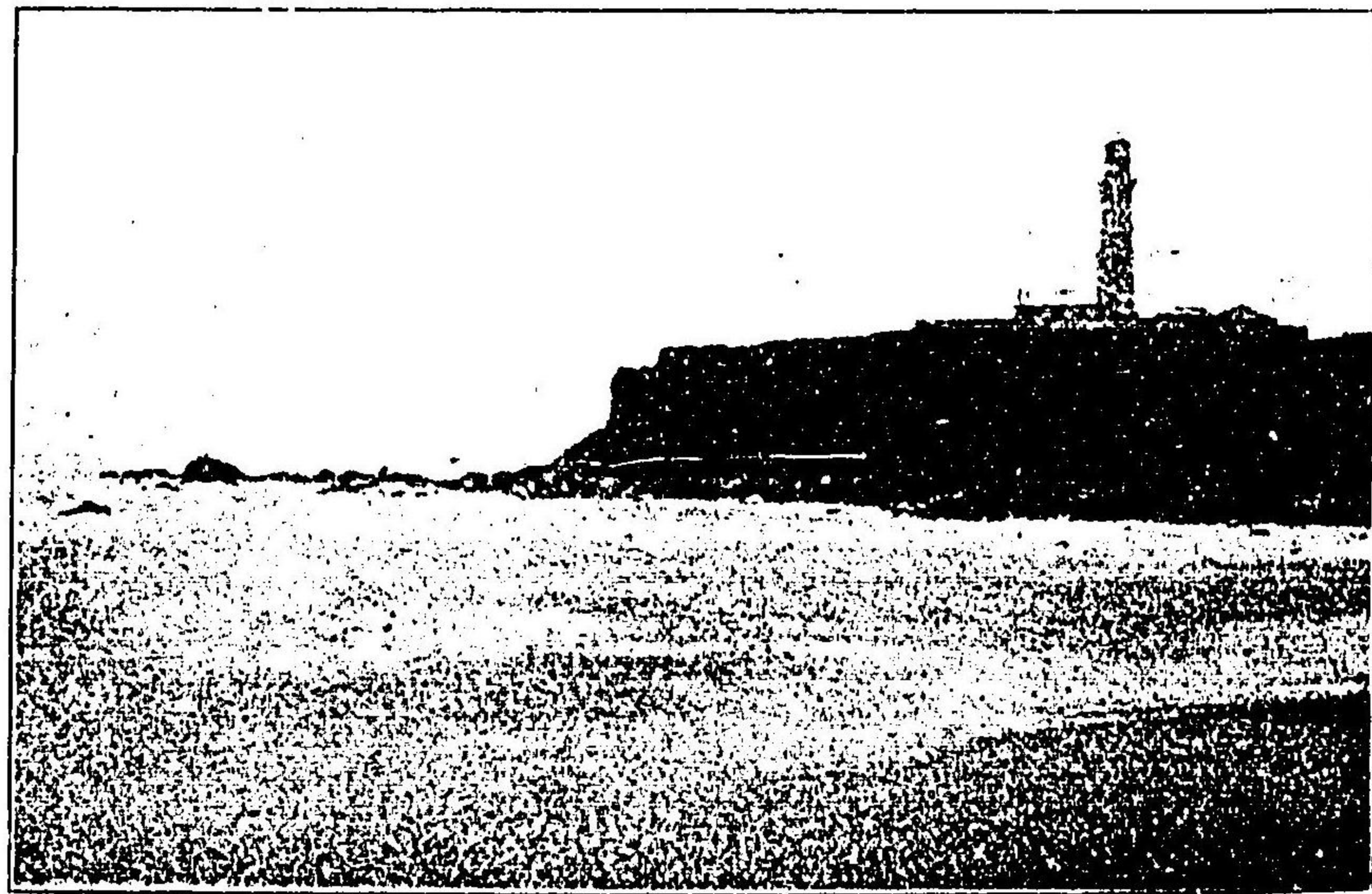
(線下) 成田不動尊



(上同) 芝山二王尊



(總下) 川 根 利



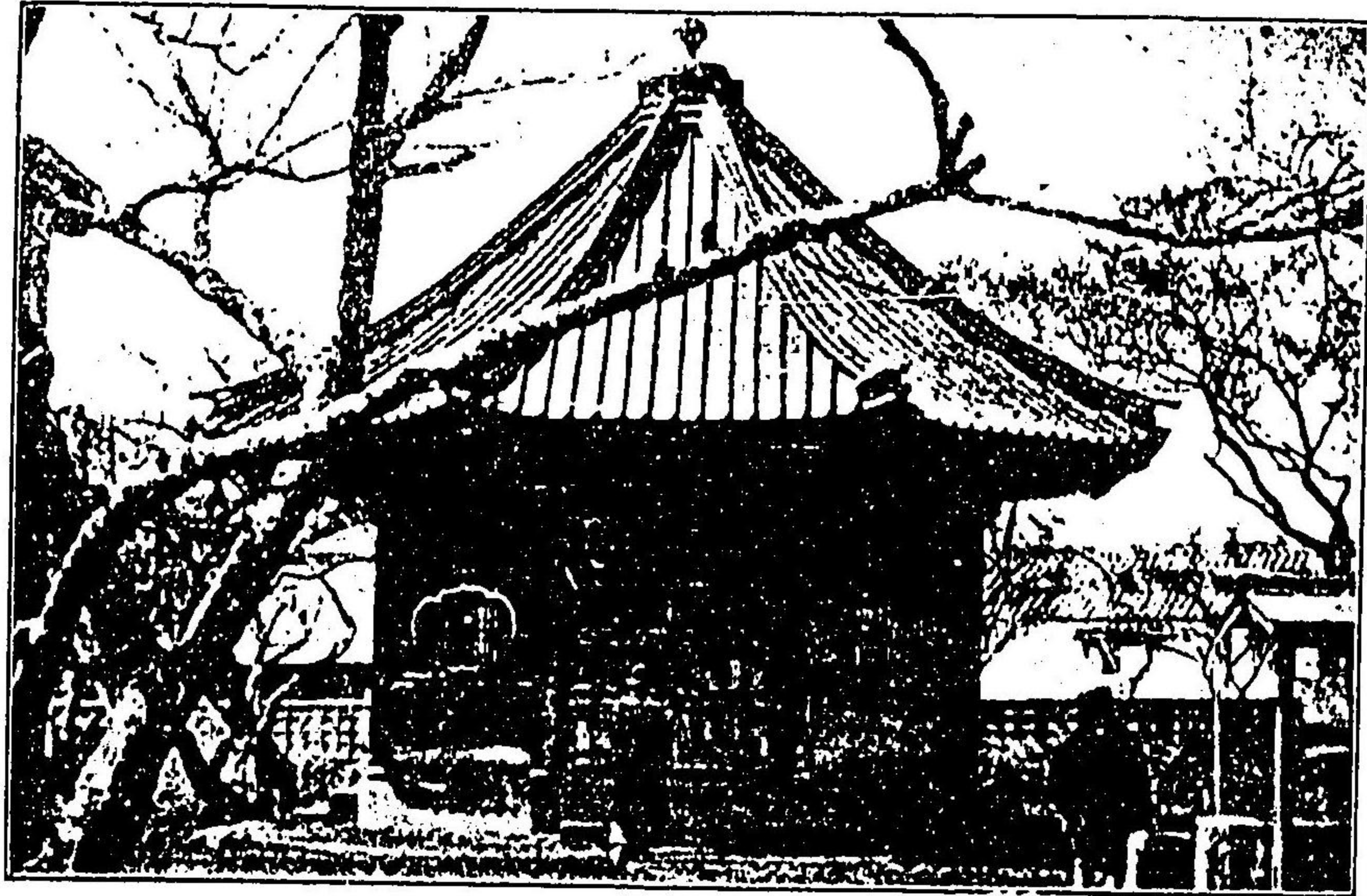
(上同) 臺 燈 崎 吠 犬



11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.



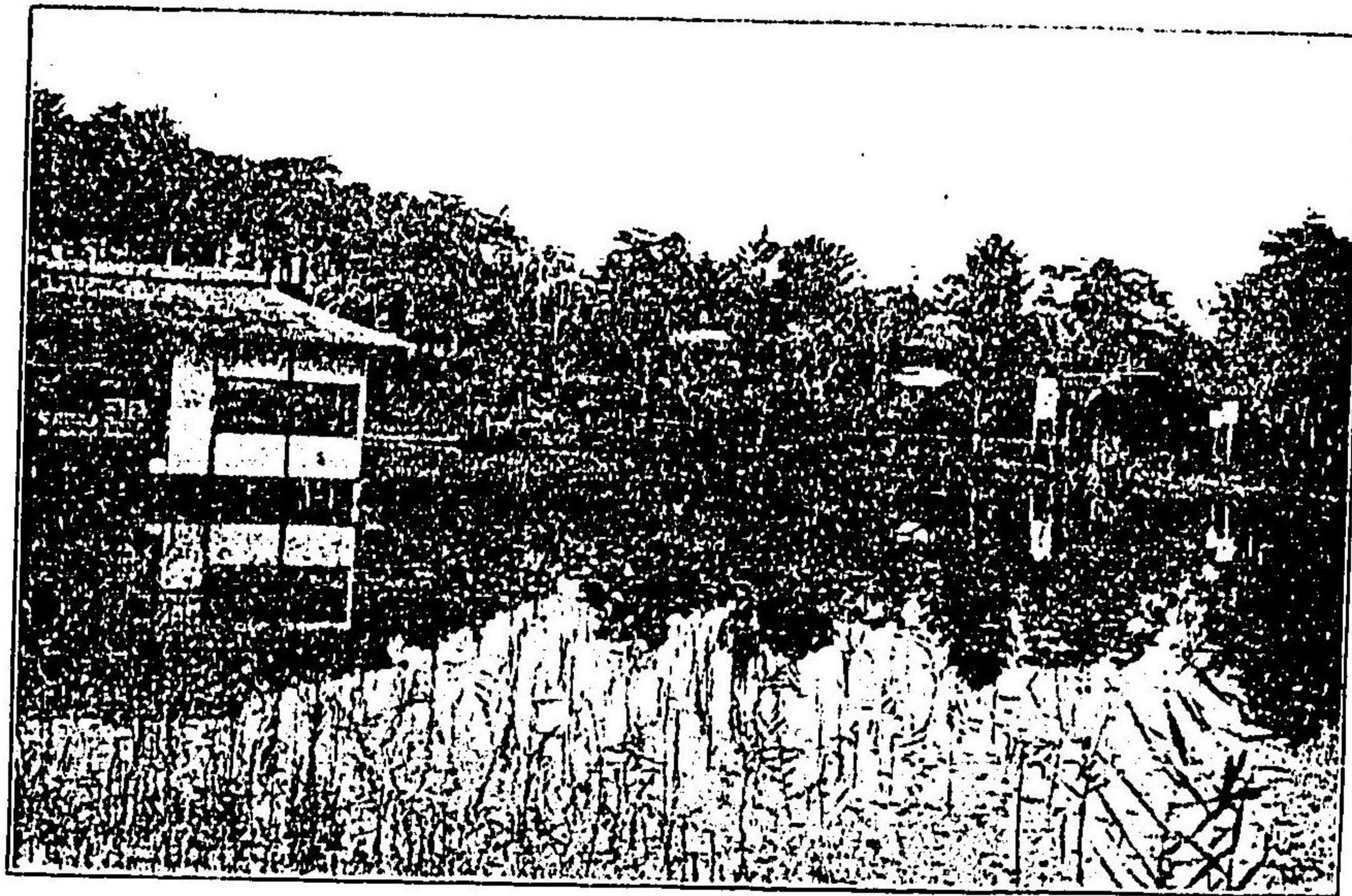
(上同) 海軍海軍人



(陸常) 水戸第二公園



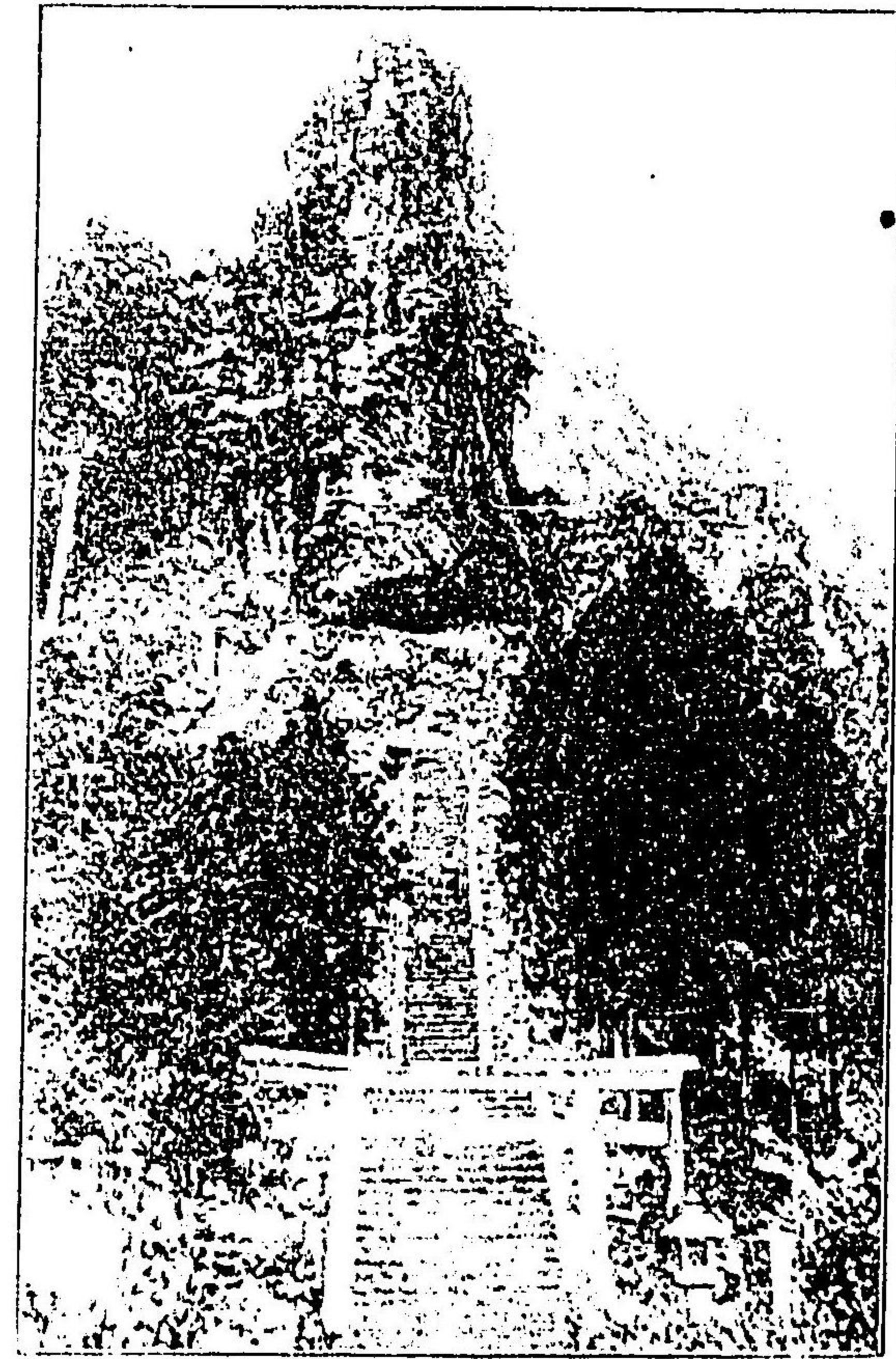
(上同) 平 湯



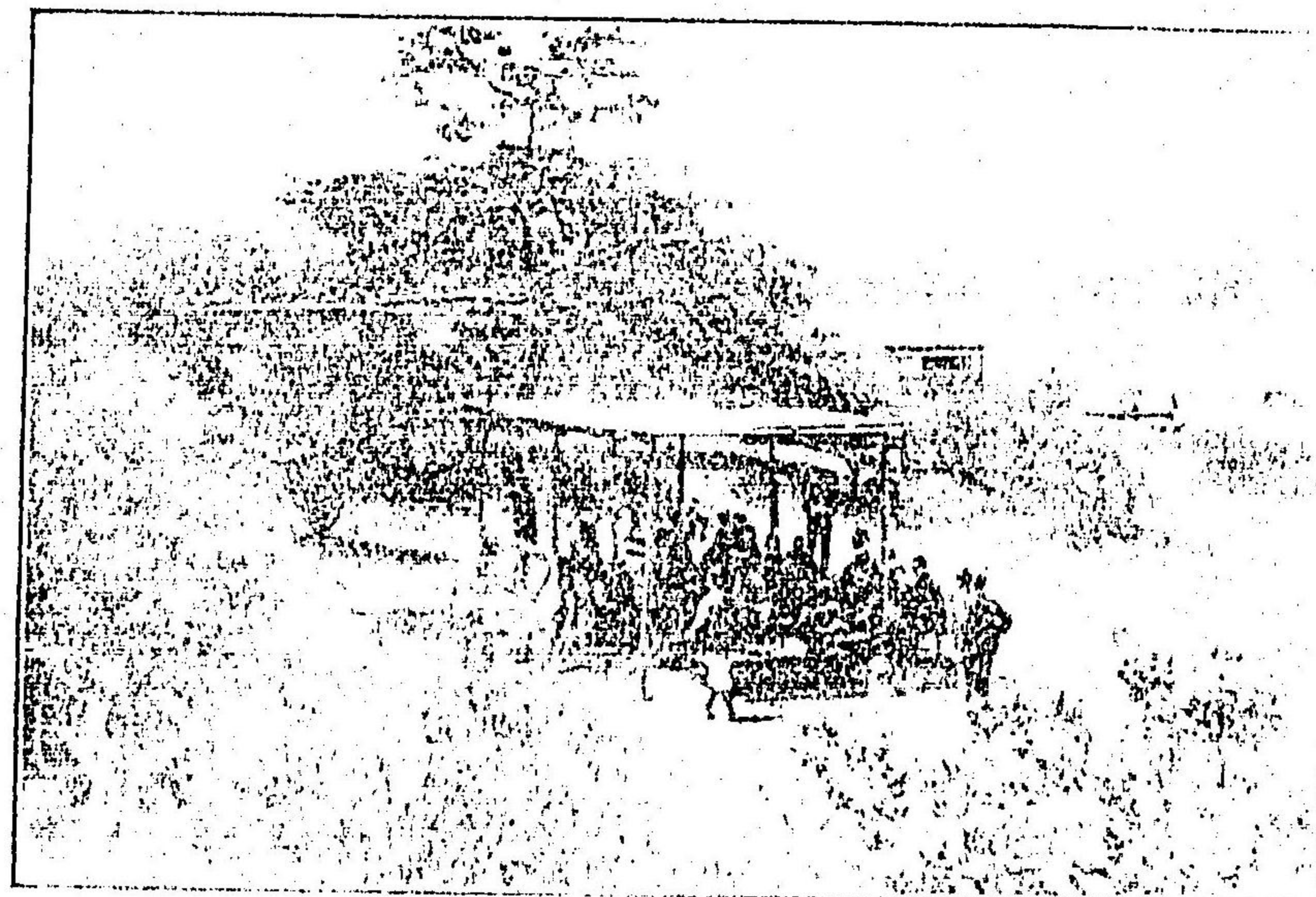
(藏武) 園公宮大



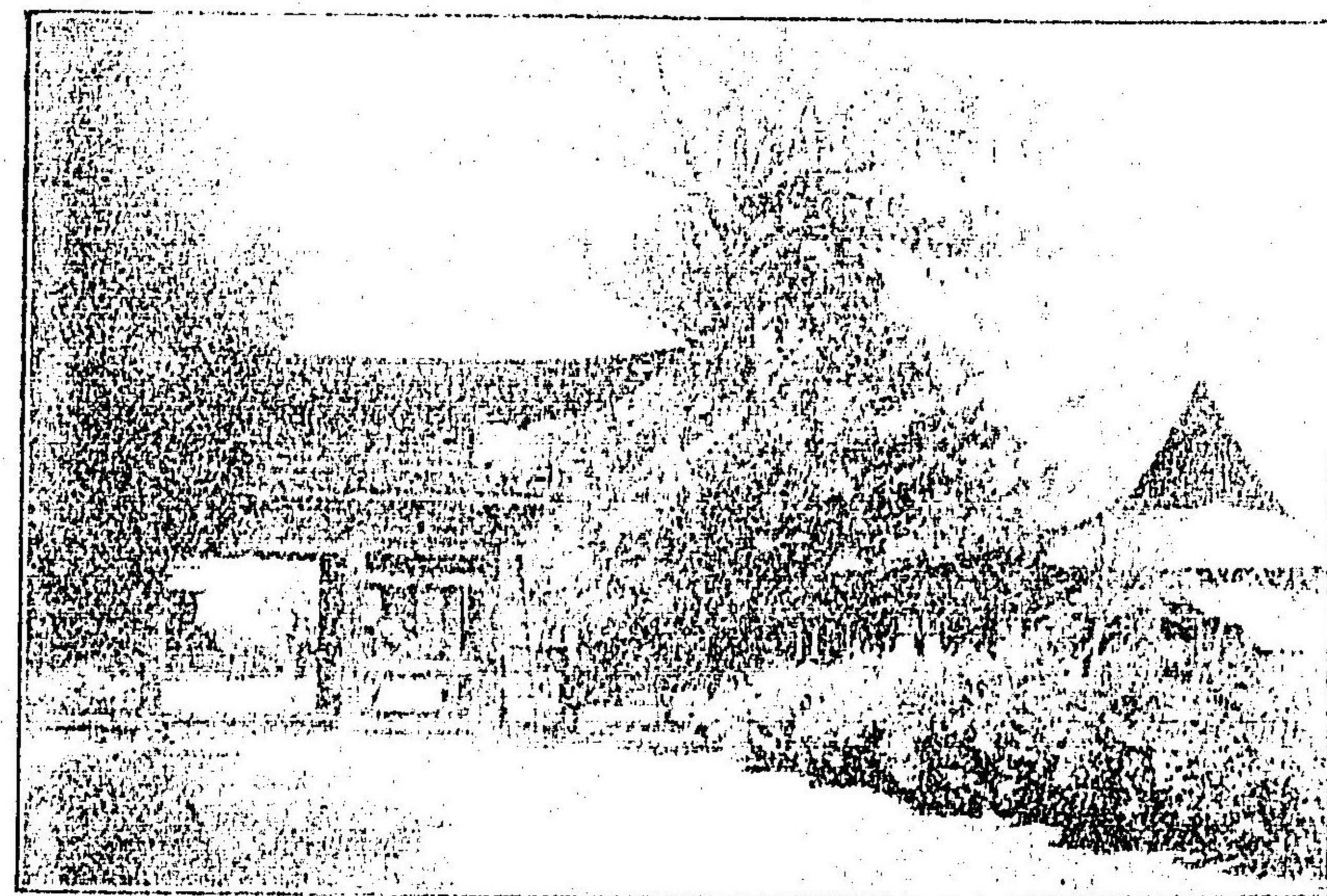
(野上) 社神名様



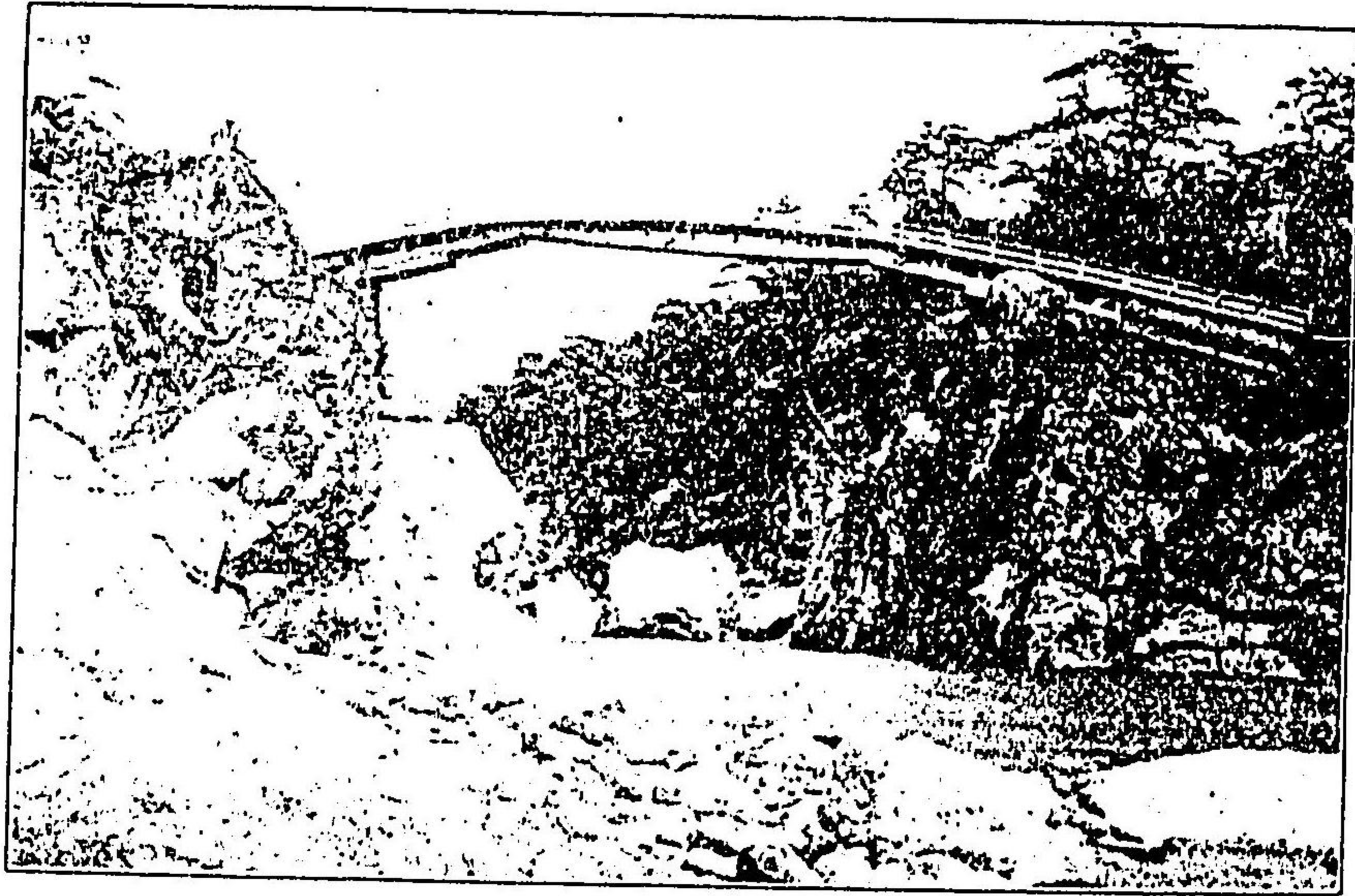
山 養 妙
(野上)



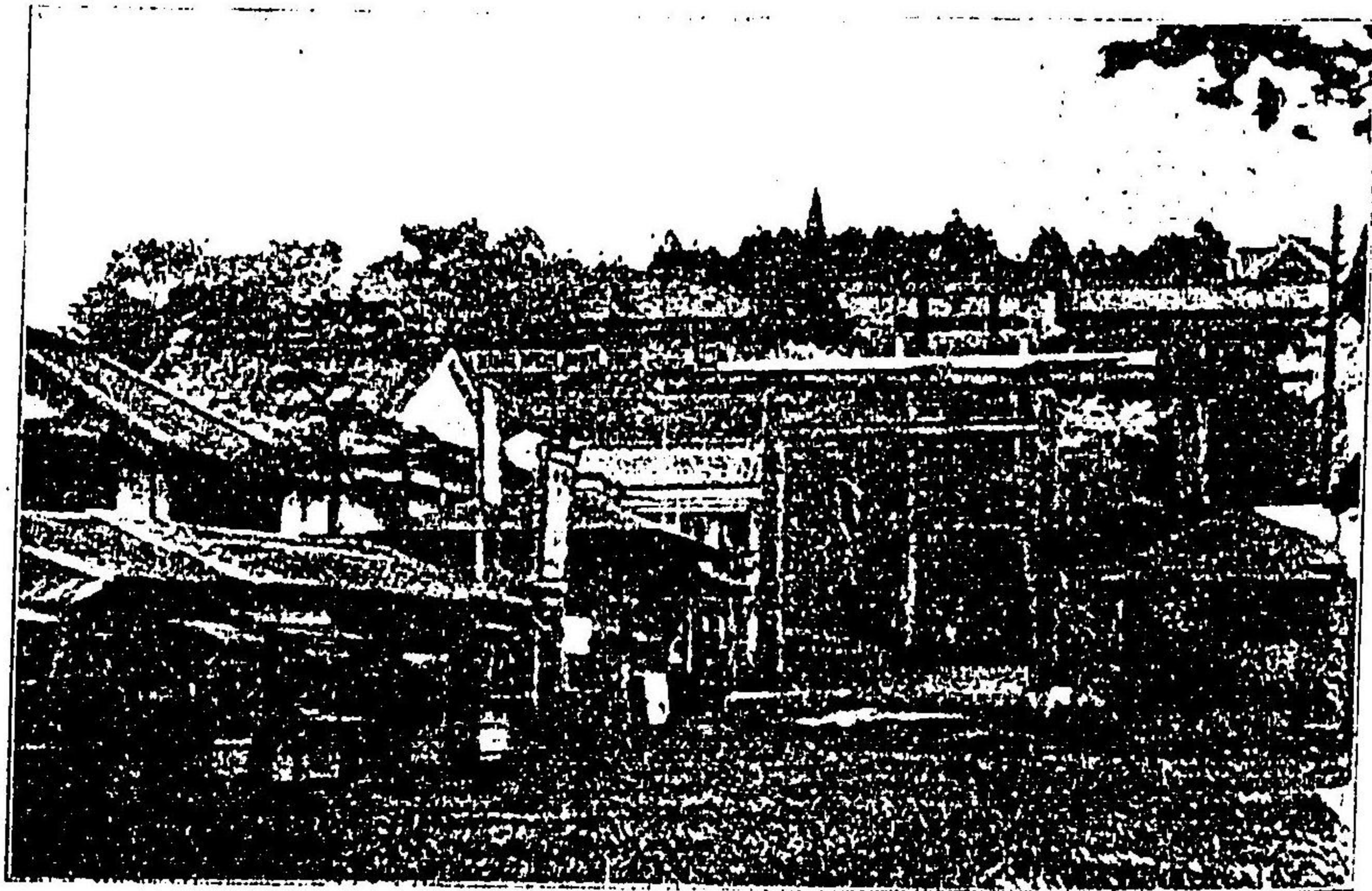
(圖1) 園公林館



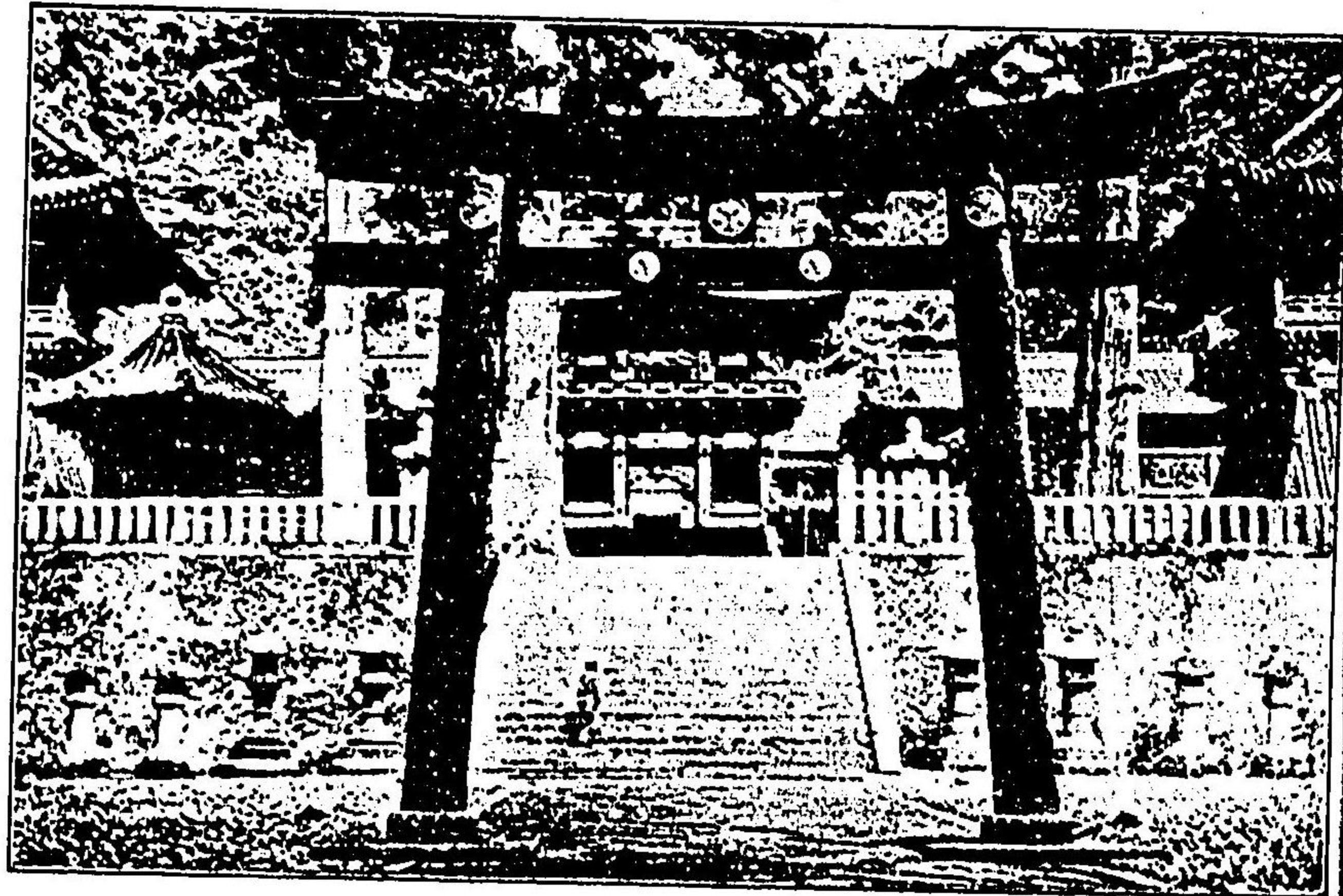
(上同) 亭林茂林館



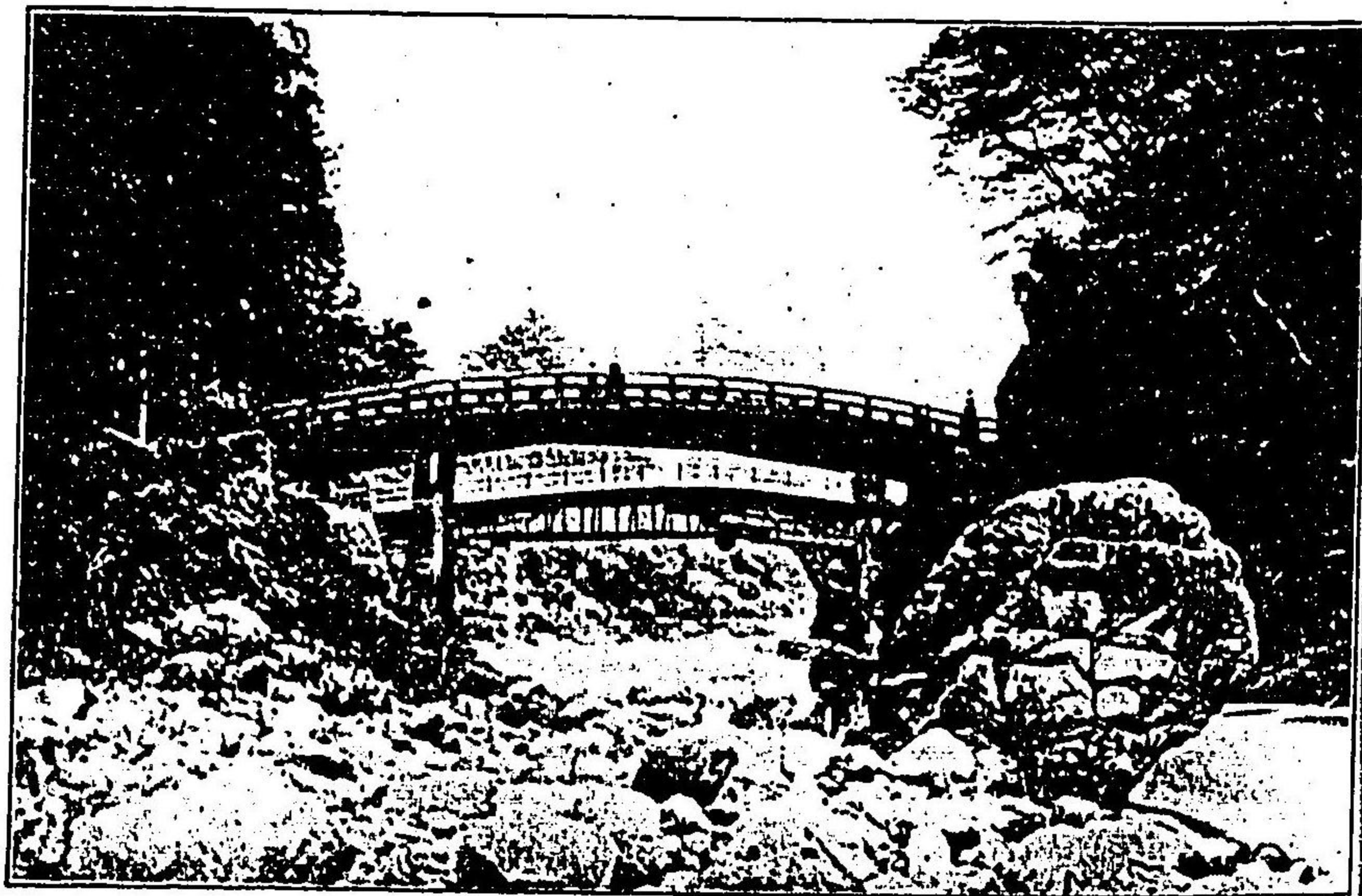
(野下) 橋 越 佐 小



(上.同) 社 神 荒 二 宮 都 宇



(野下) 日 光 陽 明 門

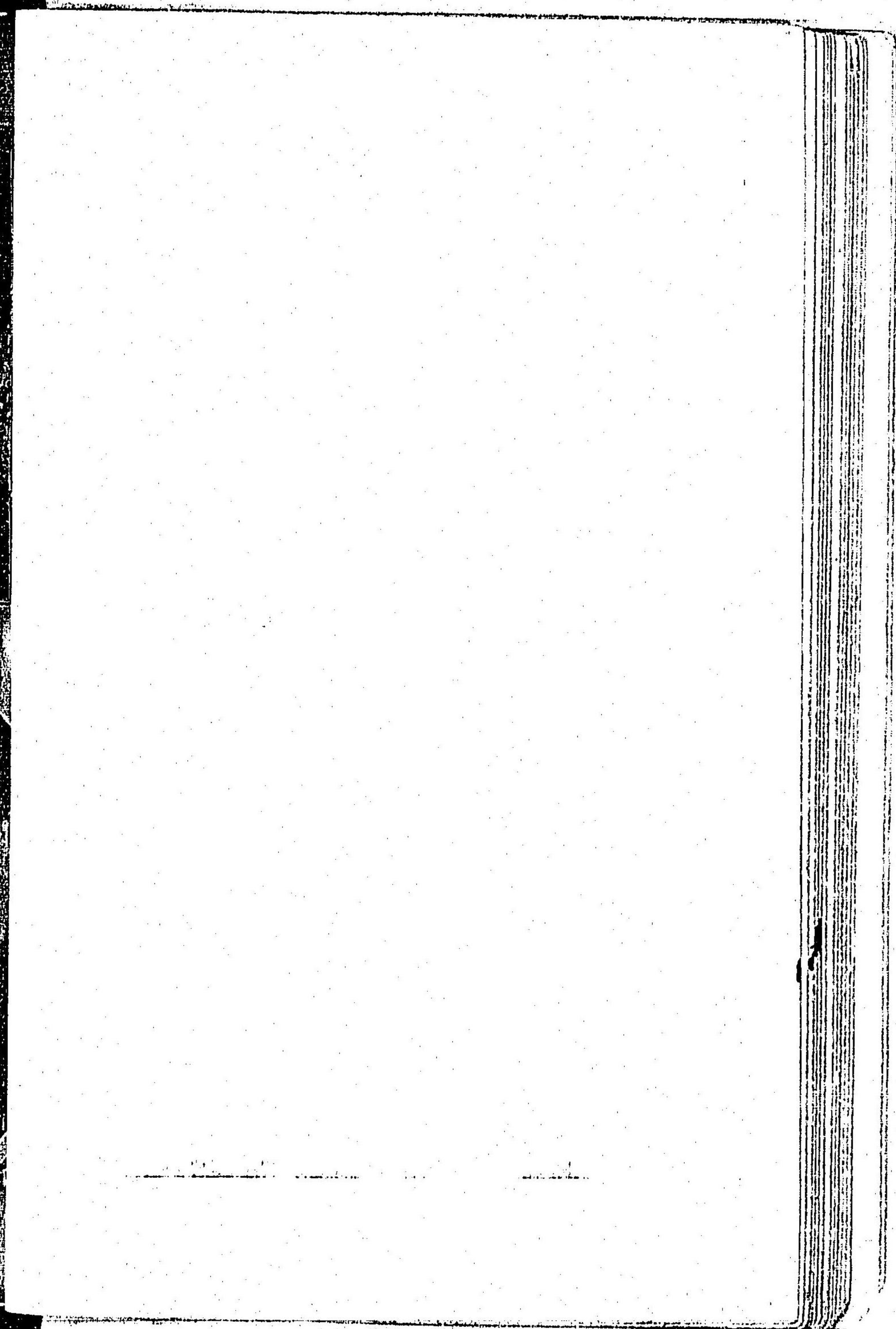


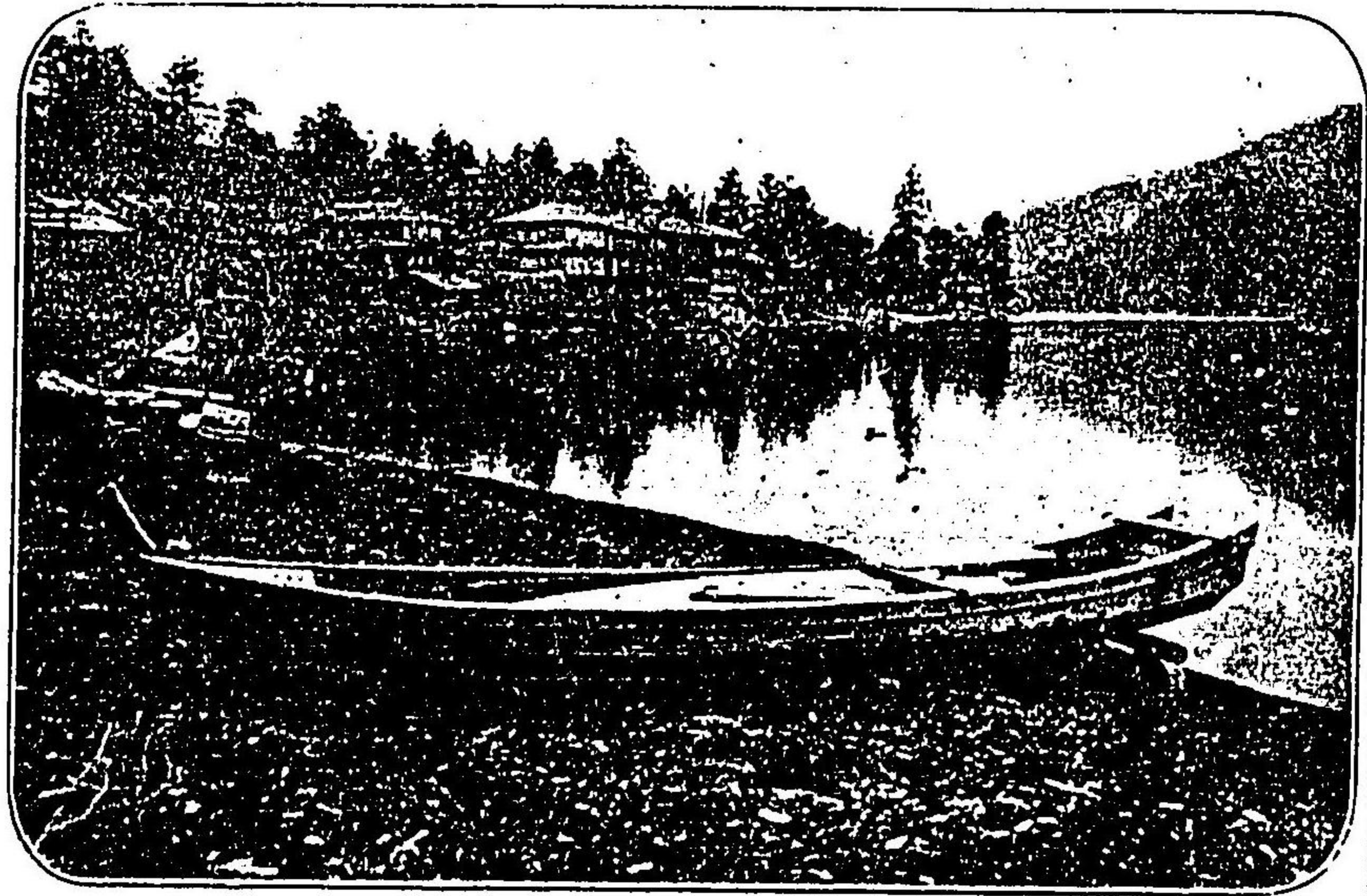
(上同) 日 光 神 橋

龍の光目
野下

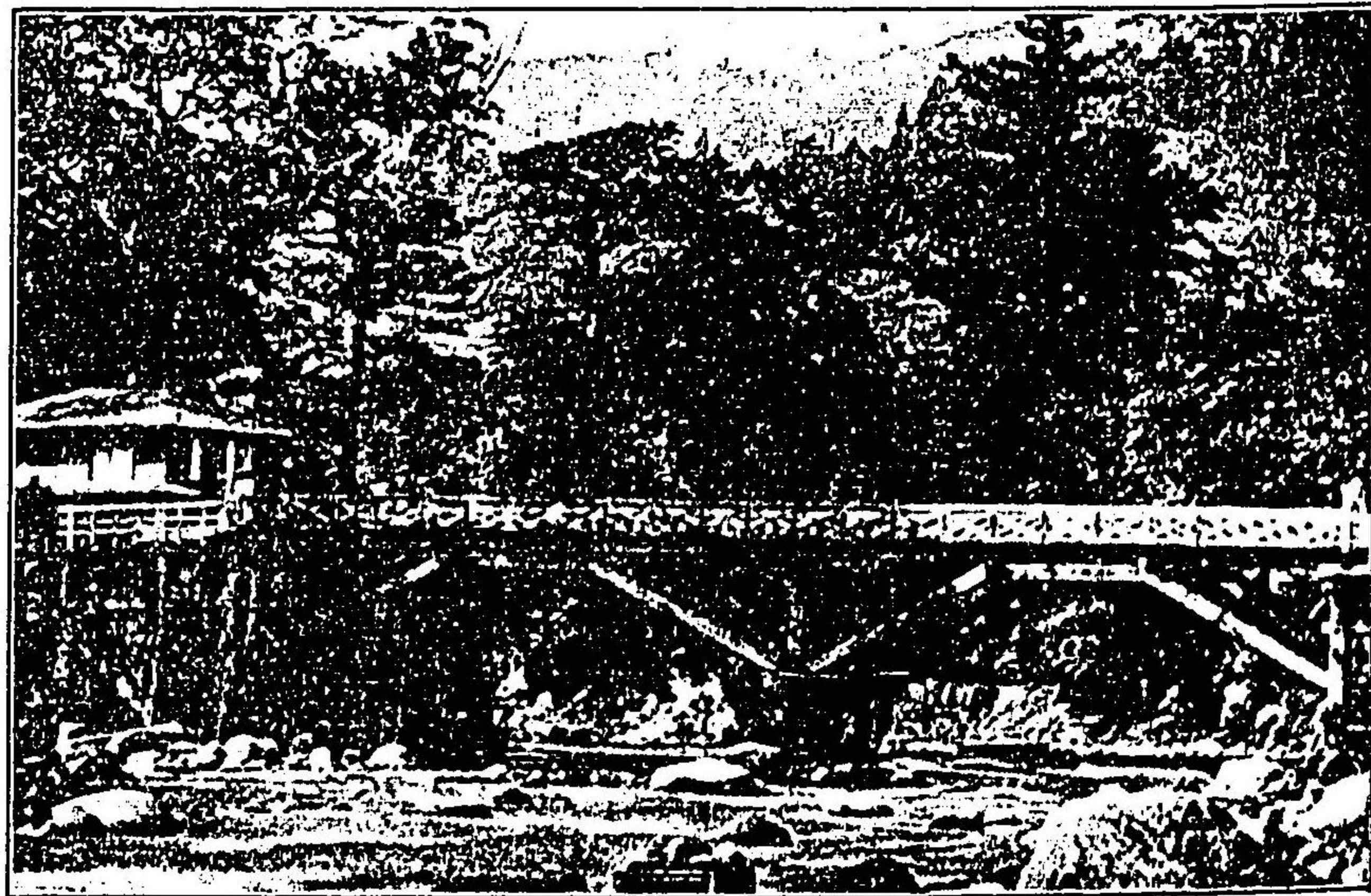


龍の目
野下

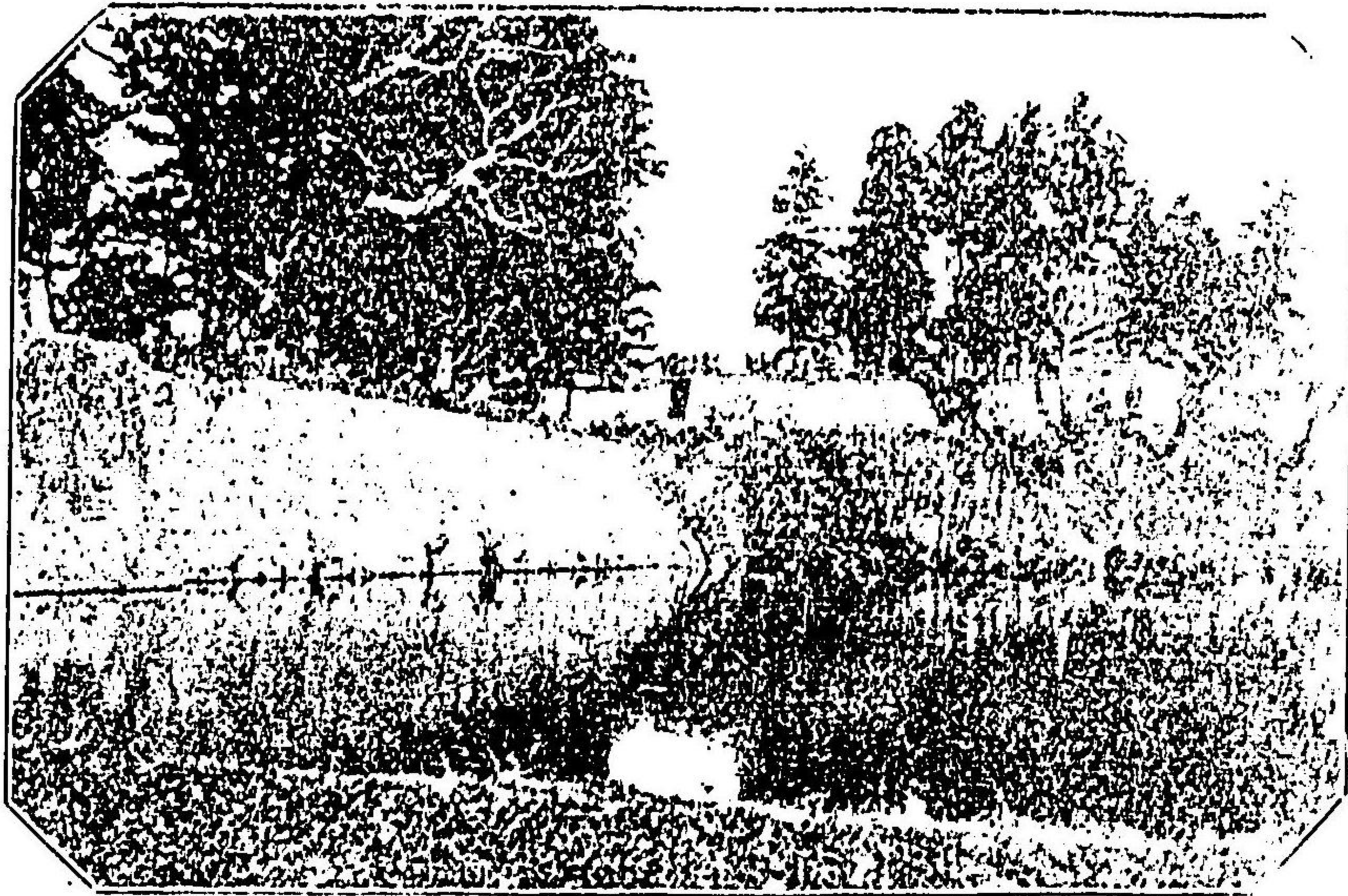




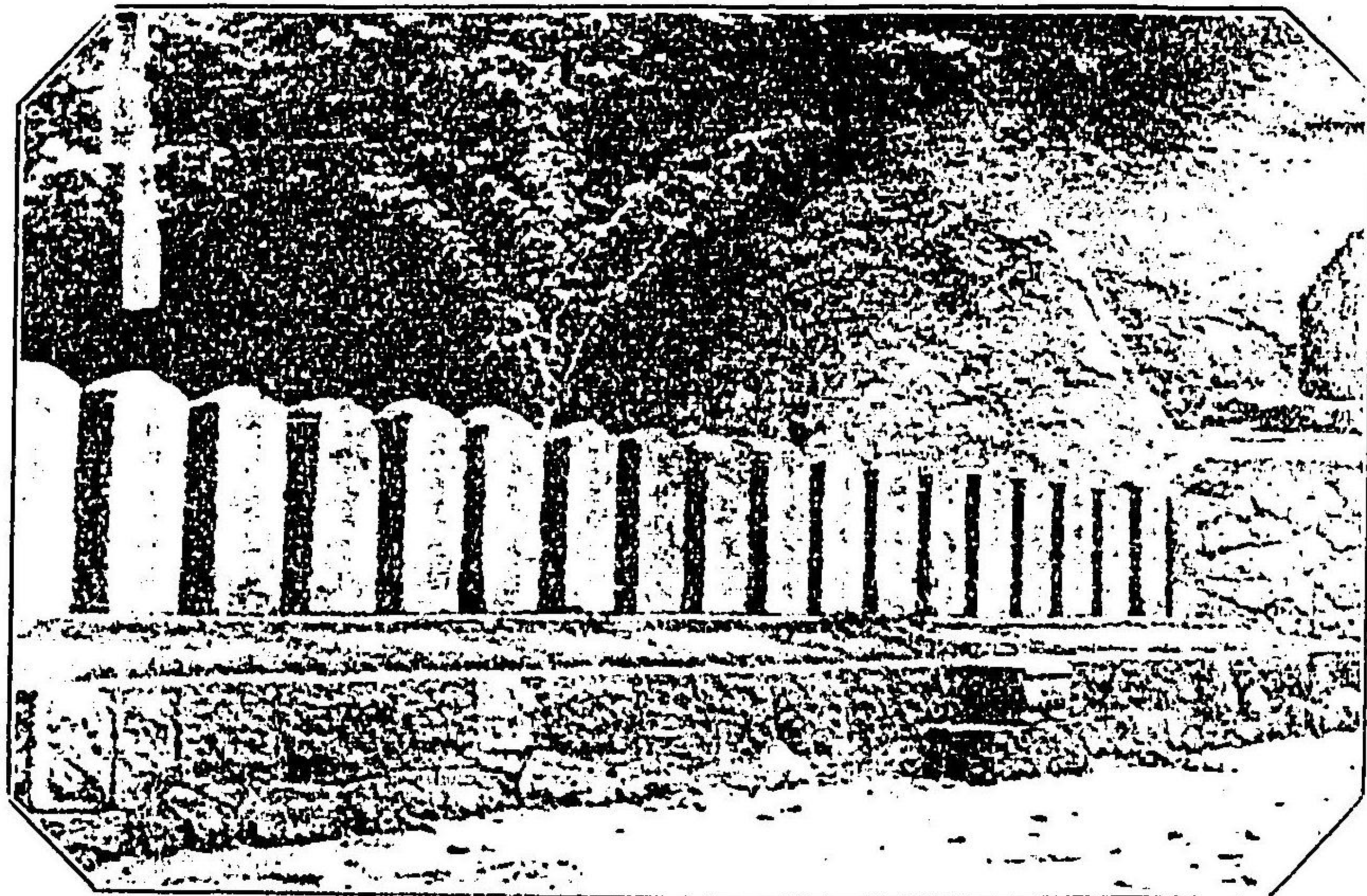
(野下) 湖 寺 禪 中



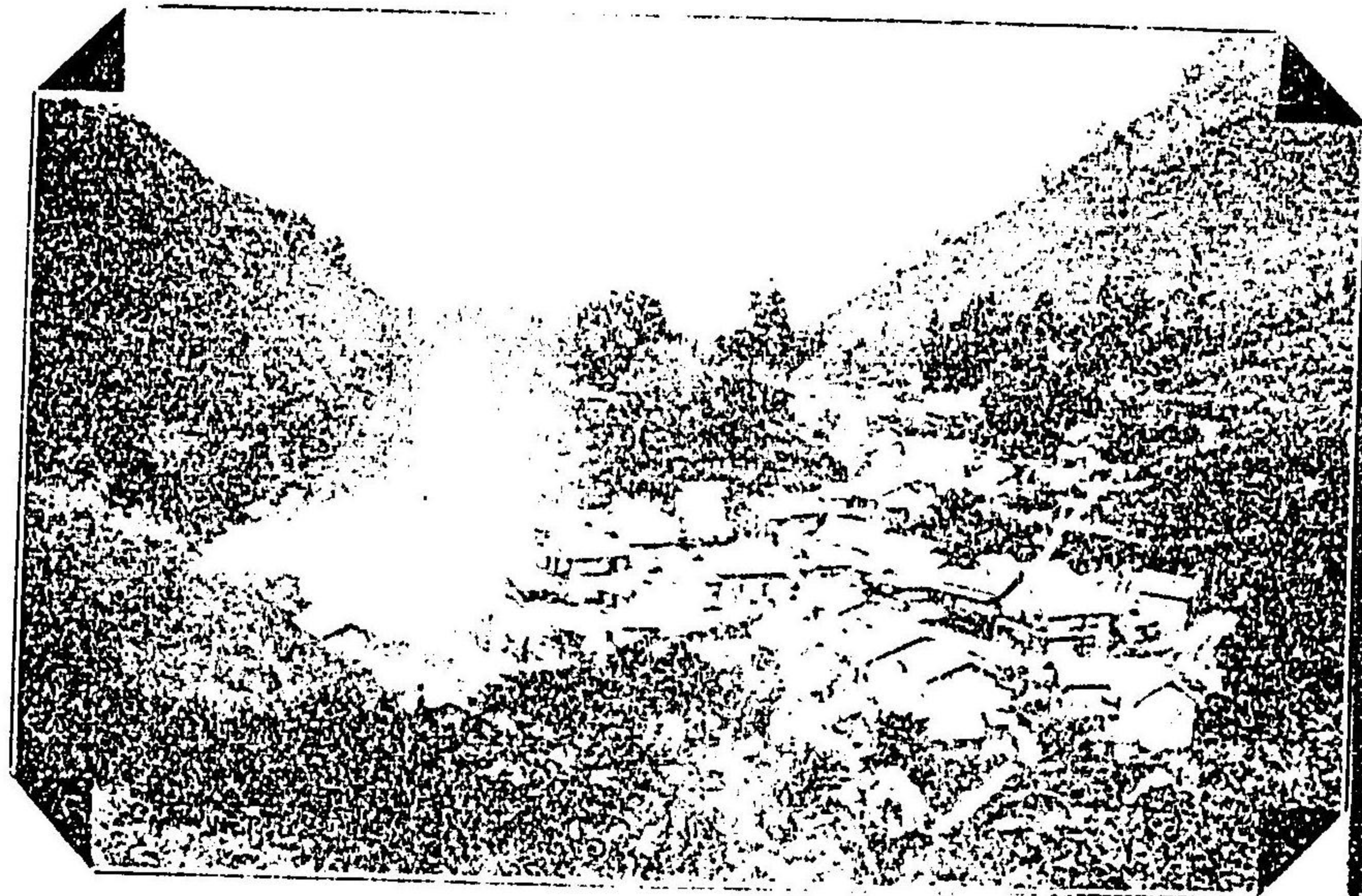
(上同) 泉 温 原 邊



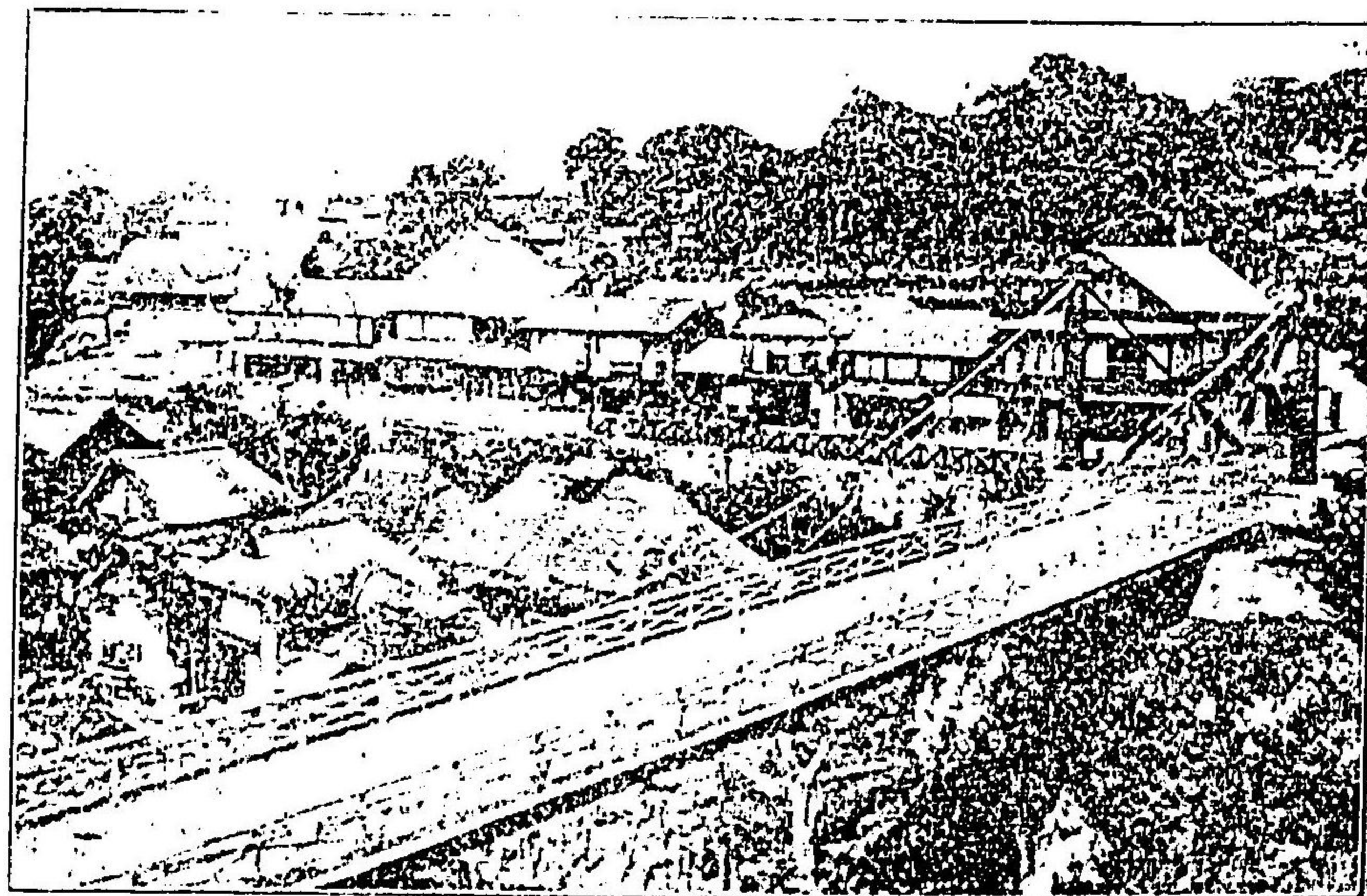
(代岩) 城 松 若



(上同) 墓 の 隊 虎 白



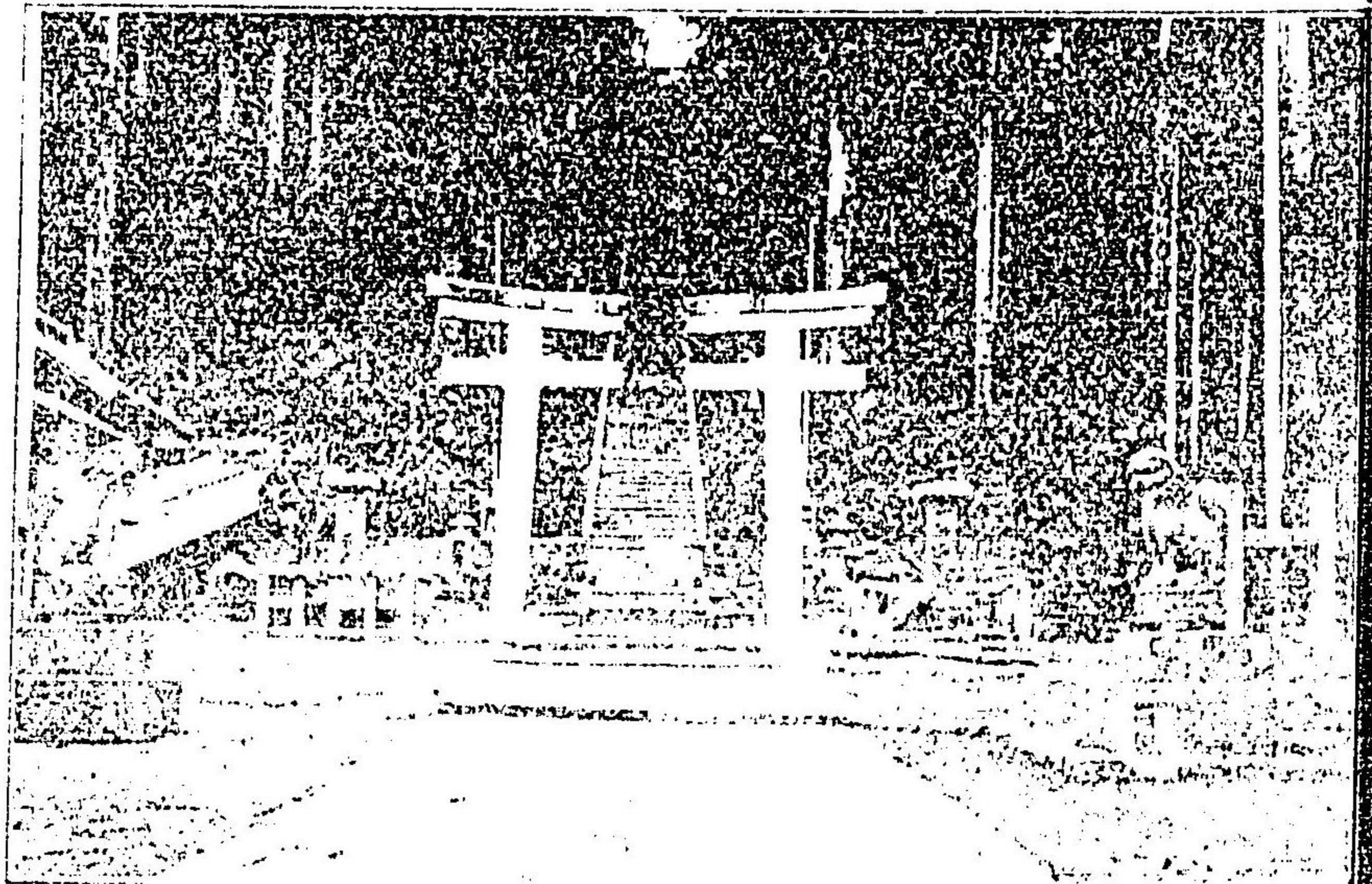
(代岩) 泉 温 山 東 津 會



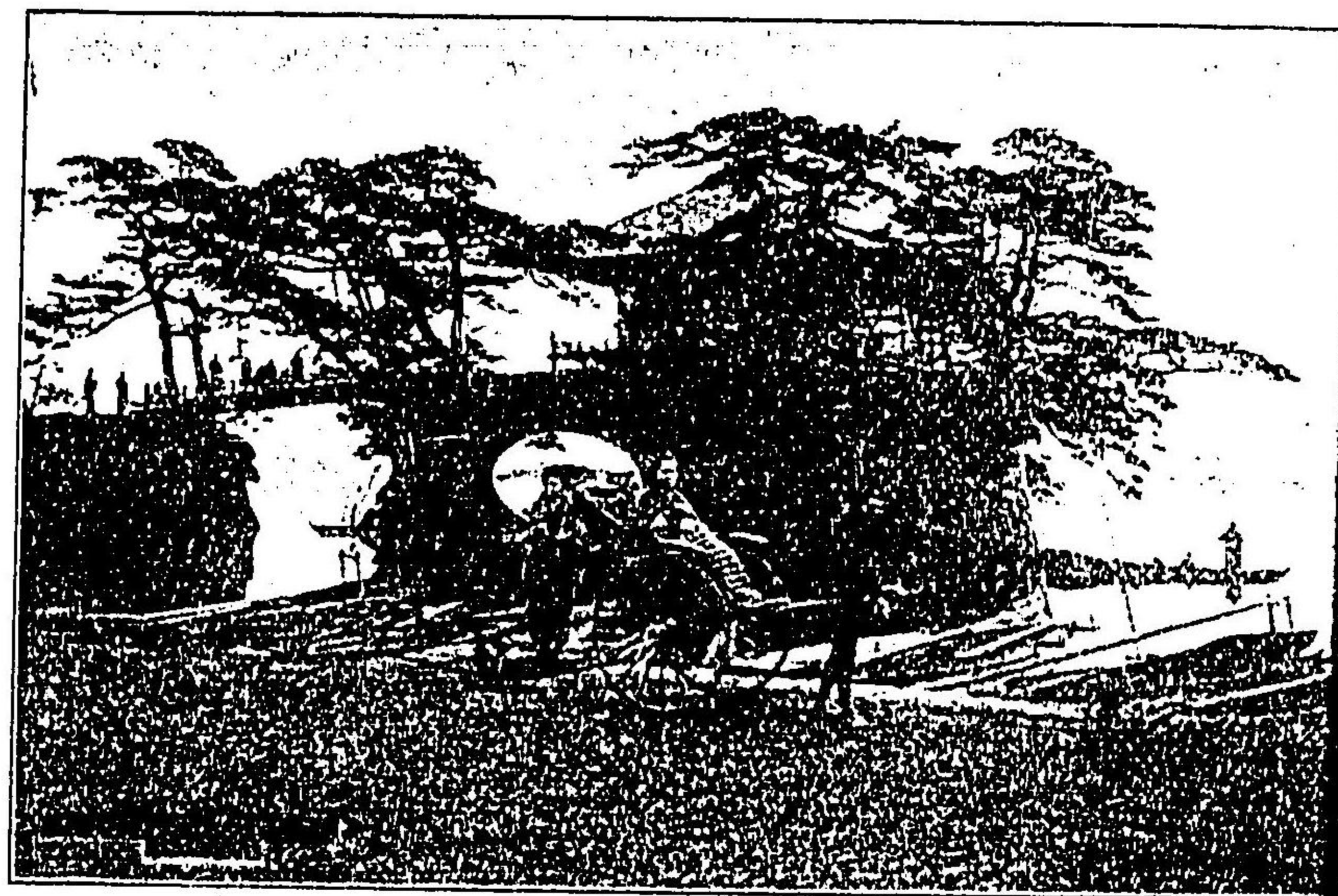
(城 磐) 泉 温 坂 飯



(前陸) 岡 田 宮 仙



(上同) 神 宮 仙



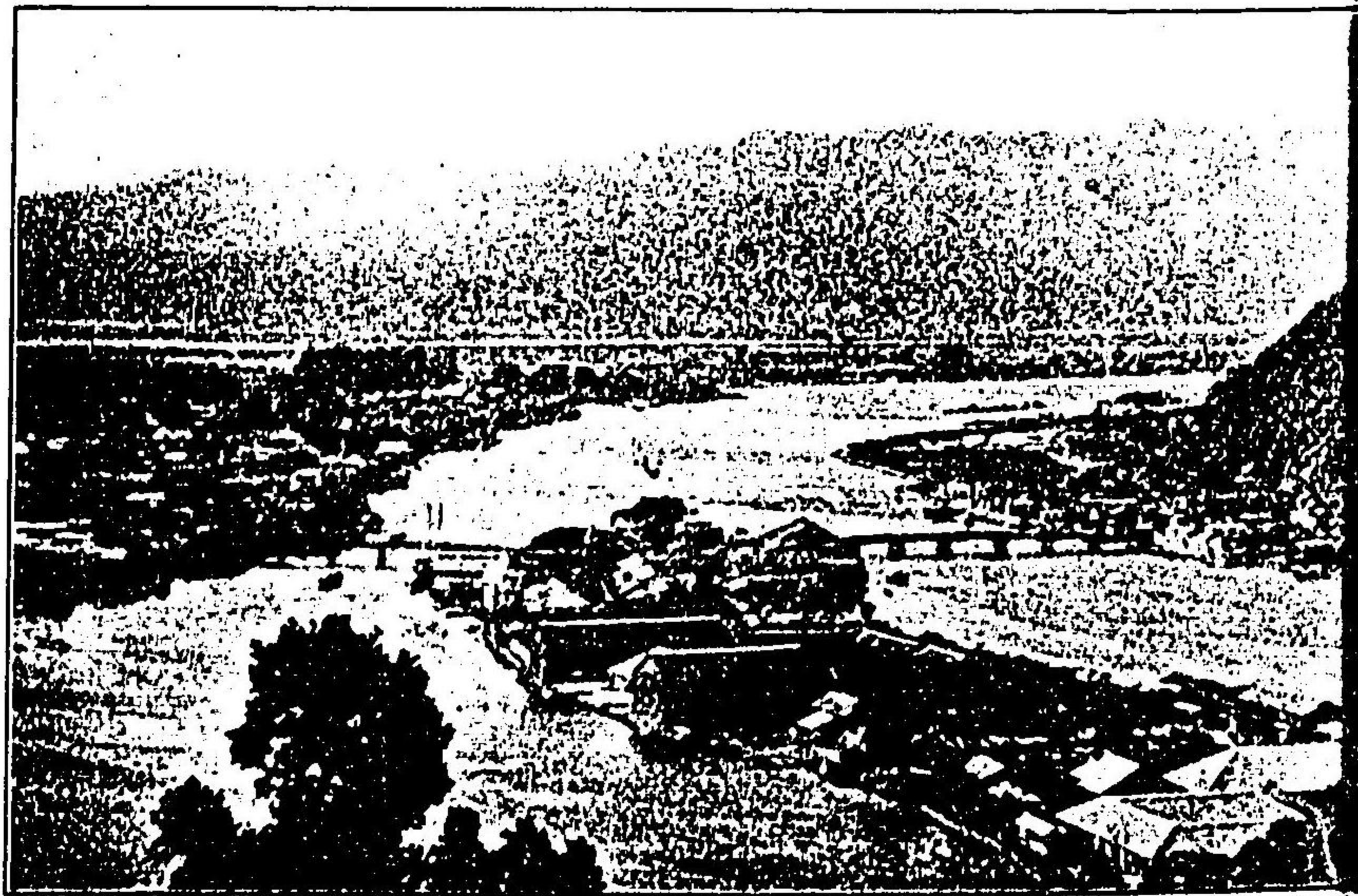
(前陸) 松島五大堂



(上同) 同双子島



(前陸) 島町小島松



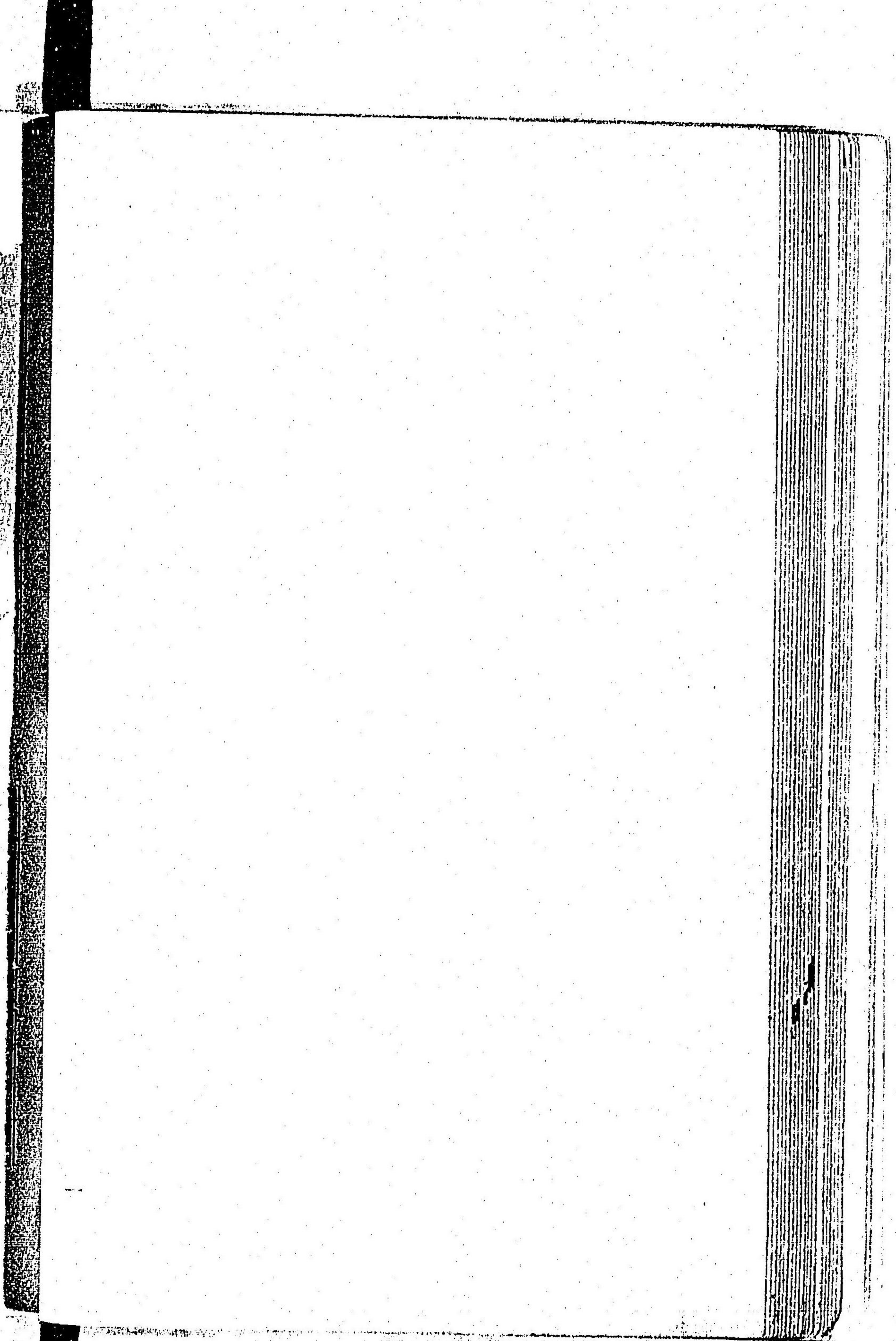
(上同) 港巻の石



图一 某地风景



图二 某地风景

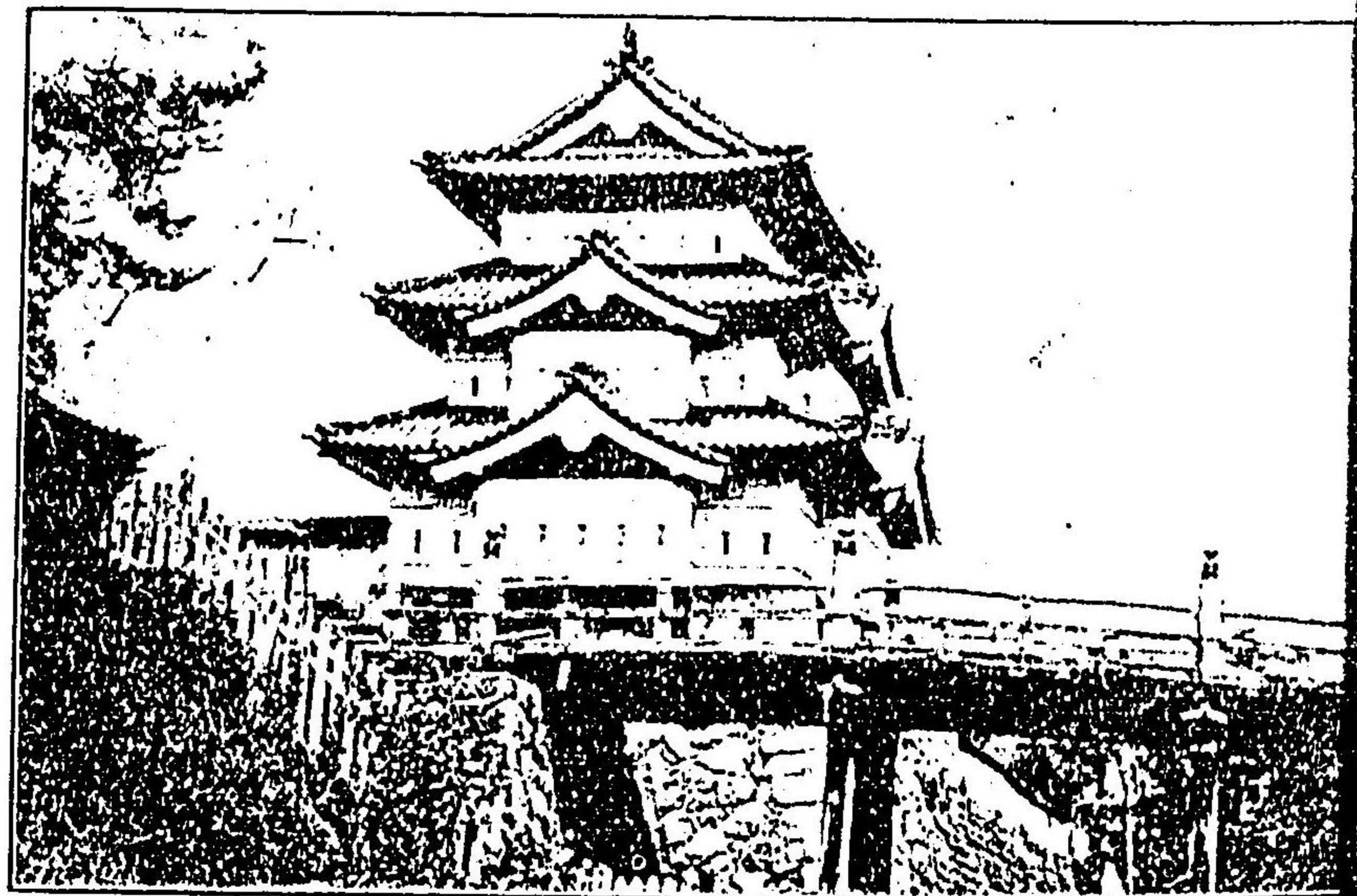




門沙毘窟谷達
(中陸)



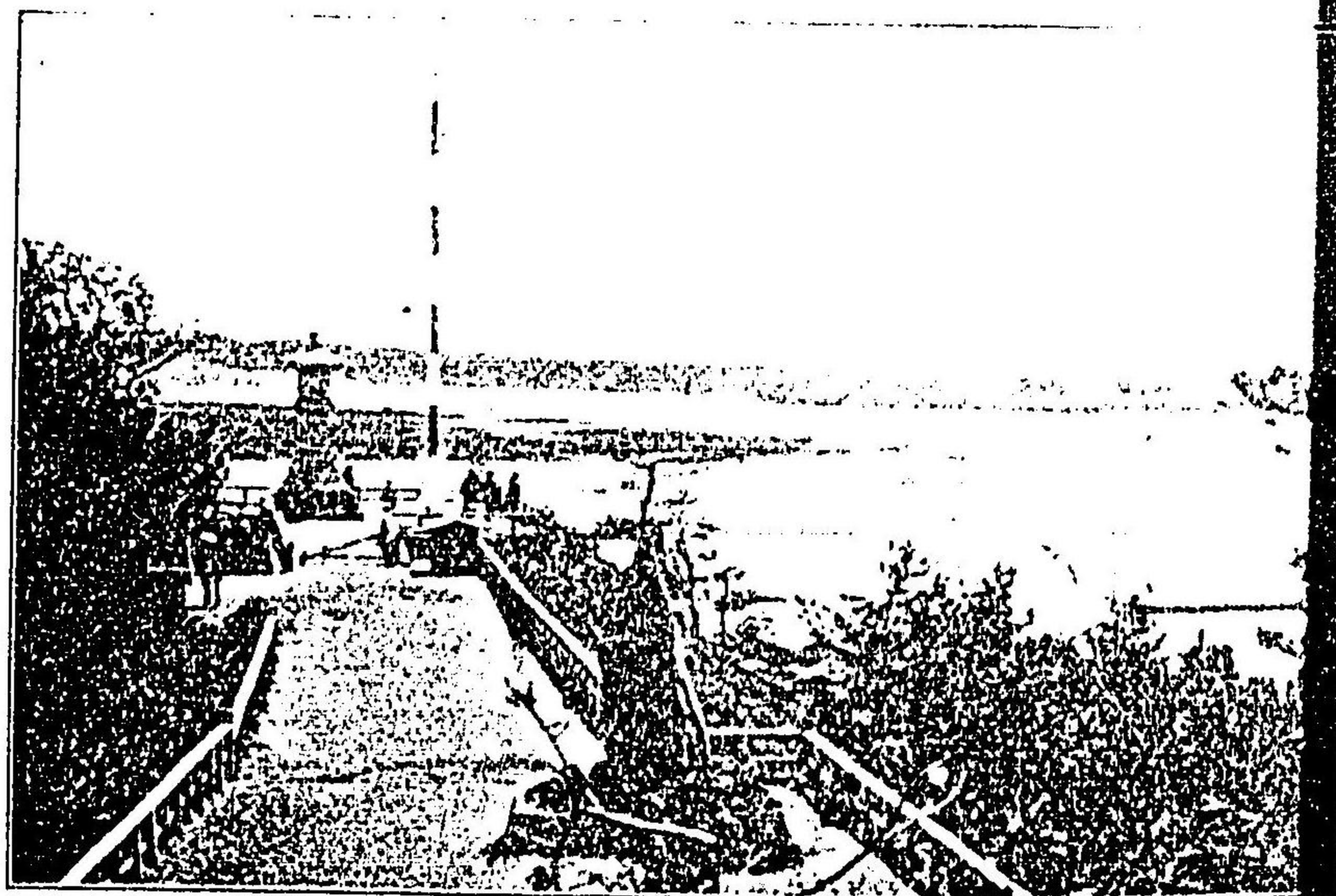
(中陸) 山 薮 金



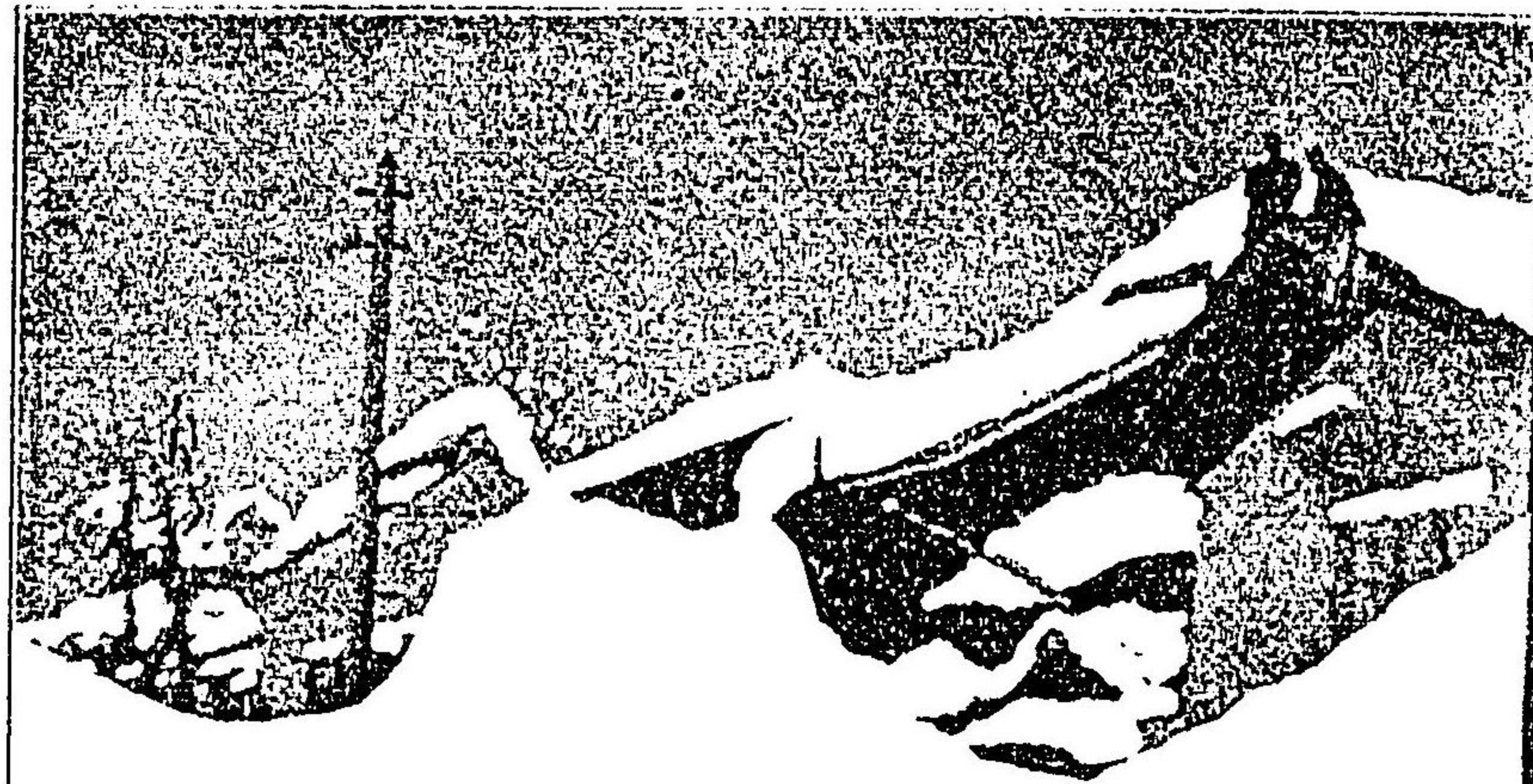
(奥陸) 城 前 弘



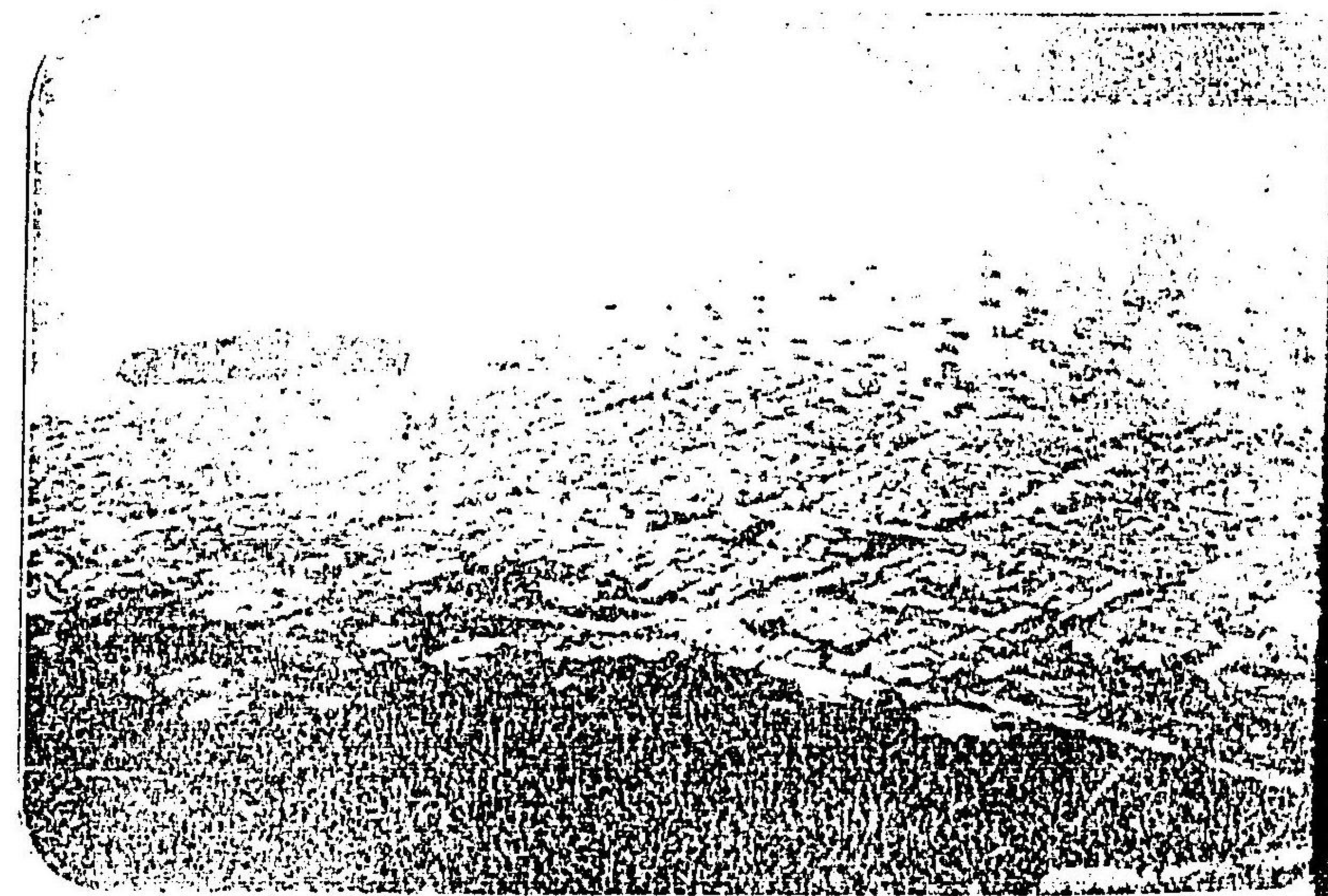
(後羽) 岩 漢 羅 浦 吹



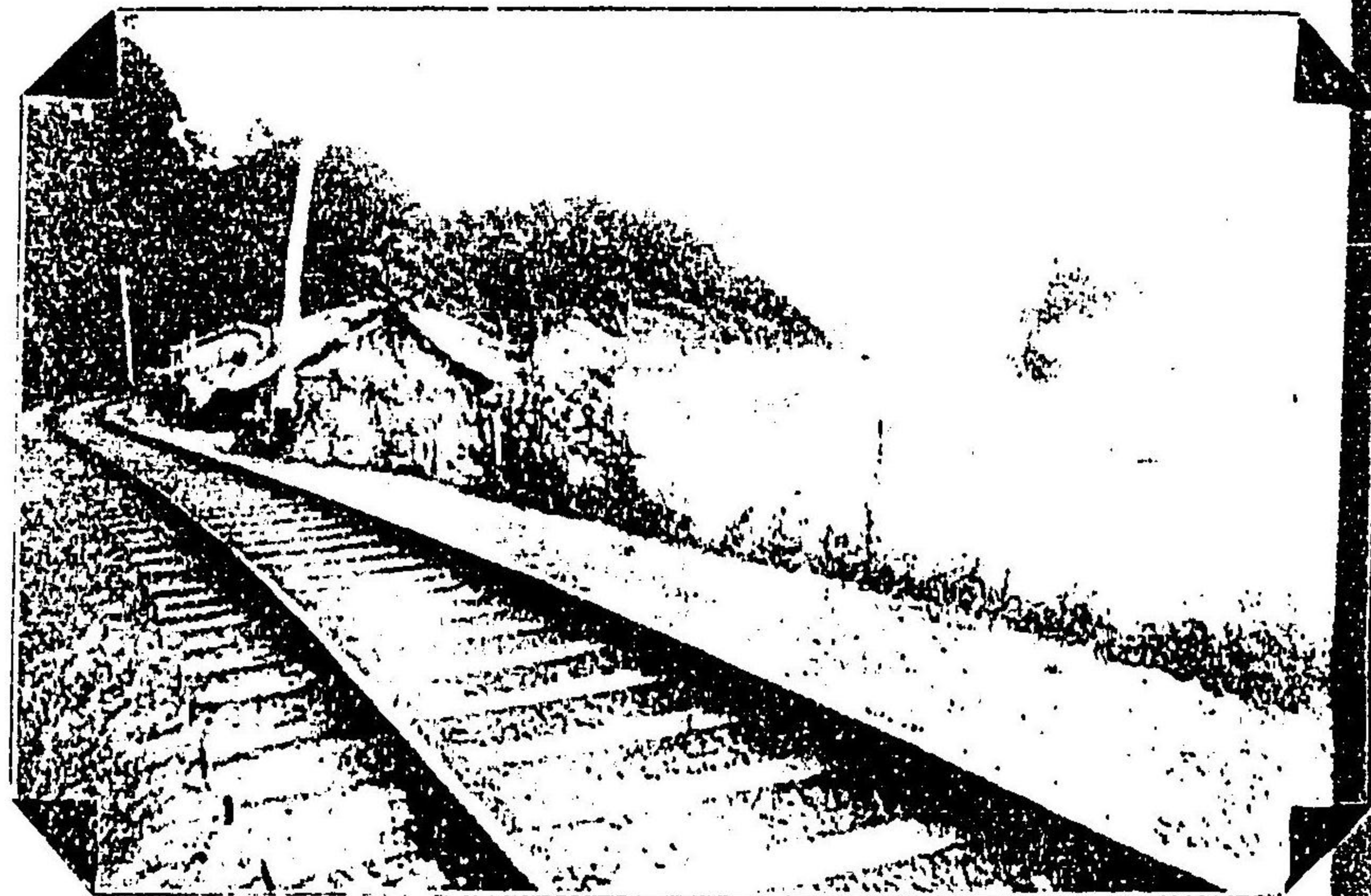
(上同) 濱 砂 上 田 酒



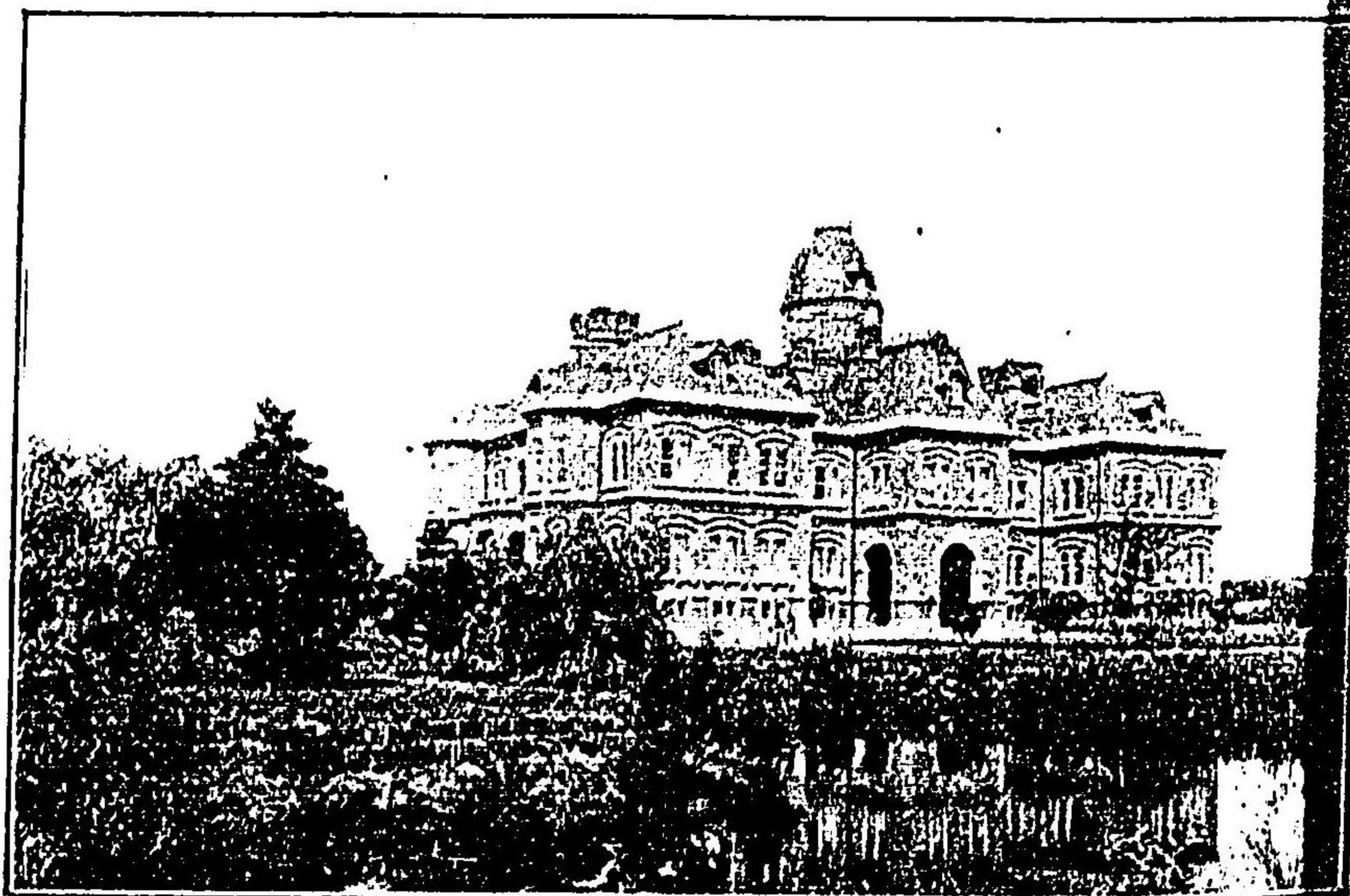
(奧陸) 景 雪 森 青



島 渡 港 館 岡



(志後) 岸海兩錢

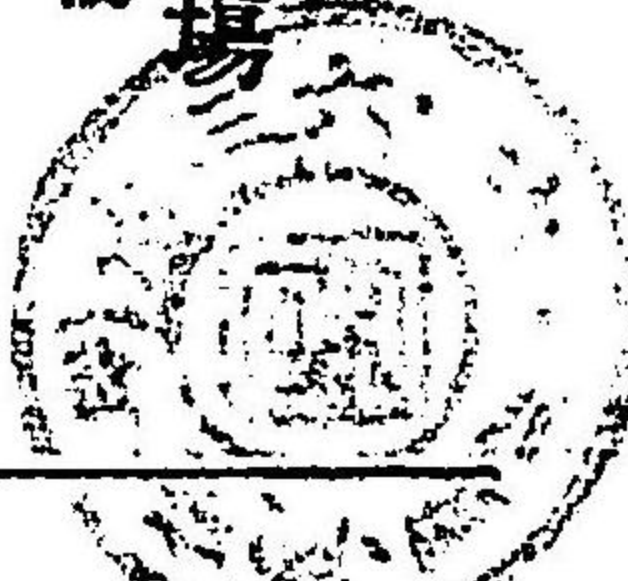


(狩行) 廳道海北

目次 (東部)

東北鐵道

- 正野停車場
- 田端停車場
- 王子停車場
- 飛鳥山
- 王子神社
- 不動の瀑布
- 赤羽停車場
- 品川停車場
- 目黒停車場
- 目黒不動
- 祐天寺
- 澁谷停車場
- 豪徳寺
- 新宿停車場
- 十二社
- 目白停車場
- 目白不動
- 鬼子母神
- 板橋停車場
- 戸田川鐵橋
- 川口町
- 蕨停車場
- 浦和停車場
- 興野公園
- 大宮停車場
- 大宮公園
- 八本松
- 湖田山
- 蓮田停車場
- 久喜停車場
- 栗橋停車場
- 靜御前の墓
- 古河停車場
- 鮮延寺
- 源三位の墓
- 間々田停車場
- 小山停車場
- 小金井停車場
- 藥師寺舊趾
- 石橋停車場
- 宇都宮停車場
- 二荒神社
- 鐵の碑
- 蒲生君平舊趾
- 大谷山
- 清嚴寺
- 粉河寺
- 砥上停車場
- 鹿沼停車場
- 文挾停車場
- 今市停車場



次 目

- 藤原温泉
- 瀧温泉
- 川治温泉
- 籠目嶽
- 日光停車場
- 東照宮
- 二荒山神社
- 大猷院殿の靈屋
- 霧降の瀑
- 裏見の瀧
- 慈観の瀧
- 華嚴の瀧
- 中禪寺湖
- 湯本名泉
- 湯瀧
- 足尾銅山
- 庚申山
- 岡本停車場
- 氏家停車場
- 鹽屋の里
- 片岡停車場

- 矢板停車場
- 西那須野停車場
- 那須國造の碑
- 鹽原温泉
- 黒磯停車場
- 那須七湯
- 黒田原停車場
- 芦野古城趾
- 豊原停車場
- 白河停車場
- 南湖
- 感忠銘
- 白川の關趾
- 甲子温泉
- 湯本温泉
- 矢吹停車場
- 須賀川停車場
- 郡山停車場
- 安積山
- 本宮停車場

- 二本松停車場
- 安達ヶ原古蹟
- 嶽の湯温泉
- 安達太郎山
- 松川停車場
- 福島停車場
- 信夫文字摺石
- 北畠顯家の故蹟
- 飯坂温泉
- 大鳥城趾
- 湯野村温泉
- 吾妻山
- 長岡停車場
- 桑折停車場
- 半田銀山
- 阿都賀志山
- 伊達大木戸
- 越河停車場
- 白石停車場
- 鎌先温泉
- 青根温泉

次 目

- 刈田嶽
- 峨々温泉
- 小原温泉
- 大河原停車場
- 遠刈田温泉
- 槻木停車場
- 岩沼停車場
- 増田停車場
- 寶方中將の墓
- 埋木
- 仙臺停車場
- 青葉城趾
- 經ヶ峰の靈廟
- 櫻岡公園
- 林子平の墓
- 榴ヶ岡
- 東照宮
- 青葉神社
- 愛宕山
- 燕澤蒙古の碑
- 宮城野

- 茂嶺の城趾
- 秋保御湯
- 並作温泉
- 定義温泉
- 岩切停車場
- 多賀城趾
- 野田の玉川
- 十符池
- 洞雲寺
- 鹽竈停車場
- 鹽竈神社
- 神釜社
- 松島の奇景
- 松島村
- 石の巻港
- 金華山
- 利府停車場
- 島松停車場
- 鹿島台停車場
- 小牛田停車場

- 温泉村八湯
- 瀬峯停車場
- 石越停車場
- 花泉停車場
- 義經の墓
- 一の關停車場
- 平泉の由來
- 判官館
- 中尊寺
- 五串の瀧
- 前澤停車場
- 水澤停車場
- 駒形神社
- 鎮守府の址
- 黒澤尻停車場
- 花卷停車場
- 石鳥谷停車場
- 日誥停車場
- 高水寺

次 目

- 盛岡停車場
- 陸奥館
- 安倍館
- 南舞富士
- 網張温泉
- 好摩停車場
- 沼宮内停車場
- 弓弭清水
- 中山停車場
- 小鳥谷停車場
- 一ノ戸停車場
- 末の松山
- 福岡停車場
- 三ノ戸停車場
- 尻内停車場
- 八戸停車場
- 長者山の風景
- 源義經の遺物
- 櫛引八幡

前陸

濱街道線

- 下田停車場
- 古間木停車場
- 沼崎停車場
- 牧場
- 壺の硯
- 野邊地停車場
- 十符の菅藪
- 馬門の戰場
- 小湊停車場
- 浅虫停車場
- 唐味棧橋
- 青森停車場
- 善知鳥神社
- 外ヶ浜
- 油川
- 田端停車場
- 南千住停車場

- 北千住停車場
- 西新井大師堂
- 龜有停車場
- 金町停車場
- 柴又帝釋天
- 松戸停車場
- 小金町
- 柏停車場
- 我孫子停車場
- 日天子社
- 取手停車場
- 大鹿城趾
- 大鹿山長禪寺
- 本多重次の墓
- 藤代停車場
- 牛久停車場
- 龍崎町
- 荒川沖停車場
- 土浦停車場

次 目

- 土浦城趾
- 平國香墓
- 弘法井
- 神立停車場
- 高濱停車場
- 石岡停車場
- 羽鳥停車場
- 岩間停車場
- 友部停車場
- 佐和停車場
- 東聖寺
- 大沼停車場
- 下孫停車場
- 助川停車場
- 八幡清水
- 裸島
- 川尻停車場
- 高萩停車場
- 八幡神社
- 手綱の濱

- 磯原停車場
- 櫻井
- 關本停車場
- 佐波々地祇神社
- 勿來停車場
- 勿來舊關趾
- 植田停車場
- 泉停車場
- 住吉神社
- 湯本停車場
- 三箇温泉
- 温泉神社
- 綴驛停車場
- 平停車場
- 龍門寺
- 子歛倉神社
- 草野停車場
- 專稱寺
- 如來寺
- 四ツ倉停車場

水戸鐵道

- 久ノ濱停車場
- 波立薬師堂
- 木奴美が浦
- 中村停車場
- 中村神社
- 龜黄金山神社
- 相馬神社
- 松川浦十二景
- 新地停車場
- 坂元停車場
- 吉田停車場
- 互理停車場
- 荒濱
- 抽矢澤
- 岩沼停車場
- 水戸鐵道
- 小山停車場
- 結城停車場
- 玉日宮ノ墓

目次

- 川島停車場
- 下館停車場
- 椎尾山薬師堂
- 下妻町
- 光明寺
- 岩瀬停車場
- 櫻川の櫻花
- 宮谷観音
- 雨引山
- 筑波山
- 福原停車場
- 稻田神社
- 西念寺
- 笠間停車場
- 佐志能神社
- 片庭大杉
- 宍戸停車場
- 内原停車場
- 水戸停車場
- 水戸舊城

両毛鐵道之部

- 常盤公園
- 常盤神社
- 第二公園
- 大洗海水浴
- 大洗磯崎神社
- 鹿島神社
- 根本寺
- 息栖神社
- 香取神宮
- 小山停車場
- 栃木停車場
- 錦着山公園
- 太平山
- 柏倉琴平社
- 國分寺
- 三峰山
- 出流大悲窟
- 岩舟停車場
- 慈覺大師誕生の故蹟

- 佐野停車場
- 唐澤山の城趾
- 八州園
- 安蘇沼の古跡
- 館林町
- 足利町
- 足利城趾
- 大日如来
- 足利公園
- 足利學校

- 小俣停車場
- 桐生停車場
- 新町鐵泉
- 高津戸の奇景
- 大間々停車場
- 藪塚鐵泉
- 樽下及廣直鐵泉
- 赤城山
- 湯の澤及び不動鐵泉
- 國定停車場

目次

- 伊勢崎停車場
- 栗師山鐵泉
- 岩理及び入長岡鐵泉
- 高山神社
- 世良田
- 大胡城
- 駒形停車場
- 前橋停車場
- 臨江閣
- 樂水園
- 敷島河原
- 岩神
- 利根橋
- 龍海院
- 八幡社
- 雙兒山
- 東照宮
- 生井鐵泉
- 伊香保溫泉
- 物開山
- 船入山

富岡鐵道

- 二ッ嶽蒸風呂
- 澤渡溫泉
- 四萬溫泉
- 川原湯溫泉
- 草津溫泉
- 榛名山
- 高崎停車場
- 山名停車場
- 吉井停車場
- 多胡の砦
- 多胡の城趾
- 辛科神社
- 仁叟寺
- 福島停車場
- 富岡停車場
- 金剛院
- 一ノ宮停車場
- 寶名神社

信越鐵道

- 蛇ノ井停車場
- 下仁田停車場
- 大宮停車場
- 上尾停車場
- 桶川停車場
- 鴻の巣停車場
- 勝願寺
- 箕田八幡社
- 吹上停車場
- 熊谷停車場
- 蓮生山熊谷寺
- 鎮守彌左衛門稻荷
- 深谷停車場
- 岡部六彌太の舊跡
- 本庄停車場
- 新町停車場
- 陽雲院

- 藤岡町
- 多胡之碑
- 浄法寺鑽泉
- 鬼石の奇景
- 高崎停車場
- 高崎城趾
- 大信寺
- 定國寺
- 清水の観音
- 佐野舟橋跡
- カラメキ温泉
- 前橋停車場
- 飯塚停車場
- 八幡村八幡宮
- 安中停車場
- 谷津鑛泉
- 里見城址
- 鷹の巣山の城址
- 磯部停車場
- 磯部温泉
- 佐々木盛綱城趾

- 佐々木盛綱の墓
- 大野九郎兵衛の墓
- 横野
- 松井田停車場
- 妙義山
- 郷原温泉
- 横川停車場
- 碓氷嶺
- 霧積温泉
- 輕井澤停車場
- 淺間山
- 御代田停車場
- 岩村田町
- 小諸停車場
- 田中停車場
- 上田停車場
- 上田城址
- 横吹停車場
- 横吹
- 阪城停車場

- 宗良親王營塚
- 屋代停車場
- 松代町
- 篠ノ井停車場
- 犀川
- 長野停車場
- 善光寺
- 川中島古戰場
- 戸隠山
- 豊野停車場
- 星川
- 澁温泉
- 神明山
- 牟禮停車場
- 柏原停車場
- 芙蓉湖
- 關川
- 關川温泉
- 田口停車場
- 赤倉泉温

北越鐵道

- 關山停車場
- 關山温泉
- 新井停車場
- 高田停車場
- 直江津停車場
- 春日山
- 林泉寺
- 春日新田停車場
- 犀潟停車場
- 潟町停車場
- 柿崎停車場
- 鉢崎停車場
- 柏崎停車場
- 三島神社
- 北條停車場
- 不動の瀧
- 長岡町

篠ノ井線

- 草生津町
- 金峯神社
- 火の出る井
- 本成寺
- 三條町
- 一の木戸停車場
- 加茂停車場
- 青梅神社
- 田上鑛泉
- 矢代田停車場
- 新津停車場
- 五泉町
- 草生水
- 柄目木の火井
- 龜田停車場
- 沼垂停車場
- 白山神社
- 新潟市
- 篠ノ井停車場
- 稻荷山停車場
- 久米路橋
- 武水別神社
- 姨捨停車場
- 姨捨
- 姨捨山
- 麻績停車場
- 麻績
- 猿ヶ馬場嶺
- 西條停車場
- 明科停車場
- 田澤停車場
- 松本停車場
- 松本町
- 宮村明神社
- 正行寺
- 長稱寺
- 極樂寺
- 廣澤寺

次 目

- 筑摩神社
- 桔梗ヶ原
- 淺間温泉
- 三清路の奇勝
- 天主閣
- 城山公園
- 清水の里
- 美が原の躑躅
- 牛伏寺
- 桐原山古城趾
- 桐原の梅
- 千鹿頭の躑躅
- 蒲町の藤
- 楓の天神
- 米澤庚申
- 村井停車場
- 今井兼平の塚
- 城山
- 八幡神社
- 鹽尻停車場
- 永井坂古戦場
- 阿禮神社

奥羽鐵道(南線)

- 城山
- 小野神社
- 鹽尻嶺
- 諏訪湖
- 諏訪神社
- 諏訪温泉
- 琵琶橋
- 福島停車場
- 延坂停車場
- 庭坂町
- 板谷停車場
- 峠停車場
- 滑川温泉
- 姥温泉
- 關根停車場
- 米澤停車場
- 米澤市
- 米澤城址
- 松ヶ峰公園
- 小野川温泉
- 成島八幡社
- 糠の目停車場
- 龜岡文珠
- 赤湯停車場
- 赤湯温泉
- 烏帽子山公園
- 久保の櫻
- 白瀧湖
- 珍藏寺
- 上野山停車場
- 上野山温泉
- 觀音堂
- 山形停車場
- 山形市
- 千歳公園
- 柏山寺
- 八幡社
- 湯殿山神社
- 鳥海月山神社

次 目

- 千歳山公園
- 阿古耶の松
- 天童停車場
- 建勳神社
- 招魂社
- 山寺
- 吉祥院
- 神町停車場
- 楯岡停車場
- 大石田停車場
- 澤潟澤
- 尾花澤村
- 最上川
- 舟形停車場
- 奥羽鐵道(北線)
- 青森停車場
- 新城停車場
- 妙見堂
- 炭焼藤太の舊趾

- 大釋迦停車場
- 浪岡停車場
- 金光上人の墓
- 黒石町
- 黒石神社
- 中野溪
- 板留温泉
- 川部停車場
- 猿賀城趾
- 大光寺城趾
- 弘前停車場
- 東照宮
- 八幡宮熊野神社
- 長勝寺
- 高照神社
- 岩木山神社
- 岩木山
- 嶽の湯温泉
- 長慶天皇御陵
- 大澤停車場
- 乳井毘沙門堂

- 石川城趾
- 藏館温泉
- 碓ヶ關停車場
- 大鰐神社
- 阿闍羅山
- 大館停車場
- 淨應寺
- 大館城址
- 鷹の巣停車場
- 阿仁銅山
- 七座山神社
- 二つ井停車場
- 能代停車場
- 熊代港
- 日吉神社
- 長慶寺
- 白布瀑
- 八郎潟
- 雄鹿島
- 雄鹿島の勝景
- 脇本古城址

目次

- 大龍寺
- 船川港
- 泉臺山
- 地藏院
- 鶴の崎
- 雄島
- 雌島
- 蛭子越
- 龍ヶ崎
- 能登山
- 雙六灣
- 本山神社
- 帆掛島
- 龍藏岩
- 御幣島
- 阿字ヶ島
- 蕎麥窟
- 月賀灣
- 星辻神社
- 一女瀉
- 藥師長根
- 延命寺

- 森岳停車場
- 鹿渡停車場
- 五城目停車場
- 副川神社
- 大久保停車場
- 追分停車場
- 土崎停車場
- 土崎町
- 秋田古城址
- 古四王神社
- 招魂社
- 全良寺
- 秋田停車場
- 秋田市
- 公園
- 秋田神社
- 八幡神社
- 光明寺
- 誓願寺
- 補陀寺

太田鐵道

- 太平山神社
- 天徳寺
- 水戸停車場
- 青柳停車場
- 三國瀧
- 清水瀧
- 下菅谷停車場
- 上菅谷停車場
- 上宮寺
- 額田停車場
- 河合停車場
- 太田停車場
- 太田城址
- 桃源橋
- 西山館
- 久昌寺
- 瑞龍山

目次

總武鐵道

- 本所停車場
- 龜戸神社
- 龜戸臥龍園
- 柳島妙見堂
- 牡丹園
- 市川停車場
- 弘法寺
- 眞間の繼橋
- 手兒奈堂
- 國府臺
- 總寧寺
- 松戸驛
- 本行徳驛
- 中山停車場
- 八幡驛
- 法華經寺
- 妙正ヶ池
- 曾谷妙見堂
- 勝間田の池

- 船橋停車場
- 意富比神社
- 慈雲寺
- 幕張停車場
- 稻毛海水浴
- 千葉停車場
- 猪の鼻臺
- 千葉神社
- 大日寺
- 來迎寺
- 登渡神社
- 四ツ街道停車場
- 佐倉停車場
- 佐倉城趾
- 將門山古城趾
- 海隣寺
- 八街停車場
- 成東停車場
- 八幡神社

- 不動院
- 鳴戸城趾
- 光明寺
- 松尾停車場
- 鳥鳴池
- 横芝停車場
- 觀音寺
- 八日市場停車場
- 西光寺
- 千潟停車場
- 幸藏寺
- 旭町停車場
- 眞福寺
- 飯岡停車場
- 飯岡岬
- 玉崎神社
- 犬吠岬
- 銚子停車場

房總鐵道

- 千葉停車場
- 寒川停車場
- 君待橋
- 白旗神社
- 寒川神社
- 千葉寺
- 蘇我停車場
- 小弓宿趾
- 野田停車場
- 土氣停車場
- 土氣城趾
- 大網停車場
- 大網神社
- 本納停車場
- 橘神社
- 茂原停車場
- 八幡神社
- 茂原寺

一ノ宮停車場

- 玉前神社
- 觀明寺
- 一宮城趾
- 高藤山
- 大東停車場
- 釣崎
- 鳴山
- 東浪見寺
- 長者町停車場
- 萬木城趾
- 清水寺
- 海雄寺
- 瀧口明神社
- 苅谷驛
- 大原停車場
- 八幡山
- 紫銅橋
- 金光寺
- 大原停車場

成田鐵道

- 最明寺
- 佐倉停車場
- 酒々井停車場
- 東光寺
- 清光寺
- 淨泉寺
- 大佛頂寺
- 宗吾靈神
- 麻賀多神社
- 成田停車場
- 成田山新勝寺
- 滑川停車場
- 東三井寺
- 羅窟神社
- 兒塚
- 滑川觀音
- 朝日ヶ淵
- 菊水山

目次

我孫子成田間

- 小御門神社
- 郡停車場
- 佐原停車場
- 我孫子停車場
- 湖北停車場
- 布佐停車場
- 布川町
- 德満寺
- 米見寺
- 木下停車場
- 小林停車場
- 松蟲皇女廟
- 吉高城趾
- 鳥見が丘
- 花鳥山
- 印旛沼
- 安食停車場

甲武鐵道

- 松崎停車場
- 成田停車場
- 新宿停車場
- 内藤新宿
- 中野停車場
- 堀の内祖師
- 新井藥師
- 幡ヶ谷不動
- 荻窪停車場
- 井の頭辨財天
- 境停車場
- 深大寺村
- 小金井の櫻
- 田無町
- 國分寺停車場
- 貫井辨財天
- 府中驛

川越鐵道

- 大國魂神社
- 谷保天神社
- 百草園
- 立川停車場
- 多摩川鮎漁
- 普濟寺
- 日野停車場
- 八王子停車場
- 八王子城趾
- 小安明神
- 散田眞覺寺
- 小川停車場
- 東村停車場
- 所澤停車場
- 永源寺
- 小手指古戰場
- 物部天神社

青梅鐵道

- 山口觀音堂
- 入曾停車場
- 入間川停車場
- 堀兼の井
- 川越停車場
- 三芳野神社
- 喜多院
- 蓮馨寺
- 入間の里
- 拜島停車場
- 羽村停車場
- 網代鎖泉
- 青梅停車場
- 御嶽山
- 小河内温泉

八王子線

- 八王子停車場
- 淺川停車場
- 高雄山
- 琵琶ノ瀧
- 蛇瀧
- 與瀬停車場
- 上野原停車場
- 上野原町
- 鳥澤停車場
- 猿橋
- 大月橋
- 笹子峠
- 勝沼驛
- 大善寺
- 酒折ノ宮
- 善光寺
- 大泉寺
- 八幡神社
- 武田信玄の墓
- 武田古城趾

岩越鐵道

- 梅屋敷
- 甲府市
- 甲府城趾
- 三藤温泉
- 甲府公園
- 一蓮寺
- 尊林寺
- 長禪寺
- 豊受神社
- 厄地藏堂
- 湯村温泉
- 荏崎驛
- 神代櫻
- 郡山停車場
- 堀ノ内停車場
- 熱海停車場
- 熱海温泉
- 中山停車場

東武鐵道

- 山瀉停車場
- 關津停車場
- 川桁停車場
- 猪苗代停車場
- 猪苗代町
- 猪苗代湖
- 翁島
- 感忠碑
- 磐梯山
- 磐梯温泉
- 土津神社
- 磐梯神社
- 大冷水瀧
- 不動瀧
- 慈日寺舊址
- 若松停車場
- 若松町
- 伊佐須美神社
- 諏訪神社
- 蠶蚕園神社
- 融通寺

- 長命寺
- 寶成寺
- 東山温泉
- 喜多方町
- 圓藏寺
- 吾妻橋停車場
- 曳舟停車場
- 白鬚停車場
- 鐘ヶ淵停車場
- 堀切停車場
- 堀切葛蒲園
- 北千住停車場
- 北千住町
- 西新井停車場
- 西新井大師堂
- 竹ノ塚停車場
- 草加停車場

上武鐵道

- 新田停車場
- 浦生停車場
- 越ヶ谷停車場
- 大林村の桃林
- 武里停車場
- 粕壁停車場
- 隅田川古渡
- 牛島の藤花
- 杉戸停車場
- 久喜停車場
- 久喜町
- 久喜城址
- 甘棠院
- 鷺の宮停車場
- 鷺宮神社
- 加須停車場
- 熊谷停車場

龍ヶ崎鐵道

- 石原停車場
- 大麻生停車場
- 田中停車場
- 小前田停車場
- 寄居停車場
- 鉢形城址
- 象ヶ鼻
- 佐貫停車場
- 南中島停車場
- 入地停車場
- 門倉停車場
- 龍ヶ崎停車場
- 源三位頼政の墓

北海道の鐵道

室蘭手宮間

- 室蘭停車場
- 繪鞆牛島
- 鯨島
- 大黒島
- 洞爺湖
- 摺鉢山
- 堂が島
- 有珠灣
- 善光寺
- 有珠岳
- 禮文華
- 輪西停車場
- 鷺別停車場
- 幌別停車場
- 登別停車場
- 登別温泉

- 敷生停車場
- 白老停車場

○山上沼

- 支笏湖
- 錦多峰停車場
- 苦小牧停車場
- 沼の端停車場
- 早來停車場
- 追分停車場
- 三川停車場
- 由仁停車場
- 由仁村
- 栗山停車場
- 清真停車場
- 岩見澤停車場
- 岩見澤市街
- 幌向停車場
- 江別停車場

- 野幌停車場
- 厚別停車場
- 札幌停車場
- 偕樂園
- 中島遊園地
- 北海道物産陳列場
- 競馬場
- 博物館
- 屯田兵招魂碑
- 札幌神社
- 豊平館
- 旅宿と割烹店
- 石狩町
- 常山溪
- 琴似停車場
- 輕川停車場
- 錢函停車場
- 朝里停車場
- 小樽停車場
- 龍徳寺

追分夕張間

- 本願寺別院
- 量徳寺
- 高島岬
- 余市
- 然別嶺山
- 手宮石碑
- 追分停車場
- 川端停車場
- 瀧の上停車場
- 紅葉山停車場
- 清水澤停車場
- 鹿の谷停車場
- 夕張停車場
- 登川村
- 夕張名所

岩見澤歌志内間

- 岩見澤停車場

岩見澤幌内及び

幾春別間

- 峰延停車場
- 美唄停車場
- 奈井江停車場
- 奈井江炭
- 砂川停車場
- 神威停車場
- 歌志内停車場
- 岩見澤停車場
- 幌内太停車場
- 幾春別停車場
- 幾春別炭山
- 幌内停車場
- 幌内炭山

砂川旭川間

- 砂川停車場
- 瀧川停車場
- 空知太橋
- 江部乙停車場
- 妹背牛停車場
- 深川停車場
- 納内停車場
- 神威古潭停車場
- 神居古潭
- 伊納停車場
- 旭川停車場
- 第七師團
- 永山村

旭川落合間

- 旭川停車場
- 邊別停車場
- 美瑛停車場
- 上富良野停車場

旭川士別間

- 中富良野停車場
- 下富良野停車場
- 山部停車場
- 金山停車場
- 鹿越停車場
- 幾寅停車場
- 落合停車場
- 旭川停車場
- 永山停車場
- 比布停車場
- 蘭留停車場
- 和寒停車場
- 劍淵停車場
- 士別停車場

釧路白糠間

然別蘭東間

- 釧路停車場
- 大樂毛停車場
- 庶路停車場
- 白糠停車場
- 然別停車場
- 仁木停車場
- 余市停車場
- 蘭東停車場
- 函館本郷間
- 函館停車場
- 函館公園
- 谷地頭の湯
- 函館山
- 五稜廓
- 辨天山砲臺
- 八幡神社

東京灣内

- 大森濱海水浴
- 湯の川温泉
- 赤沼
- 枯梗停車場
- 七飯停車場
- 七飯試験場
- 大沼熊の湯
- 大沼小沼
- 葦荻湖
- 浦賀
- 保田
- 元名の羈王樹
- 鋸山日本寺
- 船形
- 船形観音
- 那古

汽船航路

横濱小樽間

- 那古観音
- 北條
- 館山
- 海水浴場
- 箱山公園
- 鷹島
- 根本海水浴
- 誕生寺
- 能代
- 土崎
- 酒田
- 新潟
- 直江津
- 伏木

小樽直江津間

北海航路

- 敦賀
- 境
- 下關
- 函館
- 江差
- 岩内
- 小樽
- 稚内
- 枝幸
- 紋別
- 常呂
- 猿間湖
- 網走
- 函館根室間

- 函館
- 森
- 室蘭
- 洞爺湖
- 根室
- 風運湖

伊豆七島及
小笠原島

- 利島
- 新島
- 神津島
- 三宅島
- 八丈島
- 小笠原島

(東部終)



日本
海陸

漫遊の葉

東部



東北鐵道

○上野は新橋と等しく南北に相對立し最も重要たる停車場にして、東北は陸奥青森に至り、尙は奥羽鐵道に連續し、田端より二線に分れ、一は陸羽濱街道となり、一は山手線目白に接續すべく、今は池袋まで運轉し、又大宮より分れて高崎に達し、之れより接續なして官線は遠く越後の直江津に至り、北越鐵道に導きて新潟に達す、小山には水戸行、前橋行の支線ありて、宇都宮より分るゝ日光線は東照宮を拜し、社殿の結構を観るべく、仙臺より分るゝ鹽竈線は松島に遊びて風光佳絶を賞すべし、又た赤羽より分れて品川に至れば、東海鐵道に接續なして東京以西各地方に旅行するにも亦た自在にして、共に遊歴者の至便なり、停車

場内には小荷物取扱所あり待合室には諸新聞を備う場内には各鐵道時間表及び賃金表、哩程其他數十の廣告等を掲げり亦唐物店あり煙草店あり麵麩、菓子、新聞、雜誌などの店舖等ありて特に旅客の便利とす旅客は貨物と共に輻輳し頗る雜沓を極むるが故専はら注意をなすべし扱亦此地は頗る繁盛の地にして停車場附近には郵便電信局あり亦茶亭、料理屋、旅舎、運漕店等軒を列らね鐵道馬車は前を通過して新橋、淺草等に往復なし廣小路には觀工場あり仲町邊は百貨共に備らざるなし今近傍の名所を舉れば上野公園、不忍池、湯嶋神社、神田神社、根津神社、淺學公園、入谷の朝顔、根岸にはお行の松、等なり亦鷺谷には温泉あり其他數舉するに遑あらず「東京獨案内」の記數書あれば之に就きて遊覽するを可とす

●田端停車場

○田端 は上野を距る僅かに二哩十三鎖、茲より陸羽貨街道の支線あり

り近傍に田端梅園あり亦日暮の里は虫に名あり道灌山は古へ太田道灌茲に築城せしが故に城山とも云ふ近時數百の櫻樹を増植し大に風致を補ひ公園となす亦眺望に富り花觀、納涼、聽虫、觀觀共に他に優れり

●王子停車場 (東京府武藏國北豊島郡王子村)

○王子村 は東京近傍の勝地として人の知る所なり、土地最も靜閑にして夏は避暑に宜しく、春は飛鳥の花、秋は瀧の川の楓樹、冬期に至れば飛鳥の雪雪又更に趣ありて四時遊人絶ゆる事なし、この地上野を距る僅々三哩七十三鎖、下等乗車賃五錢を投ずれば瞬刻にして至るべし、停車場前より右の方沿道には旅亭料理店軒を並べ就中海老屋を以て最とす、近傍に於て一顧すべきは飛鳥山、王子神社、王子稻荷社、瀧の川の樹、不動の瀑、名主の瀑等にして何れも六七町以内在り

飛鳥山 は停車場の南に歇てる高丘にして青き芝生は數萬歩に涉り其間に櫻樹の點々たるを見る、往時近傍平塚村より此の邊りまで豊島左

衛門が居城なりしと聞けど今は原ぬるに由なし、初め豊島左衛門丘上に飛鳥の祠を移し因て飛鳥山と稱しけるが寛永年中王子権現を造營するに方り山上の飛鳥祠を遷して権現の社頭に鎮坐せしめたるに依り今は名のみ残り、元文の比に至り台命に依て櫻樹數千株を植ゑ年を越えて花木林となりしより騷人墨客杖を曳く者夥しく今は隅田飛鳥を以て並び稱せらるゝに至れり、丘上よりは汽車の來往を眼下に瞰下し、近くは一面の青田を見晴し遠くは筑波榛名の翠黛を一陣に集め、風光頗ぶる佳なり、山に對し數町を隔て巍然たる煉瓦石造の巨屋あり、常に數條の煙突より黒烟を噴くを見る、是れ有名なる王子製紙場なり、督て庶人の縦覽を許したるが今は許さず

王子神社 是飛鳥山の地方音無川を隔てたる處に在り、境内には樹木鬱蒼として夏時暑氣を覺えず社殿の結構また壯觀を極む、本社祭神は中央伊弉册尊、左速玉尊命、右事解男命にして禪夷山金輪寺は本社及び稻

荷社の別當寺たりしが維新後神佛混同の弊を革めしより二社共に金輪寺の關係を斷ち別に社掌を置く本社、拜殿、舞臺、額殿等あり
不動の瀑 是停車場の西北六町許り正受院の本堂の後坂路を廻り降ると數十歩の所に在り、飛瀑丈餘蒼樹鬱鬱として天日を蔽ひ青苔露滑らかなにして爽氣肌を襲ふ、夏時に至れば瘋癲者などの來り浴する者多し、名主の瀑は停車場より北の方五六町に在り人造瀑布にして其の細き不動の瀑に比すれば雅俗同日の論にあらず、又稻荷にも瀑あれど名主より一層水細くして浴すべからず、楓樹は音無川の上流に在り秋期に至れば兩岸の錦繡水に映じ其美觀云ふべからず遊人は飛鳥の花に亞で多し

赤羽停車場 (東京府武藏國北豐島郡赤羽村)

○赤羽 是王子を距る二哩廿一鎮、元一小寒村に過ぎず此地の鎮守赤羽山八幡宮は文明の頃太田道灌の再興せしものにて頗る舊社なりと云ふ此驛は品川線と連續する處なれば以下品川驛より記載す

ては其の賃金上野より發するものに下等四錢を増す

●品川停車場 (東京市芝區高輪南町字谷山下)

東海鐵道第二の停車場にして日本鐵道會社支線の分岐點なり、支線は品川硝子製造所の背後を過ぎ直ちに一大屈曲を爲し西して居木橋、大崎二村を經、永峯往還の下に長さ百十二呎の隧道を貫き茲を過ぎて自から列車の停まる所即ち目黒停車場なり、品川近傍の名所は上編東海鐵道の部に詳らかなれば重複を厭ひて茲に掲録せず

●目黒停車場 (東京府武藏國荏原郡大崎村字上大崎)

目黒停車場は白金臺町より行人阪に至る途中永峯町の北傍に在りて乗車場は道路水平線の下十數尺の階段を降りたる處に之を設く、目黒村は停車場の西に方り上、中、下及び三田の四小村に分れ戸數六百八十餘戸、人口三千五百八十人、村内に竹林多く筒子を以て名産とす

目黒不動 是停車場の西凡そ十町字中目黒村に在り其途中の峻阪を行

人阪と云ひ左傍に明王院あり古へは此阪の東傍を夕日ヶ岡と稱へ楓樹數十株枝を交へ晚秋霜深き頃は夕陽其葉に映じて紅を漲らし頗る奇觀なりしと云ふ、阪を下りて太鼓橋を渡り行くと四五町にして家續きの處に出で蛸藥師堂の前より西折すれば即ち不動堂の門前に到る、不動堂は瀧泉寺と號し天台宗にして東叡山に屬す、門を入れれば正面に樓門あり二王を安置し後水尾帝宸筆泰叡山三字の額を掲げ左に垢離場ありて獨鈷の瀧は龍の口より迸しり出で、炎天早魃の時と雖も潤るゝとなし樓門を入りて石階を躋れば本堂に達し本尊は慈覺大師作の不動明王にして脇士は八大童子なり、堂後に大日堂、鬼子母神、開山堂等あり賽人常に蟻集するが中に一、五、九の三ヶ月に於る廿七八兩日は殊に賑へり又門前數町の間には茶店酒樓軒を並べ橋和屋、内田、角伊勢等其名高く橋和屋の牡丹花の如き都下名勝の一に算へらる、其西三町ばかりにして平井權入小紫の比翼塚あり茶亭角伊勢屋にては其の墓地を預り望みに應じて客を案内す

祐天寺

目黒停車場より西の方二十餘町、同く不動裏門より西北十二三町の處に在り享保年間二世祐海和尚祐天僧正遺跡の地を下して草創し則ち祐天僧正を以て開祖とす總門を入れば二王門あり持國廣目の二王を安置し祐海筆明顯山三字の額を掲ぐ門を入れば右に鯨鐘あり左に阿彌陀堂、經藏あり其の正面に巍然として屹立するものは本堂にして開山八十八歳の影像及び臨終の眞影を安す又經藏の後に開山の廟あり、開山祐天僧正(顯譽上人)が寛文年間下總岡田郡羽生村與右衛門の女房累の怨靈を法力に依りて解脱せしめし事普く世の口碑に傳はり當時僧正の用ひたる法衣其他の遺品を藏し毎年八月十一日庶人の縦覽を許す

●澁谷停車場 (東京府武藏國南豐島郡中澁谷村)

澁谷村は東京市青山北町の町續にして西南世田ヶ谷、二子等を経て相州厚木に至る縣道あり此地に昔し澁谷長者宗順なる者ありて今猶ほ其宅趾及び墳墓を存す近傍に氷川神社、澁谷八幡、長谷寺等あり又停車場より東

漫遊之業

第七圖

北陸道

比例尺六十分之一



南半里許りにして廣尾の笑花園及び祥雲寺等あり青山麻布に住ふ者此の停車場より乗降するを便利とす

豪徳寺 停車場より二子街道を西南の方に行くと五十町世田ヶ谷村の入口に在り曹洞派の禪刹にして文明年間の創建に係り高輪の泉岳寺に屬す中興の開基は井伊掃部頭直孝にして同く開山は天極秀道和尚なり、堂舎壯嚴、釋迦、彌勒、彌陀の三世佛を以て本尊とし寺内に清涼橋、黃鳥啼、星嶽丘、碧雲關、楓樹林、松柏壇、臥龍櫻、選佛場、枯華塔、照心堂等の十勝あり此寺元と弘徳院と稱し吉良治家封を世田ヶ谷郷に賜はりし時其の菩提所たりし所にして寺内に吉良氏の舊城趾及び吉良氏累代の墓あり又寺より西の方の岡續きに宮阪八幡宮あり吉良頼貞の建立する所と云ふ

●新宿停車場 (東京府武藏國豊島郡角筈村)

○内藤新宿 は東京市の西隅に在り街道の岐るゝ所を追分と云ひ右を青梅街道とし左を甲州街道とす、停車場は追分の西角筈村に在り赤羽線

及び甲武鐵道線と接續する所にして西すれば八王子に至り東すれば市内飯田町に達し北に向へば赤羽、大宮を経て陸奥、青森又は高崎、碓氷峠を経て越後の直江津に至り南すれば品川を経て京都、大阪若くは山陽各地に旅行し得べき四通八達之地にして乗客常に群集し新橋上野に亞ぐの繁忙停車場なり

十二社 新宿停車場の西十餘町角筈村に在り家津御子神を祭り紀州熊野神社と同神なり故に十二所熊野神社と云へるを世俗誤り傳へて十二さうと呼ぶ境内廣淵にして山あり池あり頗る風致に富めり又一條の瀑布ありて夏日納涼の爲め來り遊ぶ者頗る多し

●目白停車場 (東京府武蔵國北豐島郡高田村)

高田村は東京小石川區の西端に方り停車場は高田老松町及び關口町を距る僅かに十町餘の所に在り北は雜司ヶ谷村に隣り南は源兵衛村に接し西一里にして新井村藥師堂あり、高田は慶長年間越後少將忠輝の北堂高田

の君遊覽の地を拓きたる處にして後寛永年間徳川氏其跡に馬場を築きて高田の馬場と稱せり、又同村内に古へ所謂山吹の里あり太田持資放鷹の途中急雨に遇ひて雨具を借らんとして少女の爲めに山吹の枝を示され終に其意を解せざりしと云ふの舊跡なれども今は其地さだかならず

目白不動 停車場の東十八町關口臺町目白坂の上に在り地は關口の崖に臨みて南に早稻田の稻田を見晴し眺望稍や快濶なり、寺は眞言宗にして新長谷寺と號し本尊不動明王は弘法大師の作なりと言傳ふ當時は元年間和州長谷の小池坊秀算僧正の中興にして徳川秀忠公の命に依りて堂塔伽藍を建立し後ち長谷寺本尊と同作の觀音像を移して新長谷寺を改め三代將軍家光公之に目白の號を賜ひぬ、寺内茶亭多く四時ともに遊人絶えざるが中に最も雪中の景を好しとす

鬼子母神堂 停車場より北七八町雜司ヶ谷村に在りて法明寺に屬す本尊鬼子母神銅像は星の清水より出現せしものと言傳へ之を信仰する者頗

る多く參詣人常に群集し殊に十月八日より廿三日迄の會式には其雜沓云はん方なし、堂宇壯麗を極め寺域また廣寬、老杉鬱然として之を圍繞し入口兩側には茶亭いと多し

●板橋停車場 (東京府武藏國北豐原郡龍ノ川村)

○板橋驛 は東京市の北、中仙道第一次の宿驛にして上下二宿に分る驛は則ち下板橋にして停車場を距る十町ばかり驛内に北豐島郡役所、警察署及び旅店妓樓等軒を並べ車馬絡繹として往來最も繁し驛の入口にて道二つに岐れ左すれば上板橋を経て川越町に至り右は即ち本街道にして蕨驛まで二里十五町、浦和町まで三里廿五町なり又驛内に乘蓮寺、氷川神社等あり、驛の左の方少し入込みたる處に平塚山あり一祠ありて源義家の靈を祭り祠背の塚を鎧塚と稱へ義家の鎧一領を埋めたる處なりと言傳ふれども確かなる據どころ無きものゝ如し(線路は此驛の南を横ざり十條、稻村を經、赤羽にて奥羽及び中仙道幹線と聯絡す、

此驛(赤羽)より上り列車は即ち上野に至る、亦是より以下の記は即ち下り列車赤羽以北の案内をなす

戸田川鐵橋 は赤羽を距る數町に架す三千〇三十二呎の長橋なり

○川口町 は荒川の北に在り此地には鑄物師多し往時は川口の鍋つくりと云ひしが近時は鐵瓶、釜なども鑄造し漸次其製作進歩に趣けり善光寺 は同町の西北に在り平等山と號す建久五年僧定尊靈夢に感し此寺を創建すと本尊金銅の阿彌陀如來は四十八粒の佛舍利を納めしと云ふ亦當伽藍の階下には戎壇巡りと云ふあり

●蕨停車場 (同北足立郡蕨町字塚越)

○蕨町 は停車場の西十餘町に位し中仙道の一驛にして東京を距る四里許り、驛の廣袤東西二町、南北七町餘、人戸二千餘、維新前に比すれば稍や衰頽の狀なきにあらずと雖ども今鐵道の便を假りなば更に其の衰

運を挽回するの期あるべし、近傍案内すべき名所舊跡等なければ是より直ちに浦和驛に進むべし

●浦和停車場 (埼玉縣武藏國北足立郡浦和宿)

○浦和町 是埼玉縣廳の所在地にして驛の長さ南北拾餘町、戸數千八百餘、人口六千零四十七、所謂中仙道中の一驛なり、裁判所あり警察署あり郵便電信局あり又中學校あり埼玉縣下屈指の繁昌地となす然れども此の地東京に接近し交通の便利却つて商業不振の原由となり他の縣廳所在地に比しては稍や寂寥の憾なき能はず、驛の南端鬱鬱たる森林あり之を調神社といふ今は浦和公園となれり、境内幽靜にして茶店あり夏日暑を避け閑を遣るに足る

與野公園

浦和町の西北一里餘、與野町に一公園あり、地は一丘陵を爲して高低一ならず丘上には櫻花數百株枝を交へ老樹には幹空洞にして三人を容るゝに足るものあり、園の廣さは凡そ五千坪にして西隅に築山

あり之に登れば眼界忽ち開け四方田圃を見晴して風景頗る佳なり、花候に至れば近傍の士女磨集して頗る殷賑を極む

●大宮停車場 (埼玉縣武藏國北足立郡大宮町)

○大宮町 是所謂北越鐵道の起點にして東北鐵道線と分岐する所なり、故に東北地方に行く人、前橋高崎及び直江津地方に行く人は、互ひにこの停車場に於て乗換るなり、此驛も亦中仙道の一驛にして戸數九百餘、人口三千百三十八、武藏總鎮守と仰ぐ氷川神社は此の地に在り所謂武藏の一の宮なり、今は其の境内を以て大宮公園と爲す

大宮公園 是東京近傍に於て有名の勝地たり、停車場を距る僅々十二町、人力車に乗るときは直ちに達すべし、境内に鎮座する氷川神社は官幣大社にして社殿の結構甚だ壯觀ならずと雖も古松老杉鬱爾として枝を交へ頗る神威を添ふるに足る神社の前面には周回十餘町の古池あり之をみたらしの池と呼ぶ、之に目鏡橋を架し橋上に立て手を拍ば池中の

鯉魚聲に應じて群集し餌を投ずるを待つ、公園内第十四區より亞兒加里性の鑛泉涌出するを以て旅店萬松樓は館内に浴室を設け之を引きて客の一浴に便す、其他松友館、公木樓、藤ノ戸の旅店ありて割烹を兼ね

八本松 は氷川神社南大門八丁目を三丁ばかり東に入りたる所に在り

往時日本武尊東征の時御陣を据ゑさせられたる舊地なりと云ひ傳へり、

○湖田山 は文明中上杉定政の老臣太田資清の次男資忠の城址にして大

宮壽能の城といふは是なり天正十八年秀吉の爲めに亡ぼさる○九郎塚稻

荷 は足立藤九郎盛長なる者其住地に塚を築き稻荷の祠を安置せしを以

て初め藤九郎塚と云ひ後年誤りて黒塚と書するに至れり今も尙ほ稻荷の

祠ありて公園より遠からず

●蓮田停車場 (埼玉縣武藏國南埼玉郡綾瀬村)

○蓮田 は南埼玉郡の西隅に在る一小村にして今は綾瀬村の大字に屬

し戸數二百戸、人口九百八十を有す、村内記して傳ふべきものなし但し

是より岩槻町へ壹里餘、粕壁町へ二里半

●久喜停車場 (埼玉縣武藏國南埼玉郡久喜村)

○久喜町 は戸數六百五十餘、人口二千三百五十九、驛の長さ五町許

り人家軒を並べて一市を成す、是より東北里許にして幸手驛あり所謂陸

羽街道の一驛なり、當驛及び栗橋の間に流る、一川あり權現堂川と云ふ、

利根川の支流にして一朝洪水氾濫する時は必らず其の患を被ふる、明治

八年幸手栗橋の人民相商り堤防を築きて其の患を防ぐ、其の長さ十餘町

に亘る、同九年車駕東巡の時駕を堤上に駐め其工事に與かる者に金賜を

あて之を賞す、因て名けて行幸堤といふ事記して碑石に在り、又是より

左折里許にして霞ヶ關舊趾あり古松一樹を餘す、東京霞ヶ關は此名を移

すものなりといふ

●栗橋停車場 (埼玉縣武藏國北葛飾郡栗橋町)

○栗橋町 は陸羽街道の一驛なり、停車場を降り右一町許りにして驛

に出づ、宿の長さ五六町、戸數七百餘、人口二千七百四十五、北葛飾郡中幸手驛に次ぐの繁昌地なり、是より利根川の川幅最も廣き所の鐵橋（長さ一千五百二十七呎）を渡りて古河に達す、此の所は川を以て武藏下總、埼玉茨城の國縣を分ち川の中心を以て堺とす、古河は即ち下總の西葛飾郡に屬せり、幕府は替て關を此所に設けて行旅を驗したるが維新の後之を廢せり。

靜御前の墓　は栗橋停車場を距る西南數十歩伊坂村に在り、舞妓靜義經の陸奥に在るを聞き往て從はんと欲し途にして既に死するを聞き還て此に來り會ま病に冒されて死す因て葬ふるといふ、利根川の北中田村に光了寺といふ古刹あり、今に靜の舞衣ををさむ、越中守少將松平定信其事を記して收めたる箱あり後人のつくり物にはあらざるべし。

●古河停車場（茨城縣下總國西葛飾郡古河宿）

○古河町　は下總の西端に在りて茨城縣に屬す、土井氏の舊城下にし

て古來下總の要地とし所謂陸羽街道の一驛なり、戸數三千餘、人口九千七百五十九、人烟稠密、車馬絡繹管内屈指の名邑たり、是より東南に鴻巣及び茶屋新田あり、此地は中古足利成氏の據るところにして古河公方の城址是れなり

鮭延寺　は古河驛の東十五町許り大堤村に在り、此の寺は出羽の最上義光の家人鮭延越前が爲めに建てし寺なり、越前替て最上の家にて一萬五千石を領したりしが最上侯亡びて後從者二十人と共に浮浪の身となり古河に來りしに城主土井利勝之を聞き越前に五千石を與へて抱へたり越前之を自ら受けずして二十人の從者に分ち各々五十石の士となし己は一日かはりに二十人の家を巡りて養はれけり年經て病歿せしを二十人の者悲嘆遣る方なく遂に一寺を建立して鮭延寺と名けたりとぞ、熊澤番山の墓も亦境内に在り

源三位の墓　は土井氏の舊城内に在り、傳へ云ふ賴政宇治の役自殺せ

んとし其の臣渡邊唱に必らず吾首を瘞めよと命せしかば唱其首を囊にし此に來りて下河邊行平に投じて以て葬ふる、行平は嘗て射を三位に學ぶ者、故に其恩に酬ゆるなりと、近傍に足利成氏時氏等の古墳あり

●問々田停車場

(栃木縣下野國下都賀郡問々田村)

問々田は陸羽街道の一驛にして戸數凡そ一千戸、人口五千人あり市街は南北に長くして其の繁昌小山宿と伯仲の間に在り、陸羽街道を旅行する者古河より當驛に來る間一二の古跡あるを見るべし野木明神は野木村に在り皇子菟道稚郎子を祭る其西南八町ばかりに臺手函古墳あり仁徳天皇の御宇下野の國造奈良別命の任に赴くに方り稚彦皇子の遺骨を奉じて來り葬る即ち往古野木宮の舊趾なり

●小山停車場

(栃木縣下野國下都賀郡小山町)

○小山町 は古河を距る九哩七十五鎖、野木、問々田を経て到るべし、此の地從來宇都宮に亞で殷盛なりしが維新以來馬車及び小汽船等の往來

開け、爲めに旅客は足を止めず、商賈また活路を失なひ頗る衰狀を呈したりしが近時鐵道の敷設ありしより水戸鐵道の起點となり、兩毛線路も亦此驛に於て岐れ東北線も亦此を過つて北行し、實に四通八達の最要地となりしを以て漸く其の衰頽を挽回するの運に會せり、現今の現況を聞くに戸數一千三百餘、人口四千八百五十二尙ほ漸々増加の勢ひありと、驛の中央より左折すれば小山氏の城趾に至るべし其他名勝舊跡の案内すべきなし(水戸支線は別に項を設けて記載す)

●小金井停車場

(栃木縣下野國下都賀郡小金井村)

○小金井 は今は國分寺村に合し字となれり、國分寺村は戸數千餘、人口三千七百七十八、此の地又小市を成す近傍一顧すべきは左記の藥師寺の舊蹟なりとす

藥師寺舊趾 小金井驛を距る東州町に在り、驛のはづれより右に入る昔し廢帝の寶字五年始めて戒壇を下野の藥師寺并に筑前の觀世音寺に立

らる、凡そ天下に戒壇ありしは南都東大寺と此の二ヶ寺あるのみ此外に立るを許されずとなり、偕此舊跡を探らんと欲せば先づ驛の外れより右に入り那須野に續きたる曠野の草むらの小徑を行けば藥師寺村に至る、此處に祥雲山龍興寺といふ古刹あり門を出て右の方に弓削道鏡の墓あり道鏡罪あり流されて藥師寺の別當となりて死せしといふ、又鑑眞法師の墓あり、碑の表に鑑眞大和尚、傍に天平寶字七壬寅五月五日と鐫つけたるがあざやかに見ゆ、又一古墳あり傳へて稱徳帝の陵墓とす、然れども道鏡の墓あるを以て附會したるならん、茲を去つて醫王山安國寺に至れば境内に戒壇のありし所とて六角堂を建てたり、此の二寺共に藥師寺の跡なりとて兩寺争ひを起し享保の頃幕府の處分を受けしが何れとも決せずして止みたりと

●石橋停車場 (栃木縣下野國下都賀郡姿村)

石橋は姿村の一部にして大字石橋といふ、姿村は戸數千餘人口四千三百

二十九ありて頗る大村なり、是れより雀の宮に至れば縣社雀の宮あり、この邊りより東に當り筑波足尾、北には黒髮山などの諸山見えて風景頗る佳絶なり

●宇都宮停車場 (栃木縣下野國河内郡宇都宮町)

○宇都宮町 は舊戸田因幡守の城下にして陸羽街道中屈指の名邑たり、市の廣袤東西壹里拾二町、南北一里二十三町餘、市坊四十九、戸數九千五百餘、人口三萬零百三十二、此の地往昔宇都宮氏の居城にして子孫此に住し兵威大に振ひ終に州主と稱し壬生、泉、山田の諸族皆な來り屬せり、天文中に至り那須氏と戰つて大に敗れ、北條氏亦州の南境を屬せしかば兵勢漸やく衰ふ、後國綱に及び豐臣氏に屬し功を以て舊封十八萬七千石を全うするを得たるが慶長二年又罪を獲て其の封を收め之を蒲生秀行に賜ふ、六年徳川氏秀行を會津に徙し奥平家昌之に代り、又數姓易封の後寶永中戸田忠眞を封ず、忠眞一旦島原に徙されしも曾孫忠寛に

至りて封を復し以て維新に及べり、王政革新の始め日光縣を置き既にして之を廢して宇都宮縣を置き、又廢して栃木支廳を置きたるを又々廢して遂に栃木縣廳を置くに至れり、縣廳の外裁判所、大林區署、警察署、監獄署、郵便電信局及び師範學校等あり、東北鐵道線の一驛にして殊に日光線路の起點たり、縣下唯一の繁昌地たる知るべきのみ、旅亭の重なるものは手塚屋、白木屋、稻屋、丸屋、高澤屋、林屋等なり

二荒神社 ふたらじんじや は宇都宮市に在り是れ所謂る宇都宮なり、二荒は此の社の地より日光山に續ける山の惣稱なりといふ（詳しくは日光の部に記す）日光の二荒神社と孰れが本家なるや分家なるや、知り難し祭神は共に大己貴命なり或は皇子豐城入彦命を祭れりともいふ神殿は維新の際兵火に罹りて焼失せしを數年前造營せり先年官幣中社に列せらる、境内には下野十神社、猿田彦社、天神宮、招魂社等多くの末社あり例祭は九月九日を以て執行す

鐵の碑 市中誓願寺といふ寺に在り正和元年宇都宮公綱其母の十三回忌に建てしものなりといふ、因みに記す公綱より五代ばかりの祖に宇都宮彌三郎頼綱といふ者あり、入道して蓮生法師といふ、和歌を好くし老て後京師に至り嵯峨の中院に住めり、世にもてあそぶ京極黃門の百人一首は此の入道の住居の障子に押す料として書きしものなりといふ

蒲生君平舊趾 がまふくんへいあざ は市中禪林寺に在り、君平は勤王の王なり數々朝廷より追賞の特典を蒙ふり曾て勅して正四位を贈らる、著はすところ職官志

山陵志等あり世に知らる

大谷山 たいやさん は宇都宮を距る西北二里半に在り、宇都宮停車場より入車鐵道にて行くを得べし、山は巖石より成り奇岩怪石簇立して峰を爲す、就中巖を穿ちて數多の佛像を爲す者最も奇觀なり、門あり之を入れば廣さ百歩許り内に千手觀音の石像を安置す身の丈一丈六尺、山巔に上れば姿川の上流に望み眼界豁然爽快云ふべからず、是れ實に全國無比の仙

境なりとす

清嚴寺 是宇都宮町に在り、旭蓮舎儀翁を開山とす弘治年間の創建にして御室念佛堂の舊蹟なりと云ふ

粉河寺 是同所に在り、本尊千手觀世音は紀州の粉河寺を移せりと云ふ、南朝紀傳に北朝の應安三年五月宇都宮氏綱紀州に敗れて粉河寺に入りて卒す云々蓋し之に由て茲に移せるものなるべし

是より以下日光支線に導き日光及び其近傍の名勝を案内す

●砥上停車場 (栃木縣下野國河内郡妻川村大字下砥上)

○砥上 一小村のみ、日光支線第二の停車場にして宇都宮を距る三哩四十八鎖、今は上下砥上鶴田等の諸村を合して妻川と稱す、停車場は字下砥上に在り、近側觀るべきものなし

●鹿沼停車場 (栃木縣下野國上都賀郡鹿沼町)

○鹿沼町 是日光線路中第一の繁昌地にして町の廣袤東西十二町二十

五間、南北三十四町三拾八間、市坊十五、戸數三千、人口九千五百八十二、麻を以て名産とす停車場を降り六七町にして石造の巨屋あり、是れ有名あさばやしの麻紡績會社なり、大津あさばやしの麻紡績、札幌さっぽろの製麻紡績、之を日本三紡績せきといふ、其の盛大推して知るべきのみ、驛は停車場を距る十餘町の低地に在り、上都賀郡役所、警察署、郵便電信局等皆な市中に在り、又驛の西方に鹿沼入道の古城址あり

●文挾停車場 (栃木縣下野國上都賀郡落合村大字小倉)

文挾は落合村の一部にして小代、板橋、明神、文挾等を合して一村たり大谷山だいやさんの麓ふもとに位し山中の一驛なり、是より西北二十三町にして小代温泉あり此温泉は笈かけひを設けて日光湯本温泉を遠く引來りて浴客の便に供したるなり、旅舎一戸あり庭前の池には鯉鮒こひなをやしなひ室むろまた清潔せいけつなり、宿

●今市停車場 (栃木縣下野國上都賀郡今市町大字平ヶ崎)

○今市町 は日光を距る四哩一鎖の所に在り戸數一千七百餘、人口五千百餘、鹿沼に亞ぐの繁昌地なり、維新の際兵火に罹り民家過半燒燼したるが今は全く舊に復せり、又此地に二宮尊徳翁の墓あり

藤原温泉 は下野國鹽谷郡藤原村大字藤原に在り、今市停車場を距る北の方四里半、倉ヶ崎、大桑を経て高德に出で同村より鬼怒川の東岸に沿ひ大原を過ぎて藤原に到る、東に金山を負ひ、西南に日光の連峯を望み、鬼怒川は村の西を流れ、土地高燥にして空氣乾燥せり、夏日陰雨多し、秋季晴日多し、常に西北風多くして盛夏は九十度以上に昇り隆冬と雖ども積雪尺に満たず、温泉は鬼怒川の東岸岩石の間より湧出し無色透明反應は弱亞兒加里性にして九十六度の温度を有す其分拆表を見るに一リートル中の固形成分は左の如し

| | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 格魯兒 | 少 | 量 | — | 硫 | 酸 | 少 | 量 |
| 佳 | 少 | 量 | — | 加 | 里 | 少 | 量 |

此の温泉は明治二年創めて發見し明治十二年三月浴場を設けたり温泉宿は幸屋(星猷治)一戸あるのみ、幸屋の宿料は一日凡そ七十錢内外を通常のものどす、元來此の地は僻陬に位するを以て、浴客甚だ多からず、然れども都會の弊風に染まざるを以て、大に善し、當温泉場より鬼怒川の流れを隔て、對岸に

| | | | | | | |
|-------|---|---|---|-----------|---|---|
| 那 篤 倫 | 少 | 量 | — | 麻 俣 涅 失 亞 | 痕 | 跡 |
| 加 留 基 | 少 | 量 | — | | | |

瀧温泉 あり藤原村に屬す河上に假橋を架して相往來す、東北に高原山あり西南は黒髮山の餘脈なる栗山諸山あり、氣候風土は藤原温泉場に異ならず、温泉は鬼怒川の南岸砂石中より湧出し大出某浴場を設く、湯槽四個あり浴客は夏秋に多く冬春に少なし、泉質は硫黃泉にして無色透明、其の反應は亞兒加里性にして百七度の温度を保つ、之を發見せしは今より百三十餘年前寶曆年間に在り、今市停車場よりの順路、人力車賃

等は藤原温泉に異ならず

川治温泉 藤原温泉場より鬼怒川の東岸に沿ひ行くと北方一里餘にして高原村に至り橋を渡れば即ち川治なり、此の橋を追欄橋と呼び川を男鹿川といふ、男鹿川は高原村にて鬼怒川と合するなり、温泉は河岸の岩罅より湧出し男鹿川に接近するを以て流水を混ず、泉質は鹽類泉にして百十三度の温度を有し打傷、創傷、疝氣、痔疾、胃病、肺病等に効あり地勢は西南一帯高山を帯ぶるを以て緩かに朝暈を受くるに過ぎず、その風向は常に西北風多く雨の多少、空氣乾濕の有様等は藤原温泉に異ならず、同所は戸數十四、温泉宿二戸近江屋鬼子三、神山某あり近江屋の母屋は後に温泉ヶ嶽を負ひ長屋は前に男鹿川を臨みて景色頗る佳なり籠目巖 は今市より東北二里餘、岩生村に在り大渡の渡船場を渡り鬼怒川の北岸に沿ひ行くと十五町許にして達す、奇觀云ふべからず此近傍の勝地を探らんと欲せば必らず一遊して可なり

●日光停車場 (栃木縣下野國上野郡日光町)

○日光町 停車場を出れば道の兩側に各旅亭の出張店あり之より爪頭上りに道を行き大谷川假橋に至るの間を出町といふ、兩側に旅店、料理店及び日光名物の挽物細工、獸皮、羊羹等を賣る家軒を并べ夏日は頗る繁昌を極む、市街は盤戸町、松原町、君屋町、御幸町、稻荷町、鉢石町等の十三町より成り、其の廣さ東西三十町、南北五町、戸數二千、人口六千五百七十五を有す、又市中觀るべきもの多し、瑞雲山龍藏寺の觀音(石屋町に在り)は慈覺大師一刀三禮の作にして坂東第三十二番の札所たり、又惠心の作れる辨財天あり、石山觀音寺(鉢石町に在り)より少しく登りて觀音堂あり、玆に安置する千手觀音の像は弘法大師の作なりといふ日光町にて旅亭の名高き者は左の如し

- 小西屋喜一郎
- 會津屋喜平
- 神山 徳平
- 古橋 保平
- 紙屋 中平
- 油屋長之助
- 笠屋喜三郎

旅客は先づ此の旅店に投じ豫かじめ行く所を定め案内者を雇ふて見物に赴くを善しとす、請ふ東照宮の案内より始めん

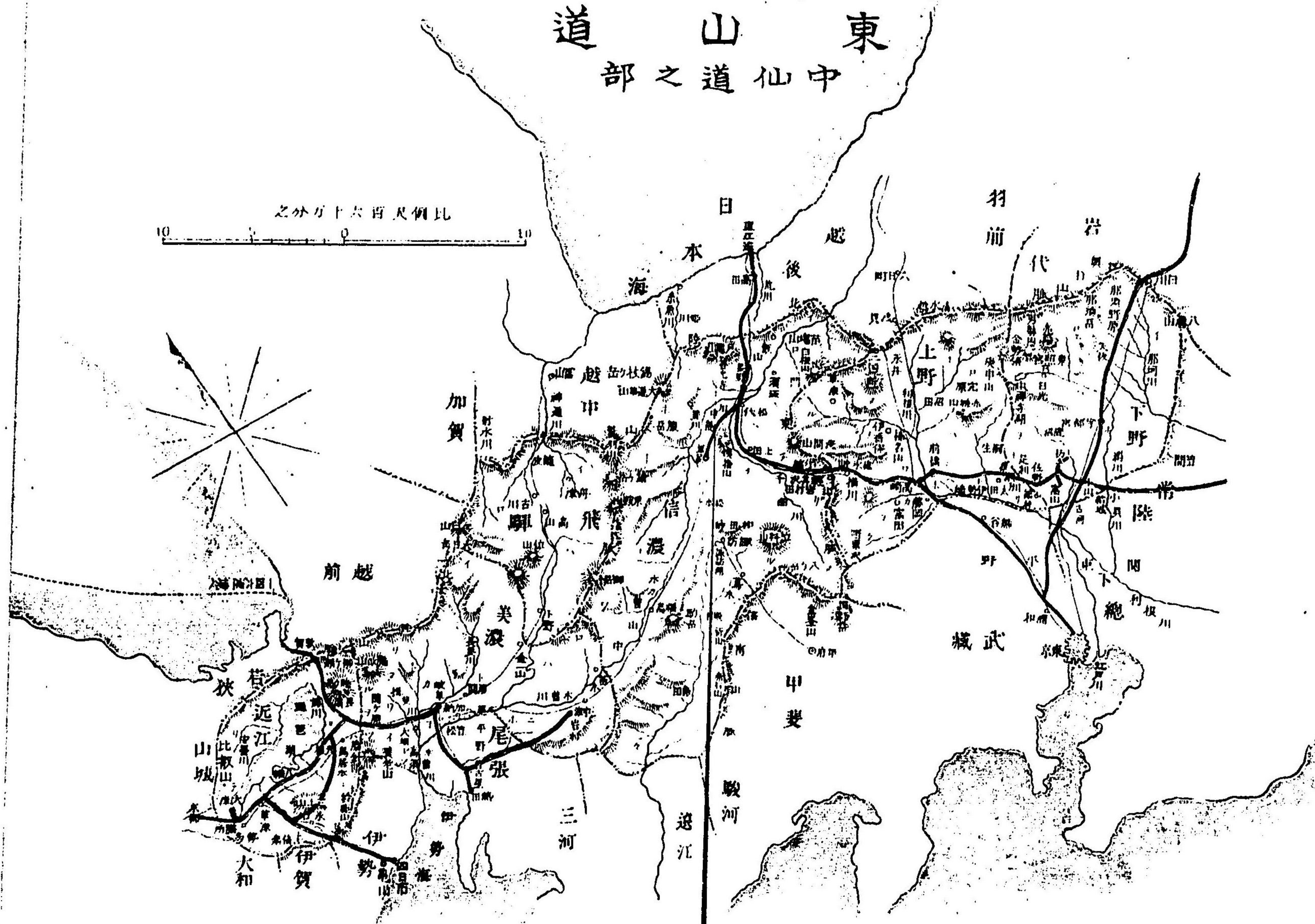
東照宮 は贈正一位太政大臣徳川家康公の靈社なり、元和二年十月始めて宮廟を營み、公の遺命を奉じて久能山(公の遺骸は久能山に葬むる)より此地に遷葬したりといふ、元和三年二月朝廷宣して東照宮大権現の號を賜ふ、同三月九日勅使江戸に降り正一位を贈らる、明治六年別格官幣社に列す、東照宮に參詣するには先づ出町より西して大谷川の岸に至る、越に假橋ありて左方に神橋を望む、神橋は初めの名を山菅の蛇橋と云ひ、長さ十四間幅三間朱を以て塗り勾欄擬寶珠に渡金の金物を用ふ、假橋を渡り老杉翁鬱たる間を過ぎ石階を登り行くと三町にして華表あり高さ二丈七尺、笠木七尺、總て花崗石より成る、額面は後水尾天皇の宸筆なり、華表の左方に五重塔あり高さ十七間二尺、承塵の上圍に十二支の彫刻あり、華表の右方に番所あり是より表門を過ぎ左手に三神庫、神

漫遊之彙第八圖

東山道

中部之道

比例尺六百尺一分



既つまやを見て進めば突つぎあた當りに鍋島信濃守の寄進せし花園石の手水鉢あり又銅
 の華表あり之より又石階いそがひを登れば右に鐘樓あり左に鼓樓あり、又此近傍
 に諸侯の献納せし燈籠數十基あり、朝鮮國より献納せし虫喰鐘、琉球よ
 り献納せし蓮燈籠、和蘭國より贈りたる廻燈籠等は殊に奇品なり、是より
 又石階を登れば陽明門あり、俗に之を日暮門といふ、美術の妙を盡し終
 日眺ながむるも猶ほ飽あかざるの思ひありとて斯くは名づけたりとぞ、陽明門は
 破風造りの樓門にして破風下軒端には四方に金鈴を懸け表に極彩色の隨
 身しんあり裏には金色の獅子を排置す、其の欄間欄干には人物花鳥等種々の
 彫刻あり或は角木の端に刻し、或は丸彫にせるあり總て良工名匠の手に
 成り精密なる彩色を施し且つ室毎に鍍金の金物を隈なく鏤めたるを以
 て光彩燦然として人目を眩くらます、陽明門と相對して正面に唐門あり總て
 素木造りにして四方棟、唐破風造りなり正面の破風の上に唐銅製の恙つぎの
 虫むしを繋ぎ破風下、欄間、梁、柱ともに彫刻の妙を極む、又他木を接ぎ飾

れる所なく其の精微に至りては筆舌の能く盡す所にあらず、唐門を入りて拜殿に達す、拜殿は間口九間奥行五間の廣厦にして向拜付階段五級、すべて鍍金の金ものを張り濱椽高欄は蠟色塗にして殿内の柱は總金箔なり唐戸も亦蠟色塗金蒔繪なり、中の間は六十三疊、折揚格天井には青地に蟠龍を畫き、承塵の上には後水尾天皇御染筆、土佐左近將監畫の三十六歌仙の額面を掲ぐ、東に將軍家着座の間あり、十八疊にして其の天井は折揚天蓋造り、中心に伽羅木を以て葵の紋章を着け、又正面左右には唐木の寄木を以て桐に鳳凰を彫付けし羽目あり、西に輪王寺宮休息の間あり、亦十八疊にして天井に天女の像を彫り、羽目は鷲松梅等の唐木彫あり、拜殿と石之間の間に四季の柱あり、堆朱の柱にして一基の價當時八萬兩宛なりといふ、拜殿の正後に本殿あり、本殿は桁行七間五尺、梁間六間、破風には鳳凰の彫刻あり、梁、欄間等には鳥獸草木の高麗あり、殿内には内陣、空殿など稱する所あり何れも金銀珠玉を鏤め滿目燦

爛、人をして目眩し魂飛ぶを知らざらしむ、唐門を出で、神樂殿と社務所との間に至れば茲に猫の門あり、承塵の上に丸彫の睡猫あり左甚五郎の作なりといふ、門を入れれば坂下門あり素木作りにして椽は黒塗なり、冠木には牡丹鶴を彫刻す、之より石階を登りて本殿の正後に當る山頂に達す茲に奥殿あり、唐銅の華表の内に拜殿ありて其後に玉垣を廻らし中に唐銅の寶塔を建て下に家康公の尊骸を斂む、以上巡覽し畢らば案内者は更に參詣人を二荒山神社に導くべし

二荒山神社 是東照宮の表門より右折して新宮馬場を出で數十歩にして其の本社に到る、此の社は二荒山三社の新宮と稱し祭神は大己貴命なりといふ、社傳を按ずるに今を距ると二千餘年の昔し崇神天皇の御宇皇子豊城入彦命東國を治めんとて降りたまひ親から崇祀し奉つる云々是れ禰祀の縁由なり、其後幾多の變遷ありて明治六年國幣中社に列せられ自今官祭を仰せ出さる云々、東に向ひて唐銅の華表あり高さ二丈二尺、

周圍六尺五寸、有栖川煇仁親王揮毫の額を掲ぐ、又素木造り三間四方の神庫、素木づくりの舞樂殿及び高野槇の神木、俗に化燈籠と稱ふる唐銅の燈籠あり、茲を過ぎて拜殿に至る、拜殿は間口七間奥行四間半にして總朱塗なり其の後に唐門あり、唐門の正面は即ち本殿なり、本殿は所謂る八棟造りにして濱椽向拜付、總朱塗、正面の扉は黒塗なり、本殿の外通り長押欄間には花鳥木獸を或は書き或は彫りて總て彩色を施し又内殿の左右に神寶を並列す、唐門外の西南に前記の化燈籠あり高さ七尺許りにして古色を帯び且何故にや數多の刀痕を見る、正應五年鹿沼入道教阿の献寄する所、拜殿の傍に高野槇あり、相傳ふ弘法大師登山の時苗木を高野山より齋らし來りて植る所なりと

大猷院殿の靈屋　　は徳川三代將軍家光公を葬る所なり、正面に二王門あり桁行四間半、梁間二間半、三棟造り左右に右彌那羅延金剛、左輔密迹金剛の二王を安置す、裏の左右にも同形の二王を安す是は東照宮の表

門に在りしを明治六年此所へ移せり、二王門を入りて左折すれば二天門あり樓上の高欄擬寶珠等にはすべて鍍金の金ものを用ひ且つ所々に葵の紋を點す、此門北に向ひ右に持國天、左に廣目天の木像を安す、又裏面に風雷の二神を假置し其の題額は後光明院の宸筆なり、茲を入り右曲左折して七十二級の石階を昇れば左右に鐘鼓の二樓對峙す二樓の間より望みて正面に輝き立つものは夜刃門なり桁行四間二尺、梁間二間半、唐破風造り兩面の左右に健陀羅、毘陀羅、烏摩勒、阿跋摩の四夜刃を安置す門の左右に廻廊あり玉垣の前には諸侯の献納せし燈籠十基を羅列せり、茲より敷石を歩して内に入れば唐門あり鍍刻の精采畫の美また言を俟たず、唐門より左右後へ折廻して拜殿本社を圍む玉垣あり、羽目は地紋をすかし上の欄間は竹松梅椿及び種々の草花に群鶴を刻む、拜殿は東北に面せり其のつくり向拜付にして五級の階段あり、階は臘色の研出しにして高欄は朱塗に鍍金の金ものを鏤め唐戸は金色にして地彫高彫あり、殿

内は六十二疊敷、中央に滅金の天蓋を掲げ其下に金梨子地の高机及び三具足を備ふ、拜殿の次に間室あり間口一間二尺、奥行四門半許り、次に在るものは本殿にして方五間半ばかり、佛殿造り二重屋根左右の破風板は金の向龍、枇杷板は牡丹其下に双頭の犀を刻せり、内扉は常に鎖して人に見せしめず、其内は壯嚴赫灼として大猷公の靈牌を安置すと聞けり、是より唐門を出で右の方塀重門を入り更に包裏門を出で、石階を登れば皇嘉門あり、是は朝廷より賜はりし門なりといふ其形他の諸門と異なり俗に龍宮造りと唱へ樓腹は白堊を以て塗り内外の桁は堆朱に地紋を刻り天井には天女の像を畫けり、門内に二條の石階あり左は寶庫に至り右は奥の院に至るべし、奥の院拜殿の中央には天蓋を掲げて下に高座を据ゑ左右に厨子入の佛像を安置す、又殿後に石垣を築き正面に唐銅鑄抜の堅門を設け其の兩袖より圓筒の石柵を廻らし中央に黃銅製の寶塔を安す、高さ一丈許り基石は八角五級なり都て奥院の構造は東照宮の奥宮と

殊なる所なしといふ、以上拜覽し了りたる後は更に近傍二三の瀑布及び勝地に案内せん
霧降の瀑 は神橋假橋を渡りて右折し日光小學校の前を過ぎ新道を選みて御料地の右を過り假橋より一里半にして山頂平垣の所に達す此所に望瀧臺ありて瀧の全形を望むべし夫より又九々折なる嶮隘の小道を二三町下れば瀧壺に至る、瀧は二級に飛下す上級を一の瀧と云ひ下級を二の瀧といふ、一の瀧は高さ十三四丈幅三四間、二の瀧は高さ十二三丈幅十間許り、其の形勢二の瀧の半ばより二流に分れ突起せる岩角に觸れ、激して飛散す、水氣煙霧の如く溪口に滿ち殆んど咫尺を辨せず遊客爲めに衣を濕す依て霧降の名あり
裏見の瀧 は日光町より西南一里十五町、霧降とは全く正反對の方位に在り、假橋より大谷川に沿ふて上り田母澤橋を渡りて蓮華石を過ぎ大日堂の近傍を過り、中禪寺道より左に岐れ新道を行くと凡そ二十餘町に

して荒澤の麓一茶亭のある所に達す、この茶亭より道を左に取り崎嶇たる逕路を躋り更らに溪に沿ふて下れば裏見の瀧は正面に懸り左右また小瀧を懸けたり、橋の左より更に峻岩を踏み小瀧を涉りて迂回すれば瀧の裏面に至るべし、行人皆な茲に來りて瀑水を其の背面より見るを常とす故に裏見の名あり、瀑布の落つる所の岩上に不動の石像を安置し落口の傍らに不動堂あり、今は堂宇太く頽廢し其本尊を失ひて空堂となれり慈觀の瀧　は裏見の瀧の上流に在り、荒澤の茶亭より志津道を廿町許り行きて右へ分れ爪先上りに十二三町登り又右の方へ二三町降れば瀧の在る所に達すべし、瀧の上は一大平石斜面を爲し其幅十五六間長さ五六十間、而して瀧の落口は屋簷の如く突出て出入なし瀑水は上の平石を流れ來り鼻端の凹所より數派に分れて飛下す、其水濺りて小潭をなし更に二派に分れて懸崖を下ると三丈餘り奇觀名狀すべからず、此の瀧は慈觀僧正の發見する所なりとて其名を慈觀といふ、此の所も亦楓葉の勝地たり

り秋季に至る者必ず一遊すべし
 華嚴の瀧　はむかし江尻瀧、又八鹽瀧といふ、日光町より中禪寺道を進み清瀧觀音堂の傍らを過ぎ牛王阪を登り行くと十町許りにして馬返村に達す、又行くと數町道は漸々に上りて屢々危橋を渡り深澤の茶屋を過れば山路ますます峻峻、其最も峻しき所を劍ヶ峯といふ、是より北に般若の瀧、方等の瀧あり劍ヶ峯より北に進み漸やく峻阪を過ぐれば大平に出で是より行くと四五町忽ち左に折れて小徑を辿り行けば水聲滔々として遠雷を聞くが如きあり是れ即ち華嚴の瀧なり、對岸高き所に一字の茶亭あり瀑に對して床几を設けて觀覽者の休憩に便す、此の瀑布は中禪寺湖より落ち大谷川の水源となれるものにして直下七十五丈、幅八間其の下は人跡の能く到るところにあらず、實に間東隨一の大瀑布と稱す又此の邊に岩燕と稱ふる小鳥あり水煙を破りて翱翔す其の數幾百なるを知らず此鳥獨り此の近傍にのみ棲息すといふ

中禪寺湖 又南湖と云ひ幸の湖とも稱す、東西の長さ三里、南北一里餘、周圍七里三十二町と稱す、湖岸には喬木修竹、蓊鬱として繁茂し、湖水を蔽ふて影を水底に浸す、水は極めて清冷にして細波激澗汀を洗ひ艇を放つて一葦の行く所に任せば歌之濱、寺崎、日輪寺舊跡、上野島、千手が崎、紅葉浦、葛蒲沼等の名所を觀るべく、又遠近の翠巒倒さまに青鏡の面に映ずるあり、風光明媚にして心目ともに一新するを覺ゆ、湖畔に中宮祠及び社務所あり又泉屋、蔦屋、米屋、中村屋等數軒の宿屋あり、毎年八月五日より七日間二荒山神社登拜の神事を行ふに際しては此の地の繁昌大方ならず

湯本温泉 之を中禪寺温泉といふ、舊記に天文十三年鎌倉公方入浴云々とあれば其の以前より開けたるものなるべし又正保年度前までは御所湯、娑湯、三間湯のみにて當時女人牛馬結界の場所なれば浴客も多からざりしに維新以來其の禁を解かれてより運輸の便と共に開けて浴舎の營

繕新築日に加はり二層或は三層の高樓を構へ大屋支店を分ちて客室を設く其の繁昌又昔日の比にあらず近來貴顯紳士及び外國人等杖を曳く者多し、里程は日光町より六里十一町（中宮祠湖畔より三里と云へど二里強に過ぎず）地形は東西北の三面に山を遶らし南の一方は湯の湖の青くして藍を流せるが如きを望み、海面を抽と四千尺餘、氣候は土用中晝は凡そ八十度朝夕は七十度を昇降し眞に暑さ知らずの土地なり人家三十戸許り涌口は東の山麓に散在して浴場十餘槽あり皆硫黄泉に屬す、温泉宿は吉見屋善右衛門、山田屋善六、松本半才紋其他數戸にして就中山田屋、吉見屋の家居は最も手廣にして内湯の設けあり、此地冬春の季は雪深く寒威烈しきに依り陰曆四月八日初めて浴舎を開き九月八日を期とし室を閉ちて下山するを例とす、又前面の湯の湖は東西廿五六町南北十五町餘水平かにして疊を敷きしに異ならず之に小舟を泛べ網を打たせて湯治中の徒然を慰むべし

湯瀧 トウタニ は湯の湖より落來り急斜なる岩面を飛下すると四十五六丈幅十五六間、其の水勢岩石を穿ちて響き雷の如く白泡四方に飛散して崖樹動搖せり復軒大槻氏の碑文に曰く、其麗似霧降其大有華嚴雄若龍頭觀背二瞳乎其下二矣と以て其の壯觀を知るべし

足尾銅山 アジビライ は日光町を距る西南七里餘、足尾郷大字御子内字間藤に在り、銅山は足尾郷の中央に位し周圍五六里に亘り、最高所を備前橋と云ひ海面を抜くと四千三百四十尺、金山樹木を生せず唯だ焼石の如くなる岩石のみ累々として皮相を爲せり、此山は方今東京府平民古川市兵衛氏の借區地に係り、日々發掘する所の鑛石三萬貫餘、之を荒銅に製し六千貫目餘を得るといふ、其の坑道は本口、二番口、鷹の巢、有木の四大坑にして就中有木坑を以て最とす、坑道の廣さは高さ六七尺、幅六尺を普通とし獨り有木坑は幅一丈ばかりあり、何れも坑内に一條の鐵路を敷きて鑛石運搬の便に供するが中にも有木坑は二條の鐵路を敷きて往復自在

ならしむ、坑道の深さは長きは千間、短きは三四尺にして内に入れば更に數百の小坑ありて其狀蛛網に異ならず、鑛業の盛んなる實に東山道に冠たる者と謂ふべし

庚申山 カウシンサン は足尾郷北方の山奥に在り、日光町より九里半と云ふ其順路は日光町より足尾町に出で上州街道を五六町行けば路傍に一基の華表あり其左に高さ一丈二三尺もある自然石に庚申山の三字を鐫て建たるを見るべし、又其右に庚申山表口と票せる小なる角石あり此の華表より庚申山の麓まで一百十四町、一町目毎に石標を建て、參詣者の先導に供す、皆な東京講中の建つる所なり、一丁目より十二三町の坂路を登り更に十町ばかり下れば銀山平といふ所に至る即ち往時銀鑛を採掘せし所なり、夫より六十三町目までは溪水に沿ふて爪上りに登る道なれば危険の恐れなし六十三町目より數十町の間は危嶮なる山の中腹を昇降するを以て一步を過たば千仞の溪間に墜落すべし、八十五六町目以上は始終登りく

て山麓に達す、麓の東寄に別當の坊あり喫飯宿泊共に客の需めに應ず、此坊より奥の院まで一里十餘町といふ、山中には奇岩怪石或は屹立し或は偃臥し神工鬼鑿、筆の能く盡す所にあらず就中胎内竇、梵字石、蠟燭岩の如きは最も奇觀なり
借是にて概略日光及び近傍の案内を畢りたれば之より本線に立戻り宇都宮の次驛より案内をなすべし

●岡本停車場 (同河部郡古里村字岡本)

○岡本驛 是宇都宮を距る三哩六十五鎮、是より鬼怒川の長鐵橋を渡りて氏家驛に達す

●氏家停車場 (同鹽谷郡氏家町)

○氏家町 是陸羽街道の一驛にして特に名邑なり、岡本を距る六哩六鎮、喜連川町は氏家を距る東二里、亦之も名邑にして頗る繁昌をなせり
鹽屋の里 是喜連川町大字早乙女を云ふ古へよりの勝地にして回國雜

記に「旅衣うちふれてゆく鹽の谷に煙さびしき夕霞かな」と其他古歌に秀吟夥多あり

●片岡停車場 (同郡片岡村)

○片岡村 ば氏家を距る五哩十八鎮、此二三驛は別に遊覽所もなし

●矢板停車場 (同郡矢板村)

○矢板驛 是矢板村字矢板に在り、此村戸敷一千三百餘、人口五千二百餘、鹽谷郡中の大村たり、村内字木幡に木幡神社あり、祭神は天忍穗耳尊にして山城宇治許波多神社を奉祀すといふ、又那須郡佐久山町へ里程一里半、是より針生山の隧道を過ぎ箒川の鐵橋を渡りて列車は西那須野停車場に達す

●西那須野停車場 (同郡須賀那賀村)

○西那須野村 是那須野ヶ原中の一小村落なり、那須野ヶ原は大田原の邊より岩代の州界迄二ヶ所に分かれ、東西各六里、南北各十里の曠原

なりしが養和保元より天文の時に至り所謂那須七騎等の土豪此間に割據し、漸々開墾して部落を成し、那須野と稱する者は往昔十の六を存するに過ぎず、而して今代に至り故三島通庸氏本縣に令たるに及び奮つて開墾に従事し、又百難を排除して新道を開墾せし以來朝野力を戮せて開墾に従事し草萊變じて禾黍となり、又昔日の荒寥を見る能はざるに至れり、西那須野村は戸數四百許り、人口一千二百八十六、大田原驛を距る廿餘町の間に在り

那須國造の碑 は大田原驛の東南三里餘、湯津上村大字湯津上（昔しは湯都神と云へり）に在り、按ずるに 持統天皇の三年草壁皇子那須郡に崩御あらせたまふや朝鮮の歸化人廣津君の孫意斯磨といふ人上を敬するの志厚く、那須湯都神郷に碑を建つ高さ廿四尺餘、當時日本年號の絶えたるにや唐則天后一の宮中宗皇帝の年號即ち永昌元年己丑を用ひたり、此碑實に人皇四十二代文武四年庚子の建立に係る、是より數百年雨露に

侵され苔蒸して文字明らかならず、何者の碑たるを知る者なかりしに延寶四丙辰年五月那須重貞之を發見し國造の碑なることを知りて水戸黃門光國卿に謀りしかば卿其頽敗を憂ひ元祿四年受碑堂を建築せらる云々、皇子草壁は天武天皇の御子にして那須國造に任じ東國に下されしなり、今其の碑文を左に示す、罔點を附するは文義解せざるを示すなり

永昌元年己丑四月飛鳥淨御原大宮那須國造追大壹那須宣事提評督被賜歲次三庚子年正月二壬子日辰節彌故意斯磨等立碑銘偲云爾仰惟殞公廣氏尊胤國家棟梁一世之中重被貳照一命之期連見再甦一碎骨祝隨世報三前思是以曾子之家无有嬌子仲尼之門无有罵者一孝行之子不改其語銘夏堯心澄神照乾六月童子意香助坤作徒之大合言喻字故无翼飛无根更固

鹽原温泉 是西那須停車場を距る西北五里、鹽谷郡の北端鹽原山の麓に在り、此地日本鐵道線の開通せられしより頓に其名を顯はし、貴顯紳

士の別業など多く造られ、夏日は浴客群集し其の繁昌伊香保、磯部をも凌駕せんと欲す、温泉場は上中下鹽原及び湯本鹽原の四ヶ所に分れ、就中中下鹽原に最も多く其地の小名を大綱、福渡戸、鹽竈、鹽の湯、畑下戸、門前、古町といふ、先づ其の順路を記載せんに停車場より三島村を経て三里餘にして關谷村に至る、是より屈曲して山腰を施り屏風に似たる絶壁の下を過り、或は溪流を送り或は瀑布を迎ふるなど風物一町毎に變るを以て途に飽くとなく漸くにして大綱に近づけば途に見返橋あり、長さ廿間橋下に見返りの瀧あり宛も水晶の簾を懸けたるが如し、橋を渡りて坂を下れば大綱に達す○大綱は箒根村大字關谷に在り箒川の北岸巨大なる巖石の間より湧出するを以て別に浴槽を設けず自ら温湯の陷凹所に滞溜するを以て入浴の用に供す、土地は左右に岩石突起するを以て光線の直射を遮り風は箒川の流れに隨ひ西より東に吹くを多しとす温泉宿は佐藤久作の一戸あるのみ、茲を過ぎて猶ほ行くと八町許りにして洞門あり

り長さ十七間其の入口に架するを寒冷橋といふ、此の上流に區々龍瀧といふ瀑布あり魚鱗皆な此に至り飛瀑の勢ひに壓せられ登るとあたはず又其上流に稚兒ヶ淵、布の瀧等ありて甚だ壯觀なり、諸洞門を入り十町餘にして福渡戸に達す○福渡戸は鹽原村大字下鹽原に屬し大綱より西二十餘町の所に在り海面を抜くと一千百五十尺、東北に白倉山の峯巒を負ひ西南、箒川の流を隔て、鳥居戸前山の諸岳を望む、此地戸數は二十戸許り内温泉宿十一戸軒を連ねて本道の兩側に在り即ち満壽屋(臼井吉右衛門)松屋(田代尚吉)を以て最とす其他玉屋(田代辨次)丸屋(大塚倉吉)叶屋(磯兵吾)磯屋(磯長作)山形屋(磯兵三郎)吉野屋(磯平吉)阪口屋(田代金平)榎野屋(田代米平)升屋(未詳)等にして何れも二層三層の樓を構ふ、温泉は箒川の沿岸なる岩窟の間より湧出するものを岩の湯と云ひ、其他不動の湯、冷の湯、薬研の湯等あり各浴舎は此の温泉を樋にて導き舎内に内湯の設けあり、茲を出で、行くと一二町にして右に天狗岩を望

土の別業など多く造られ、夏日は浴客群集し其の繁昌伊香保、磯部をも凌駕せんと欲す、温泉場は上中下鹽原及び湯本鹽原の四ヶ所に分れ、就中中下鹽原に最も多く其地の小名を大綱、福渡戸、鹽竈、鹽の湯、畑下戸、門前、古町といふ、先づ其の順路を記載せんに停車場より三島村を経て三里餘にして關谷村に至る、是より屈曲して山腰を施り屏風に似たる絶壁の下を過り、或は溪流を送り或は瀑布を迎ふるなど風物一町毎に變るを以て途に飽くとなく漸くにして大綱に近づけば途に見返橋あり、長さ廿間橋下に見返りの瀧あり宛も水晶の簾を懸けたるが如し、橋を渡りて坂を下れば大綱に達す○大綱は箒根村大字關谷に在り箒川の北岸巨大なる巖石の間より湧出するを以て別に浴槽を設けず自ら温湯の陷凹所に溜溜するを以て入浴の用に供す、土地は左右に岩石突起するを以て光線の直射を遮り風は箒川の流れに隨ひ西より東に吹くを多しとす温泉宿は佐藤久作の一戸あるのみ、茲を過ぎて猶ほ行くと八町許りにして洞門あり

り長さ十七間其の入口に架するを寒冷橋といふ、此の上流に區々龍瀧といふ瀑布あり魚鱗皆な此に至り飛瀑の勢ひに壓せられ登るとあたはず又其上流に稚兒ヶ淵、布の瀧等ありて甚だ壯觀なり、諸洞門を入り十町餘にして福渡戸に達す○福渡戸は鹽原村大字下鹽原に屬し大綱より西二十餘町の所に在り海面を抜くと一千百五十尺、東北に白倉山の峯巒を負ひ西南、箒川の流を隔て、鳥居戸前山の諸岳を望む、此地戸數は二十戸許り内温泉宿十一戸軒を連ねて本道の兩側に在り即ち満壽屋（臼井吉右衛門）松屋（田代尙吉）を以て最とす其他玉屋（田代辨次）丸屋（大塚倉吉）叶屋（磯兵吾）磯屋（磯長作）山形屋（磯兵三郎）吉野屋（磯平吉）阪口屋（田代金平）榎野屋（田代米平）升屋（未詳）等にして何れも二層三層の樓を構ふ、温泉は箒川の沿岸なる岩窟の間より湧出するものを岩の湯と云ひ、其他不動の湯、冷の湯、藥研の湯等あり各浴舎は此の温泉を樋にて導き舎内に内湯の設けあり、茲を出で、行くと一二町にして右に天狗岩を望

み、左に野立石を觀るべし、野立石は高さ二丈餘、面積百坪許り此に鼓
 簧張樂床几を設けて客を憩はしむ、常川の流れば岩下に漲りて白沫を飛し
 眼界豁然風景絶佳なり、是より行く數歩にして一樓屋の見ゆるは品川子
 爵の別荘念佛庵なり、尙ほ數歩を進むれば畑下戸に達す、畑下戸は鹽竈
 門前の間に在りて本道より南に位せる低地なり、西に丘阜を負ひ東に常
 川の溪流を擁し、川の東岸は鹽湯の部内にして北岸は楕形の河原なり、
 南は富士喜十六の峰巒を望み、兩山の間に瀑布あり吉井瀧といふ、前の
 宮内次官吉井伯爵深く愛して名けたり、直下十七八丈ばかり岩を傳ひ屈
 曲して落來り頗る奇觀を呈す、傍らに吉井伯の別業あり、温泉は西端岡阜
 の下に在る岩窟より湧出し、河原の湯、鳩の湯、貉の湯、本の湯、冷の湯
 (中の湯ともいふ)の五あり、泉質は何れも弱鹽類泉にして無色透明無臭
 無味、温度は百二十度乃至百三十五度を保つ、温泉宿は佐野屋(君島豐
 平)紙屋(阪内仁三郎)大和屋(阪内平六)伊勢屋(阪内榮三郎)井桁屋(阪内

重太)の五軒あり、此所を斜めに見て過れば旅館廿戸ばかり橋を並べて
 一市街を爲す所に出づ、即ち門前なり、門前は地形東北に山嶽を負ひ西
 南は常川に臨み土地平坦にして空氣常に乾燥す、泉源五ヶ所あり河原湯
 及び下の湯は東方田園の間に湧出し、自樂坊及び寺の湯は妙雲寺東山の
 下に出で三島の湯は本道の東北より湧出す、温泉宿は何れも二層三層の
 高樓を築き互ひに繁昌を競ふが中にも宮田屋(深尾七三郎)を最とし松本
 屋(渡邊半三郎)山口屋(櫻井千代松)之に次ぎ福田屋(手塚子之吉)疊屋
 (渡邊長吉)關東屋(渡邊久吾)又之に亞ぐ是より町續きの一橋を渡れば古
 町なり、古町は海面を抜くと一千四百二十尺、地形東北に大久保挾間
 の峯巒巍峨として聳え西南倉下喜十六の山岳を望む、溪水あり流れて常
 川に入る之を平井澤といふ風光明媚の地なり温泉は常川の東岸より湧出
 し不動の湯、瀧の湯、中の湯、御所の湯、中山の湯の五ヶ所あり、温水宿は
 此地に最も多くして其數十二軒、就中上の會津屋(倉島峯吉)米屋(細井

久平(萬屋(倉島峯治)等有名なり其他中の會津屋(君島峯吉)永樂屋(君島
 豐三郎)稻屋(君島兼吉)那須屋(渡邊宇太吉)常陸屋(君島勝馬)鍛冶屋(君
 島兵六)角屋(君島由三郎)明賀屋(君島捨吉)銚子屋(君島直吉)等あり楓
 川樓(松井長兵衛)は料理屋兼業にて家廣く眺望に富む、此處より會津道
 を行くと六七町にして壯麗なる樓臺を小丘の上に望む、是れ眞田幸民氏
 の別業なり、是より少しく離れ八幡神社の境内に二株の老杉あり各々周
 圍四丈に過ぎ枝垂れて地を掠めんとし其幾百年を経たるを知らず土人之
 を倒杉といふ是より後戻りして鹽釜に至り鹽湧橋を渡りて斜に溪路を行
 くと十町許りにして鹽の湯に出づ○鹽の湯 是土地高燥にして海面を抜
 くと一千六百十尺、西は鹽湯山脈連亘し東は前黒山横はり四面山を以て
 めぐらし宛も巖底の如し中に一の溪流あり鹿俣川といふ温泉の湧出する
 所三ヶ所あり冷の湯、中の湯、岩の湯といふ、浴舎は明賀屋(君島五郎)玉
 屋(君島淺吉)柏屋(阪内直吉)の三戸あり就中明賀屋は家屋宏壯にして浴

客五百人を容るゝに足る、鹿俣川に沿ふて廿町許りも上れば飛泉の絶壁
 に懸るを見る其一を雷霆の瀧、其二を霹靂の瀧、其三を咆哮の瀧、其四
 を素練の瀧といふ、如何なる人の名づけしものなるや其名の唐めきてむ
 つかしげなる笑ふに堪へたり、又畑下より徑路を登ると八町許にして須
 卷に至る○須卷 は其面積甚だ狭く、南に湯上山を望み、北に須卷澤を
 瞰む、温泉は湯上山中諸所の岩窟より湧出し流れて六條の飛泉となる故
 に一名瀧の湯といふ、温泉宿は根本屋一戸あるのみ二層樓にして湯瀧室
 浴室を設く名物の團子あり風味賞すべし又古町より西二里の山中に一温
 泉場あり之を新湯といふ○新湯 は南方に高原山を控へ東方は富士山に
 面す、此山の西麓に方一町餘の場所ありて一圓硫黄を含蓄し總て灰白色
 を帯び草木共に生せず、其間諸所に空洞ありて各熱泉を湧出す温泉宿は
 之を樋にて導き各々内湯を設く其重なるは藤屋(渡邊伊三郎)大黒屋(大
 塚金藏)君島屋(君島久伸)等にして其他下藤屋、鶴屋、葛屋、龜屋、菊屋等

あり皆客室數十を有す

● 黒磯停車場 (栃木縣下野國那須郡黒磯村)

黒磯驛も亦那須野ヶ原の一部にして今は東那須野村に屬し那珂川の沿岸に位す、素より曠原中の一部落にして一の見るべきものなし、唯那須七湯の通路に當るを以て四方より來る浴客は皆な此の停車場に降り車馬の來往頗る頻繁を極む、是より舊陸羽街道の鍋掛へ壹里、越堀へ壹里廿町にて至るべし

那須七湯 是下野國那須郡那須ヶ嶽の四周に在りて其の温泉場を湯本、高雄服、辨天、北、大丸、三斗小屋、板室の七ヶ所とす故に七湯といふ、浴客は先づ黒磯停車場を降り北の方數町に至り那珂川の假橋を渡り左折すれば那須嶽は前面に高く聳えて浴客を招くに似たり、左右は那須野ヶ原にして縁野遠く連なる、是より松子、田代、廣谷地を経て喰初佛に至る、此の喰初佛の本尊は日蓮大師の眞影を自然石に彫たるものにて參詣

人常に絶えず此邊より硫氣やうやく鼻を襲ふを以て温泉に近づくを知るべし、湯川を渡り羊腸たる坂路を登り廣谷地を距ると二里にして那須湯本に達す○湯本 は那須嶽の半腹に位し海面を抜くと三千尺、炎暑の期節甚だ短くして艶陽の時期頗る長し故に避暑に適す、温泉は那須嶽の南麓に在りて湯川の東岸二ヶ所より湧出す一を鹿の湯と云ひ一を行人湯といふ、泉質は酸性泉にして無色透明、多く硫化水素臭を帯び強酸性鐵味を有す其反應は酸性にして百七十二度の温度を保つ、此地の戸數は三十戸許り其中温泉宿は小松屋、河内屋、和泉屋、中藤屋、松川屋、松屋、橋屋、清水屋の八戸あり、何れも二層三層の高樓を構へ各々繁昌を競へり、其中内湯ある者は小松屋、河内屋、松川屋等にして何れも湯口より樋にて導くなり、旅籠飯料等は物價の高低に依り一定しがたしと雖ども日光、鹽原等に比すれば頗る廉なり中には頗る廉價を以て宿泊せしむる家あり、是より十二町にして高尾股温泉に至る○高尾股 は湯本地内に屬し

湯本より一層高き所に在るを以て眺望も亦佳なり、東は原野廣く守ツム
 シガ平を負ひ西は高雄股川に沿ふ、温泉は窮谷の岩間より湧出す浴舎は
 僅かに一戸あるのみ、歸途を榛莽の間に取り温泉神社に賽すべし○温泉
 神社 舒明天皇の御宇に狩野三郎といふ者鹿を狩んとて此地に來り忽ち
 白鹿に行逢しかば射取んとせしに荊の中に隠れたり、之を尋ねんとて深
 山に入りしに忽然白衣の老人顯れ出で吾は温泉の靈神なり此深谷に萬病
 を愈す靈泉あれば早く草創して萬民を救ふべしと告げて山に飛去りたま
 ふ、有難しと伏拜めば朦朧たる雲霧晴れ彼の白鹿温泉に浸り居るを見た
 り悦びて矢ころも好しと引かため兵を放てば思ふ矢つぼを射止めぬ走り
 寄りて見れば常の鹿とは異れり其後温泉を開き温泉社を建立し彼の白鹿
 の角を納め奉つれり云々、今尙ほ神寶として之を藏せり黃門光國卿之を
 萬字の角と名けたまひたりと形萬字に似たればなり、又神社の寶藏には
 那須與一の矢の根數種を藏せりと、神社を拜し石階を降れば右に芭蕉翁

の句「湯をひす布誓もふなじ石清水」を自然石に刻せり又降る數十歩左
 に見立大明神あり、是より左折して峻坂を降れば復芭蕉翁の句を石に刻
 す「石の香や夏草あをく露あつし」是が有名なる殺生石の入口にして賽
 の河原を過ぎ教轉地獄を眺めて殺生石のある所に至る○殺生石 は砒臭
 烈しく鼻を襲きて居るに堪へざらしむ、此石の起りを原ぬるに往古某帝
 の寵妃玉藻前白面金毛九尾の老狐なりしに其生体を看破られ遂に逐れて
 那須野に飛來り近里の人民を害ふに依り三浦助義純、上總介廣常勅を奉
 じて那須野に下り之を退治せしに老狐は大石と化し以來飛鳥走獸之に觸
 れて死するもの數を知らず依て之を殺生石といふ、能登國惣持寺の住僧
 峨山和尚の高弟源翁和尚法力を以て之を三つに碎き遂に化生を退治せり
 云々、是は昔しの造り物語りにして取るに足らず、殺生石は砒石或は譽
 石と稱ふる劇毒質の礦物にて多くは礬黃及び酸素を化台し他の諸金屬と
 混和して生ず、其質甚だ脆く熱すれば鑄解せずして酸素と化合し白煙と

なりて蒸發し葱蒜の如き臭氣を放つ、此の白煙は亞硫酸瓦斯なり、是は人類其他動物に害あると最も猛烈なれば今にても此の害に逢ふ者あり見物人は用心すべし砒石の中毒は那須温泉に浴して奇効ありといふ、湯本より途を北に取り進むと三十町にして辨天の温泉あり(辨天、大丸、北、三斗小屋等の温泉は其案内を略す)

●黒田原停車場 (栃木縣下野國那須郡那須村字黒田原)

黒田原も亦那須曠原中の一驛にして那須村に屬し近頃新たに開きし所なり、近傍觀るべきもの東北二里餘に若野古城址あり

若野古城址 是舊陸羽街道中の一驛若野町に在り、傳へ聞く豊城入彦命四世の孫奈良別命那須國造たりしより子孫相繼で此に住す、即ち若野氏なり、其後四郎太夫某に至り那須資忠の次子資方を養ふて家を續がしむ當時國造の世を去ると已に遠く、那須黨の勢熾んなるを以て遂に之と交親し世々城に居れりといふ

●豊原停車場 (栃木縣下野國那須郡豊原村字水原)
豊原驛は那須曠原の北端に位し那須村の一部たり、磐城國西白河郡と相接し、實に栃木福島の縣界を爲す、是より東一里許り舊陸羽街道の寄居と白坂の間に二柱の神あり共に堺明神と云ふ、之を以て磐城下毛の境界を爲す

●白河停車場 (福島縣磐城國西白河郡白河町字舊郭内)

○白河町 是阿部豊後守の舊城邑たりしが戊辰の役戰爭數日終に兵火に罹り舉城灰燼に歸せり、此地往昔笹原の莊と云ひ結城親朝之に築きて小峯城と名く、其後丹羽氏の采邑となり大に城郭を修理し國道の要阨に當る、尋で蒲生氏に移り阿部氏に至るまで其間主を更ふる者數家、該城瞭らすに逢隈川を以てし州内諸山皆な環拱擁立して山水明媚の地なり、是より西北は若松に通じ東南は常陸に達す、市の廣さ東西二十五町餘、南北十二町餘、市坊二十三、戸數三千餘、人口壹萬一千二百七十七、市に

區裁判所、郵便電信局、警察署及び西白河郡役所あり、物産は生絲、茶、馬、藥種類を以て最とす旅舎は柳屋傳三、内池屋健藏（白河本町）いさみや祐八（停車場前）等有名なり、是より近傍の勝地を案内すべし

南湖 は白河城の南半里許りに在り、文化中白河城主松平定信公（樂翁公）の浚開する所にして初め關の湖水又は大沼と云へり、公深く其の風致を愛し命くるに雅名を以てし分つて十七勝と爲す、則ち關湖、共樂亭、鏡山、眞菰浦、錦岡、松虫原、常盤清水、松風里、月待山、月見浦、下根島、御影島、千歲堤、小鹿山、有明崎、八聲村、千代松原等にして十七勝は國風を以て名け、別に十六景を設けて漢名を附し、一は和歌を以て題し一は漢詩を以て題し其詩歌を石に刻して湖畔に建つ、別に一碑あり南湖の記を勒す、湖の大き周圍廿町餘に過ぎず湖に枕むの山亦大ならずと雖も山明水媚實に當年の様を追想するに足る、此地今は公園となれり

感忠銘

南湖の東に搦山と云ふあり即ち結城氏の城墟なり、元享建武

の亂に勤王を主張せし結城氏の忠魂を慰せんが爲め、白川樂翁公儒員廣瀨典に命じ其事を記して之を城墟の斷壁に刻せしむ名けて感忠銘と云ふ、碑の高さ一丈八尺横九尺、其文に曰く

蔚然深秀、在我白河東、者結城氏墟也、我望之而有所感焉、元享建武間、士氣貫衝、天下擾々、視利避就、獨宗廣綱光、忠烈凜々、憤發唱義、欲率天下而興之、不幸弗克以殞身、然猶東川十民知、識南朝之天者、實亦其力也、一時忠烈補公之外無能稱焉、而今吾民鮮知其爲州人、奚以興于餘風、內山頂濃家於墟下、捐財爲予勸諭表而出之、公嘉斯舉、題賜三十字、以刻上方、嗚呼三子之忠魂數世之後得此律標焉、其必含笑於地下、吾輩亦與有榮也、銘曰
瞻乎此山、維石嶮々、溪風肅然、劍佩夜選、踪蹟不刊、輝映千年、民莫自棄、國能生賢、

文化四年秋九月

廣瀨 典 謹 識

又是より南壹里許りに關山といふ高山あり、此地は天正十五年二月十六日佐竹義重、伊達政宗と決戦したる古戰場なり、又關山の絶頂に満願寺といふ古刹あり天平二年の創建にして聖武帝勅願所の扁額を掲げ其他古物を多く存せり

白川の關址

みやこをば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白川の關」と

能因法師の詠りし白川の關は關山の南旗宿の内に在り、樂翁公の建らし碑ありて其の遺蹟を存す、此處は左右巖崖にして中に一條の通路あり、當時北夷の内地に入るを防がん爲め國司などの構へし關所にて朝廷より置たるにはあらざるべしとなり、是より道を轉じて北に向ひ矢吹停車場に至るの途中轉寢の森、人なつかし山等の舊蹟あり旅客若し序あらば之を探るべし

甲子温泉　は西白河郡の西端甲子山の半腹に位し有名なる阿武隈川の上流に在りて白河を距る五里廿五町、其地は下野の那須三斗小屋温泉と相距る直徑二里半に過ぎず、先づ白河を距る二里折口といふ所より阪路漸やく峻を加へ、又二里にして高清水に至る、是より一里廿五町にして温泉場に達す土地高燥にして空氣清冷、大倉山、庭鳥山、朝日嶽等三方に連亘し阿武隈川の源流は西南より來りて温泉場の前を貫流す、温泉は微亞兒加里性にして温度百二十度を保ち湧口四ヶ所ありて之を本湯、新

湯、湯神の湯、瀧の湯といふ、温泉宿は菊地元壽の二戸なれども湯康樓と云へる三層の高樓を構へ、道を隔て、二階建の別荘あり客室の建坪都て二百五十坪許り、宏壯にして浴客數百人を宿泊せしむべし、樂翁公曾て此山に遊び風光の絶奇なるを賞す其文は載せて關の秋風にあり
湯本温泉　は白河を距る西北九里、岩瀬郡湯本村に在り布引山と白河布引との間に挾まり土地靜雅風色明媚にして晩春には桃李節を同らして開き鶯鶯一時に鳴く、温泉は鹽類泉にして温度百十度内外を保つ、村の中央に巨大なる浴槽を設けて共同浴場とし、浴舎は樋にて原泉を導き皆な内湯の設けあり、湯口屋、星野屋、角屋等を最とし其他三戸の浴舎あり、皆な二階造りの大厦にして客室數十を有す、浴舎は専ら費用の低廉を測り客より旅籠にて止宿したしと請ふも應せず豫じめ席料を定め帶圓を貸し米を買はしめ薪水の勞を取りて報酬を受くるを常とす

● 矢吹停車場 (福島縣磐城國西白河郡矢吹村)

矢吹村は白河を去る九哩二十五鎖チエインの所に在り、戸數五百二十餘、人口二千〇三十八岩代國岩瀬郡に接する一村落にして近傍見るべきの勝地なれば直ちに須賀川驛すかがはせきに到るべし

●須賀川停車場 (福島縣岩代國岩瀬郡須賀川村)

○須賀川驛 是陸羽街道の一驛にして岩瀬郡の東部に位し人家稠密、車馬輻輳、福島以南第一の繁昌地なり、戸數三千餘、人口九千七百十八を有し驛に岩瀬郡役所、病院、産馬會社等あり物産は生絲、繭、藍、煙草等を最とし紙類、穀類陶器等之に亞ぐ此地北は釋迦堂川の流を帯ひ西は西川原に、東は東原に連なり平野に接して四通の便あり、この地三春町を距る七里許り、所謂三春馬は三春地方の産なり、然れども此の地より産する者も亦三春馬といふ、驛東南鏡田村の西に鏡沼の古蹟あり就て探るべし、又此地にて旅舎の名高きは大和屋藤兵衛なり

●郡山停車場 (福島縣岩代國安積郡郡山町)

○郡山町 是安積郡中第一の名邑にして市の廣袤東西七町、南北十三町、市坊十一、戸數二千七百餘、人口八千〇九十六を有し、人戸櫛比し警察署、郵便電信局及び農學校等あり、安積郡役所は驛の西隣桑野村開成山の上に在り、先年噴火せし磐梯山は此地の西北に聳え相距る八里許り驛の西に長者邸と稱する古蹟あり、又驛の北の外れに安積國造神社あり、按ずるに安積の國造は遠祖を比止禰命といふ、其裔神官となりて世々之を祭れり、幕府の儒者安積良齋はこの家より出たり、又重なる旅舎は海老屋、川崎屋、菊屋の三戸とす

安積山 是郡山の西三里許りに屹立する高山なり、又の名を額取山といふ、往昔葛城王を此國に遣はされけるに、國の神のまうけ疎かなりとて王の御氣色悪しかりしを采女なる女盃とてりあげ「あさか山影さへ見ゆる山の井のあさき心はわが思はなくに」と咏みて酒をす、めしかは王の心和ぎたりとなり、此山は郡山の次驛日和田より行く道あり

●本宮停車場 (福島縣岩代國安達郡本宮町)

○本宮 是安達郡に於て二本松に亞ぐの名邑たり、市の廣袤東西二町餘、南北十三町餘、市坊七、人口六千九百九十五を有す、公立病院あり、牧牛共立會社あり、旅人宿は停車場前境屋、越後屋、水戸屋等名あり、驛は東阿武隈川を帶び、西菅山花山等の山脈を負ふ、山頂に安達太郎神祠あり森林鬱蒼風色愛すへし

熱海温泉 是本宮停車場より西方三里半安達郡高玉村に在り、この地片倉山と吉丸山の山間に位し氣候清涼にして頗る避暑に適す、泉質は鹽類泉にして温度八十度を保ち、疥癬、眼病、微毒、痔疾其他あらゆる皮膚病に効ありといふ

●二本松停車場 (福島縣岩代國安達郡二本松町)

○二本松町 是丹羽氏の舊城邑にして戊辰の戦地たり、城址に製絲場を設け、工女三百名餘を使役して盛んに蠶絲を製出す、この製絲場は去

る明治六年始めて佐野某の起せしものにて、器械は上州富岡の製絲場にならひ更に改良を加へ、安達太耶山の麓より四里許り掛樋にて水を通じ、水車にて器械を運轉し機關の宏壯人目を驚かすに足れり、地は東西十六町餘、南北十町餘、市坊十三より成り戸數二千五百餘、人口八千四百四十餘を有す、安達郡役所あり、郵便電信局あり、講習學校あり旅舎は大和屋宗介、きくの屋の二戸有名なり、市中一小山を以て街道を遮ざる之を觀音山といふ、山脈西に延びて城山となる、此地より福島へ五里十二町餘、若松へ十六里十五町餘

安達ヶ原古蹟 是二本松驛を距る數町、阿武隈川を隔て、東の沿岸に在り、平兼盛の「みちのくの安達ヶ原の黒塚に鬼こもれりと聞くは中ことか」と咏せしは此所なり、此處には數多の巖石むら立ち其下に岩窟あり、昔鬼の住めるといふは此の岩窟なりと、石に南無觀世音菩薩、南無阿彌陀佛などを刻つけあり、是は享保の頃新に造りしものといふ、

近傍觀音寺といふ寺に鬼の釜、又人を殺たる刀などを存しあり何人のつくり設けしものによ、安達ヶ原は大方田畑に開かれ古しへの名残もなし唯た黒塚の古蹟あるのみ

嶽の湯温泉 は二本松を距る西方半里許り永田村に在り、土地高燥にして空氣清流、最も夏時の遊浴に適す、泉質は硫黄泉にして温度百十度を保ち風濕、痔疾、疥癬、雁瘡、火傷其他に効驗ありといふ

安達太郎山 又の名二本松岳といふ、安達太郎山と訓むは誤れり、此地有名の高山にして海面を抜く三千尺、二本松の西方三里に直立す、満山岩石峭立して古松楓樹其間に繁茂し、溪水之を環り潺湲あり、山中に前記の嶽の温泉あり、風景頗る佳なるを以て杖を曳くもの多く、殊に霜葉の頃を以て遊人多しと爲す

●松川停車場 (福島縣岩代國信夫郡松川村)

松川は信夫郡に入り始めての驛なり、戸數七百餘、人口二千五百八十三

を有す、驛に菅神の祠あり文正中筑紫太宰府より勸請する所といふ、社前の飛梅と稱する古木は安永中忍幢律師の植る所なりと、是より延長七百九十二呎の隧道を経て福島に至る

●福島停車場 (福島縣岩代國信夫郡福島町)

○福島町 は板倉氏の舊城市にして今は福島縣廳の所在地なり、城址は街南阿武隈川に枕む、傳へ聞く治承中杉妻行信此に居りしを以て杉妻城と稱し、蒲生氏の時福島と改たむ城主數々換りて一ならず、廢藩置縣の時此地に縣廳を置けり、縣廳は舊城内に在り阿武隈川に枕み結構壯大なり、其他裁判所、信夫郡役所、警察署、郵便電信局、師範學校、及び病院等闔内に散在す、市は東阿武隈川に沿ひ南に須川を帯ひ之に石橋を架し信夫橋といふ、驛の廣袤東西十餘町、南北二十餘町、市坊四十二、戸數五千餘、人口一萬七千七百十五を有し市街の繁昌なる實に東京以北の一都會と爲す、旅亭の名ある者は停車場前上安、松島屋、太田屋及び本通り

の藤金、郡役所前の松葉館、其他手塚屋、鹽六、横山、伊勢屋等なり、又此地より米澤に至る街道あり

信夫文字摺石 福島を去る東南半里許り利根山の麓山口村に在り河原

左大臣は「陸奥の信夫もじずり誰ゆゑに亂れそめにし我ならなくに」と

咏じたり○大森城趾 は街南二十町許り太平寺村の西十五町に在り、天

文中伊達晴宗の築くところ、後蒲生氏郷、上杉景勝等是に居り、今は廢

して田圃となり敗壁殘濠尙ほ存す○信夫山公園 は街北十四丁の所に在

り、黒沼神社招魂社及び観音堂あり眺望太だ佳なり、此あたりにしのぶ

草多かりしかと今は少なし、當地名産の信夫文字摺布は此の草にて製す

となり○紅葉山 は驛の東端にあり老樹蒼鬱として堤上に挺で、阿武隈

川の清流其下に在り、之に架するは船橋にして長さ六十餘間、之を渡り

て紅葉山に至る○石那坂古戦場 は驛の東北一里餘伏拜村に在り、文治

の古戦場なり佐藤庄司以下十八士の爲めに二基の碑を建つ

北畠顯家の故蹟 福島驛の東北三里半、伊達郡大石村に靈山と呼ぶ高

山あり又の名を不忘の山といふ、東北伊具宇多二郡に亘り頂まで一里二

十町、直立一千百八十尺なり、山勢嶮峻にして皆な石壁なり老樹蒼鬱清

涼掬すべし、茲に城墟あり南北朝の時北畠顯家陸奥の州守に任じ鎮守府

大將軍を兼ね義良親王を奉じて本州及び出羽を兼知す、親王始め國府に

居り後此城に移る、足利尊氏の反するに及び顯家西國に死し其弟顯信州

の介に任じ白川に鎮す、興國四年足利尊氏の將畠山高國此の山の諸壘を

陥すといふ、山上に顯家の靈社あり宮幣社に列せらる又樂翁公の建つる

碑あり其事を記す

飯阪温泉 は福島町の北二里十町、信夫郡飯坂町に在り、町の廣袤東

西十町南北八町、戸數七百餘あり其内商家二百餘戸、温泉を以て生活す

る者多し、先づ市に入り入口の坂を登れば右に摺上川を隔て、愛宕山を

望み左折右曲して十綱橋の前に至る、橋は柱脚を用ひず銅綱を以て之を

繫ぐ人呼で釣橋と云ふ、此の地温泉の古きは鱒湖、透達の二泉にして共に町の中央に在り、相傳ふ昔し日本武尊東夷征伐の時此地を過らせたまひ御身に恙あらせしかば此の鱒泉に浴し給ひしに立どころに御惱み平愈せる故に地名の鱒湖を其まゝ湯の名に命せられたりと今は浴場の傍らに瑠璃尊を勸請し左側に「あかすして別れし人のすむ里はさばこの見ゆる山のあなたか」と白川樂翁公自筆の古歌を刻せる碑石を建つ、其他十網町の岸に在るを波古の湯と云ひ、瀧の町に在るを瀧の湯と云ふ、又温泉宿は鱒湖、透達二泉の邊りに在るを和久屋(佐藤うめ)誘引屋(佐藤仁兵衛)樹屋(半田太五右衛門)堀江屋(堀江政藏)網屋(渡邊長太郎)佐藤屋(佐藤繁右衛門)と云ひ瀧の湯近傍に在るを花水館(石堂寛助)角屋(中山辰五郎)樹屋(片岡とし)堀江屋(堀江常右衛門)といふ皆な二層三層の高樓を構へ客室數十を有す然れども家屋は概ね昔し風にして内湯の設けある者少なく浴客をして合浴所に通はしむるを苦みす、獨り花水館は家屋

を當世向に新築し空中に架せる如き長廊を媒して客を崖下の内湯に導き、樓上四十疊の室を大廣間とし猶ほ足らざる時は界の張壁を取外して一大會室を造るの準備あり、町内別に料理店、小間物屋、呉服店、寫眞師あり、其他警察署あり、郵便電信局等ありて不便を感ずる事なし
 大鳥城趾 飯坂市街の西北に大作山あり是れ所謂大鳥城址なり治承年間佐藤庄司元治の據る所故に之を佐藤の館又は丸山城址ともいふ、元治は湯の庄司と呼び繼信忠信の父なり、右大將賴朝の泰衡を伐つや石那坂に戦ひて死せり、山上に至れば信夫、安達の野歴々指點すべく風色頗る佳なり
 湯野村温泉 伊達郡湯野村に在り摺上川の一帯水を隔て飯坂温泉場と相對して呼べば將に應へんとす、温泉宿は多く摺上川の岸に崖造りの家を構へ、其重なるものを叶屋文作、綿屋常七、河股屋みち、和泉屋いし、松葉屋大次郎と云ふ、温泉の湧口都て三つあり橋本湯、狐湯、切湯

といふ、摺上川の岸に混浴場を設けて之に入らしむ其泉質は飯坂と同じく弱性鹽類泉にして温度は攝氏四十八度を保ち無臭無味なれども少しく白粉色に濁れり、又湯野村より摺上川の右岸に沿ひて登ると十五町にして穴原温泉あり北原村に屬す、温泉宿二戸あり吉川屋多利造、和泉屋倉吉といふ、この地風景好ければ浴後散策する者多し

吾妻山 福島停車場の西凡そ五里、信夫郡の微温湯温泉場より凡そ一里に在り、吾妻富士と一の高原を隔て、相對し盛んに水蒸氣を噴出し時としては鳴動して熱灰を降らすとあり耶麻郡の磐梯山と共に近年新たに爆裂せし新火山なるを以て地質學者等の登山して其の實況を視察する者多しと云ふ、噴口は一切經山の中腹にして字硫黄谷といふ處に在り

●長岡停車場 (福島縣岩代國伊達郡長岡村)

長岡は陸羽街道の一村落にして戸數凡そ三百、人口凡そ千四百あり、東壹里餘にして保原に達すべく三里半にして梁川町に到るを得へし、又前

記の湯野村、飯坂温泉に遊ぶには此停車場より瀛車を下るを以て最も近しとす、其他近傍に名勝なし

●桑折停車場 (福島縣岩代國伊達郡桑折町)

○桑折町 は國道中の一驛にして半田銀山の東南阿武隈川に枕み鐵道は町に沿ひて西方を通過す、戸數一千餘、人口三千七百五十九、伊達郡中屈指の地なり、驛に無能寺と呼ぶ古刹あり、明治九年聖駕東北に巡り駕を茲に止めらる一古松あるを御覽あり侍臣をして名を撰ばしめ御蔭の松といふ、其他近傍に名所古蹟多し順次案内すべし

半田銀山 有名の半田銀山は桑折町の北端より左折し三十町許りにして至るべし、山は數村に跨がり刈田郡の境に連亘す、高さ三百尺、銀坑は大同年間の創開にして近世幕府に於て之を保管し明治に至り民間の私有に歸せり、工場器械其他の壯大なる殆んど足尾銅山に亞ぐといふ、山上に沼あり押の池といふ、又押關の遺跡あり往昔官道の通せし所なり、

又山南に葛の松原あり

阿都賀志山あつかしやま は桑折町の北方一里藤田驛の北、國道の傍に聳立す山上

より州内を一望するを以て古來國見峠たふげの名あり、海面を抜く壹千三百七十尺、此所もまた昔し官道の通せし所にして、藤原泰衡城塞を築き源右

府の兵を防ぎたり、要害白河の關の上に出づ今は道を開きて行く者艱を

知らず、又この山下に下紐したひもの關趾あり、坂上田村磨さかのうのむらの置く所なり

伊達大木戸 は藤田驛と貝田驛との間に在り、國見峠は巍然として

其左に峙つ、山下に國見神社あり、社南に古松一株あり義經腰掛の松と

いふ、傳へ聞く文治五年源賴朝伊達郡に至る、泰衡之を聞き壘を厚檜山

(阿津賀志山とも書す)に築き國見驛と此との間に五丈の長壘を鑿ち阿武

隈河流を堰て西木戸太郎國衡をして之を守らしむと即ち大木戸なり 是

より福島宮城の縣界を経て磐城國刈田郡に入り越河停車場に至る

●越河停車場 (宮城縣磐城國刈田郡越河村)

○越河村 は宮城縣内に入りて始めての驛なり、戸數七百二十餘、人

口二千七百五十七、稍々繁昌の地なり此驛に龜井の清水あり、龜井六郎

義經に従つて此地に來り渴して此の泉を掬すと、傍らに蘆あり皆な偏葉

を生ず郷人片葉の芦といふ

●白石停車場 (宮城縣磐城國刈田郡白石町)

○白石町 は伊達家の重臣片倉小十郎の城邑たり、初め長尾景勝の家

人甘糟備後の居城なりしが慶長五年伊達政宗の爲めに陥され、爾後片倉

小十郎をして城を守らしむ、今は耨して桑田となし僅かに殘壘を止むる

のみ、戸數一千九百餘、人口七千零八十三、市に郵便電信局、警察署等

あり、旅舎は阿子島を以て最とす、街西に巍然として聳立するは官城縣

内第二の高山刈田岳なり、又の名を不忘岳又は藏王岳と呼ぶ、近傍古蹟

に富み調子山、刈田神社、菊面石、一本樹、三樹怪松、古將堂、無影池

等人の知る所なり

鎌先温泉 カマサキノ温泉 は白石停車場を距る西方一里廿八町、宮城縣下刈田郡福岡村大字藏本に在り、人力車賃一人曳十五錢内外にして至る、道は新道にして稍々平坦なれども始終爪頭あがりにて車の進む遅し、温泉場は人家三十戸許り兒捨川の上流に在りて四面山を繞らし頗る閑静の地なり、鑛泉は鎌先山の半腹より湧出し、湧口にては無色透明なれども浴池に入る時は黄白色を帯びて不透明に變じ鹽味と硫氣とを含む、此の湧口より樋を設けて温泉を浴池に導く、浴池は長さ三間幅二間ばかりのもの二個、皆な石にて疊み一を總湯と云ひ、一を留湯と稱す、而して湯は湯瀧となりて樋より落來る、効能は肥胖病、慢性便秘、多血及び逆上症、腸加答兒、胃加答兒其他に宜しといふ、温泉宿は湯主一條一平、鈴木屋幸右衛門、最上屋助平、木村屋源八の四戸にて宿料のごときは、頗る低廉にて辨ず、此の温泉は年代頗る古く、正長年間に開け、康正年間洪水の爲めに一旦湮滅し百二十五年の後に再び温泉湧出せしかど地震の爲めに其目を塞

がれ享保年間三たび湧出して今日に至れりといふ
 青根温泉 アヲネノ温泉 は白石停車場（仙臺地方より來る人は大河原停車場より往くも好し）を距る西北六里三十町、陸前國柴田郡前川村刈田岳の麓に在り、宮城縣下第一等の温泉と稱せらる、白石停車場より人力車を驅れば四時間許りに達すべし、此地海面を抜くと三千三百尺三面山を繞らし唯其一方を開きて杳々松島、金華の遠景を水天彷彿の間に認むべし、鑛泉湧口は大湯、名號の湯、新湯の三ヶ所あり、泉質は鹽類泉なるも固形分少なく少量の食鹽、格魯貌如留母、硫酸曹達等を含むのみなれば浴客中には此泉を汲みて煮焚の用に供する者あり、効能は上衝、頭痛、肺勞、精神病、婦人血の道、脚氣などに宜しといふ、温泉宿は都て五戸あり就中不忘閣（佐藤仁右衛門）醉嶂館（丹野七兵衛）の二戸最も宏壯にして何れも室數一百餘を有す、是より西三里を登れば刈田嶽の頂に至る
 刈田嶽 カッタダケ 一名不忘山は山中に役の行者開基の藏王権現を安す、山は休

火山にして海面を抜くこと六千五百尺、頂上に藏王沼あり即ち奮噴火坑の湖水と變じたるものにして其水藍の如く炎天と雖も涸ることなし、山下に古刹あり金峯山藏王寺と號す、又山中に奇岩怪石多し、烏帽子形屏風岳、熊野峯、杉峯、箕輪、魔魂山、賽河原、劔峯等あり就中劔峯は巉岩峭立誠に其名の如く、熊猷の昇るところ之を窟の口といふ、飛灰の積る所之を灰塚といふ、下に河あり之を三途の川といふ、多くは地獄の名を以て之を命す、此地丹土を出し河水紅きを以て之を血の池に擬す又水晶石六方石の産する所之を物見岩又の名水晶山と稱す風景殊に佳なり、山頂の奮噴火坑より發して冷水堂の下に至り清川と合し宮驛にて白石川に灌ぐを濁川といふ水質は多くの硫氣を含み其色白濁にして一の魚類を産せず、其上流は直下して瀑布となり、流れて奔湍となり兩岸に奇景多し、是より岬々温泉に至る

岬々温泉 は青根を距る一里餘の山奥に在り、其道取は青根に寄らず

して遠刈田より直行するも好し、又青根よりするも好し、青根を距ること幾何もなくして山を挟み南北より流れ合する河あり即ち一は清川にして一は濁川なり、危き獨木橋を渡り匍匐して崖を攀登り峯づたひに行くこと遠からずして、忽ち幽境に入り奇岩起伏樹木鬱蒼の間を過ぎ、途上三瀧大瀧など、稱する大瀑布を觀つ、行くと半里、峻坂を降りて濁川の水溪に入れば岬々温泉なり、地獄石大黒石等岬々として雲表に聳ゆる激流奔湍岩に激して玉を碎き雪をちらし、奇觀殆んど晃山に譲らず、客舎は宏壯清潔にして避暑の客を待てり

小原温泉 は刈田郡小原村桂澤山の麓に在り、白石停車場より西三里斷崖絶壁の溪間に位し溪流潺々として聲あり頗る山水の風景に富む、温泉湧出は古湯と稱し石を截りて浴室を造り、泉質は鹽類泉の一種なれども其中に硫化水素を含むが故に久しく浴地に滞溜すれば稍や暗黒色を帯び眼病、腺病、肺病、梅毒、其他婦人一切の病に効あり、明治十八年前

は道路險惡漸やく人を通ずる程なりしが十九年九月大工事を起して新道を開き道路平坦馬車、人力車を通ず湯主は四竈太郎兵衛、同利、新湯主は齋藤員衛其他一二戸にして家屋は概ね二階建にて室内清潔なり

●大河原停車場 (宮城縣陸前國柴田郡大河原町)

○大河原町 は國道の一驛にして停車場を降り西の方白石川を渡りたる所に在り、其驛の繁昌白石に亞ぐ、戸數一千百餘人口四千三百八十六市に柴田刈田郡役所、裁判所宮城支廳、警察署等あり、旅舎は高山庄七有名なり、近傍に古蹟多し源二位泰衡古戰場、西木戸國衡の塚等驛西に在り、又有也無也の關は驛西六七里に在り古歌に「頼み來し人の心も變るやと問ふても見ばやうやむやの關」とあるは此の所なり

遠刈田温泉 古へは湯刈田と書す、大河原停車場より青根温泉に赴く途申刈田郡宮村に在り(白石停車場より行くも里程に相違なし)温泉場は刈田岳、青麻山等の峯巒に圍まれ松川の溪流を擁して頗る閑雅なり温泉

湧口は都て五ヶ所あり上の湯、東の湯、日の湯、下の湯、新湯といふ、泉質は鹽類泉にして無色透明中性の反應あり、溫度は攝氏五十度内外を保ち精神病、皮膚病又は腸胃病、疝氣、脚氣、婦人血の道子宮病等に効あり、温泉宿は佐藤源兵衛、吾妻長吉、遠藤勘五郎、大沼勘十郎、小室市之丞、佐藤勘太郎等數十戸あり

●槻木停車場 (宮城縣陸前國柴田郡槻木村)

槻木驛、鐵路は槻木の南に於て白石川と國道を横ぎり、驛の西に至りて槻木停車場あり、白石川は此地に來りて阿武隈川に合し、驛は東南に川を帶ぶ、槻木は柴田郡中の大村にして人口六千六百五十二を有し驛また甚だ賑はへり、是より岩沼驛に至るの途中右の方に入りて道祖神社といふあり、實方中將の馬の斃れし所にて一説に中將も此に死せんといふ(中將の事は後に詳記す)

●岩沼停車場 (宮城縣陸前國名取郡岩沼町)

○岩沼町 是名取郡中第一の名邑にして戸數一千二百餘、人口五千四百四十五あり、陸羽街道陸前濱街道の要衝に當るを以て百貨茲に輻輳す驛に竹駒神社あり稻荷を祭る、聞老志に此地故武隈、文字或は竹駒に易お訓音相通ず幸に寺號に爲すとあり、或は然らん此の地古へは國守の居る所謂る阿武隈の館是なり、市内旅店の重なるは蓮田屋善兵衛其他二三戸あり、又近傍觀るべき所少なからず、驛の以東海濱に至れば遠望浦といふ所あり大洋渺茫眺望極めて可なり、能因法師が「武隈の松は此度跡もなし千歳を経てや我は來つらん」と咏せし鼻輪の松の故蹟も亦近きに在りと云ふ

●増田停車場 (宮城縣陸前國名取郡増田村)

増田驛は仙台を距る六哩三十八鎖の所に在り、岩沼に亞ぐの市驛にして人口三千八百六十餘を有す、明治九年東北御巡幸の時名を賜はりし衣笠の松は沿道唯一の名木と稱せらる

實方中將の墓 是増田驛を距る西方一里許り鹽手村の竹叢の中に在り實方朝臣は一條院の御宇殿上にて恨みある行成卿の冠を打落せし罪にて陸奥へ配流せられし御方なり「さくらかり雨は降り來ぬおなしくはぬるとも花の影に宿らん」又「都には聞きふらぬらん時鳥關のこなたの身こそつらけれ」皆な中將の咏なり

埋木 増田驛より中田村を経て名取川を渡る、有名の埋木は此の川より出づ硯、印材に用ひて妙なり「名とり川瀬々の埋木あらはれは如何にせんとか相見ろめけん」有とて逢はぬためしの名とり川くちたに果てね瀬々の埋木」みな名取川の咏なり○高楯古城 是増田停車場を距る西北半里餘吉田村に在り、藤原秀衡の古壘とも云ひ、伊達家の家臣福田駿河守の居城とも云ふ詳かならず、是より長町を経て廣瀬川の鐵橋あり、此の川の中心を以て名取宮城の郡界と爲す、須臾にして仙臺停車場に達す

●仙臺停車場 (宮城縣陸前國宮城郡仙臺市東七番町)

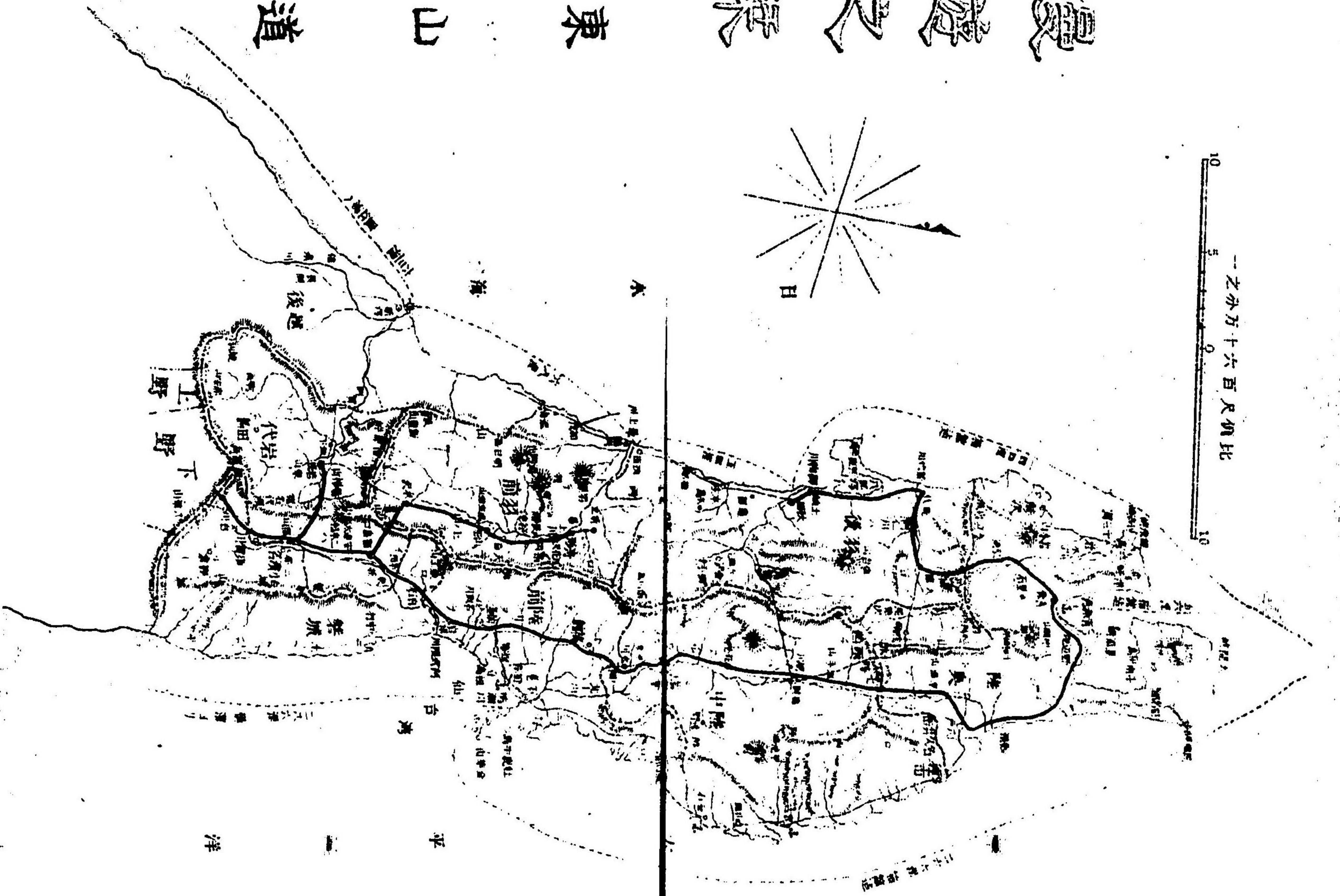
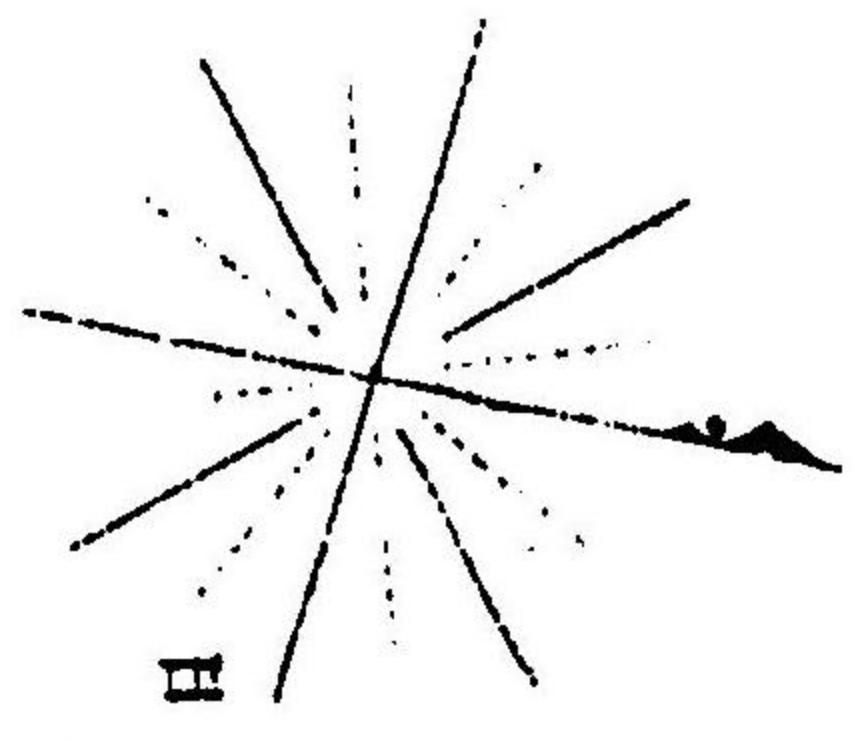
○仙臺市

は曾て伊達氏の城邑にして東北の大都會なり、人煙稠密、馬輻輳、全市の廣袤東西三十四町、南北三十二町、市坊三十二より成り、戸數一萬三千二百餘、人口六萬零九百八十四を有す、廣瀬川其北を流れて宮城野其東南に連なり、師團本營を青葉城址に、分營を躑躅岡に置き、宮城縣廳、控訴院、裁判所、遞信管理局、大林區署、市役所、警察署、集治監、監獄署及び第二高等中學校、師範學校、農學校、公私各種の學校、病院、書籍館、議事堂等各所に散在し、其他銀行諸會社、紡績場、新聞社等一として備はらざるなし、停車場は市の東端東七番町に在りて、東京上野を距る街道八十九里餘、隣縣福島縣へ廿二里、巖手縣へ四十八里、山形縣へ十六里三十二町あり、又旅人宿は多く國分町に在り、其最も大なる者は安藤利兵衛、針生久助、大泉梅次郎、齋藤忠助、橋本友三郎、奥田正吉等何れも停車場前に支店を設く、其他羽陽舎(停車場前)杉山たか(南町)等之に亞で名あり



邊境之界 第九圖 奧羽之道

一之亦方十六百尺例比



平洋

青葉城趾

青葉城は伊達家の居城にて街西廣瀬川大橋を渡りたる所に在り、慶長五年藩祖黃門政宗卿の築く所なり、この城遠く西北に圍む者は和泉岳にして西南に蟠まるは不忘山なり、七巖峰其北に連なり大白嶺其南に聳ゆ、近くは茂陵越路山、經嶺の南山を右翼とし、國見岳、權現嶺、八幡山の北山を左翼とし、前面は東に向つて開け、廣瀬の河流域下を遶り、宮城の原野郊外を帶ふ、所謂龍蟠虎踞相備はるの地にして要害天下に鳴る、戊辰の亂後本城を毀ち、明治十五年九月城外火を失して灰燼に歸す、二師團の本營は實に此の城址に在り

經ヶ峰の靈廟　は黃門正宗卿以下三氏の墳墓にして城東廣瀬川の西縁樹鬱蒼たる所に在り、廟下に一字の精舎あり、正宗山瑞鳳寺と號す、山門に入り大華表を潛り數十段の石階を登れば拜殿に至る、瑞鳳殿三字の額は佐文山の揮毫にして深殿には貞山公（政宗卿の法號）の靈像を安置す前の羽林義山公の廟を感仙殿と云ひ、後の羽林雄山公の廟を善應殿と云

ひ、共に瑞鳳殿を距る西方二十歩許りの丘陵に在り宮殿廊廡何れも富麗を盡せしに戊辰の戦亂に本殿を毀たれ今は感仙殿の深宮を存するのみ、此地河流地方を過ぎ、爵林門前を遶り、古杉老松幽邃に暗く、窓を開けば一望萬里白帆の洋中に浮ぶを觀る、實に佳境壯觀の地なり

櫻岡公園　は市の西端に在り舊巨理、岩沼、錦織の三邸宅地にして明治四年之を開き以て士民遊覽の地と爲す、借樂園といふは是なり、園内に櫻岡神社を祠る、華表の傍らに老梅古松二株を栽る松を般若の松、梅を八房の梅と云ひ、共に正宗卿が朝鮮より齎し歸りしものといふ、祠前に小池あり夏は花菖蒲を栽ゆ、池畔に一大豊碑あり林子平の事蹟を記する者にして篆額は伊達慶邦公、選文は大槻磐溪翁なり、園内には梅、櫻、牡丹、藤花、躑躅、菊等四時の花弁絶ゆる事なし、又挹翠館、梅三亭等の割烹店あり、茶店珈琲店などありて客を待つ

林子平の墓　は街北龍雲院といふ寺の境内に在り、明治九年車駕此地

に駐まり、子平の功を追賞せられて従五位を贈り幣帛料を賜ふ、扈從の士金を捐して子平の爲めに紀念碑を建つ、篆額は一品有栖川親王、撰文は重野博士たり、子平曾て書を著はして外患を警しめ、幕府の嫌忌を受け寛政年間幽閉中に死す

榴ヶ岡　は停車場の東に在り此地昔しは躑躅の樹多く且つ此花を以て都々玆摺なるものを製せしを以て岡の名に命けたり、今は一本の躑躅をも見ず、却つて櫻樹多くして春時は遊人集り頗ぶる雑沓を極む古歌に「みちのくの躑躅ヶ岡のくまつらつらしと君を今日そ知りぬる」又「東路やつゝしが岡を來て見れば赤裳のすろに色を通へる」とあるは此地を咏めるなり、傍らに天神社あり六十四代圓融帝の御宇平持村なる者始めて勸請する所にして始めは宇田郡八幡崎に在り其後屢々移轉して寛文七年綱宗卿此の地に移せりといふ

東照宮　は城北に在り慶安三年忠宗卿將軍家の允許を得て社殿を造營

し承應三年に廟宇成る、殿堂門廡壯麗を極む、傍らに一字を置きて仙岳院と號し祀事に奉ず、寺主を江都東叡山に請ふて最教院の僧正晃誨を請じ、太守道を清めて神輿を迎へ其年三月十六日夜始めて遷宮すといふ、毎年九月十七日を以て大祭を執行す

青葉神社 は市街の北端に在り後に荒卷の巒峯を負ひ南面して市街に臨めは高陵あり、眼下に七萬の人家を見おろし、遠近の秀嶽を一目に集め、東海の波濤一碧洋々たるを望み、眺望絶佳の地なり、茲に鎮座ある青葉神社は去る明治十九年始めて造立する者にして、祭神は故從三位權中納言兼陸奥守伊達政宗諡號武振彦命なり、毎年五月廿四日を以て祭典を行ふ、傍らに青葉神社の碑銘あり詳らかに政宗卿一代の偉蹟を紀す社傍に料理店、温泉場等あり境内を散策する者多し

愛宕山 は市の南に在り、茂陵の北に在りて廣瀬川の清流に臨める巖上の一高陵なり、上に愛宕の祠宇虚空藏あり喬木枝を交へ鬱々蒼々たり

兩社の傍らに茶店三四軒を並べ、巖頭に床几を備へて遊人の休息所に充つ、此處に立て眺望すれば眼下に仙臺市を見おろし東瀨々たる澗河に白帆の隠見するを望み、金華山一髮海を隔て、翠色拭ふが如きを見る、四季折々のながめに飽かず最も納涼に宜し

儲市中の名所古蹟は至るところに在りて殆んど枚擧に遑あらず、せめては重立たるものを探びて記さんと欲するも是また紙數に限りありて半ばをも載せがたし最も遺憾と爲す、是より市外二三の名勝を案内して次の驛に進まん

燕澤蒙古の碑 仙臺市より東南一里餘り榴ヶ岡の北より原町に出で玉田横野を過ぎて猶ほ行くと數丁にして岐路あり、是より左に折れて案内村を過ぎ比丘尼阪を越ゆれば燕澤村に至る、路傍觀音堂の前に蒙古の碑あり、高さ六尺餘、徑三尺許り石面欄行文字五十一を刻す、多くは古鉢又は梵字やうのものにして讀べからず、抑も此碑は胡元の僧祖元の立る

所ろにして初め祖元命を蒙りて我邦に來り、陽に歸化すると稱して我國の勤靜を視ひ潛かに本國に報ず、弘安四年夏五月元兵十萬我が博多の津を襲ひ、颯風に會ふて船艦悉とく覆没し屍は海を埋め能く生て還る者僅かに三人なりといふ、元大に悔い追齋して文を作り其徒清俊をして石に刻せしめ死者十萬の靈を祭る、是れ其碑なり文殊に奇異の文字を用ひたるは嫌疑を避けんが爲めなるべしといふ碑は弘安五年仲秋二十日に建つとあり

宮城野　は榴ヶ岡以東の平原をいふ、郷人活葉が原ともいふ、此地古來有名の勝地にして殊に古跡多し「宮城野の萩や小鹿の妻ならん花咲きしより聲も色なる」さまく心に心をとむる宮城野の花のいろく虫のこゑく」など古歌にあり、古へは此地の太守より年々宮城野の鈴虫を將軍家へ献上せしほどの事なりしが今や悉く開けて田園となり、其宮城野と稱するものは僅々五六町歩に過ぎずして陸軍練兵場となれり

茂嶺の城址　は愛宕山の南根岸村に在り、名取を前にし宮城を後にし兩郡の山脈此に盡き屹然突起して自然仙臺市を庇翼するの形勢を爲す、相傳ふ百一代後小松帝應永年中栗野大膳なる者名取の北邑三十三郷を領して此の城に居ると、太守綱村卿此地に一寺を建立して兩足山大年寺と號す、依て卿の没後此の山中に葬る、戊辰の亂後此の寺宇を毀ちたるも歴代の墳廟は今なほ存せり

秋保御湯(温泉)　は仙臺を距る西方五里、名取郡湯本村に在り温泉は名取川の上流に沿ひたる平地より湧出す、湧口三ヶ所ありて湯本、澤の湯、日の湯といふ、温泉宿四戸あり内湯を設け樋を以て導く、獨り日の湯は別に浴室を設けず僅かに頭及ひ眼を洗ふに供す、泉質は鹽類泉にして硫氣を含み温度は攝氏五十五度を保つ、疥癬、金創、疝氣等の諸病に効ありといふ

作前温泉　は仙臺市を距る西方七里、羽州山形街道の内宮城郡作前村

に在り、道は爪先上りなれども車馬を通ず、温泉は廣瀬川の上流に沿ふて數ヶ所より湧出し、就中古湯、新湯(鷹の湯ともいふ)等名高し、古湯は建久年間に發見し、新湯は近き比發見せり泉質は硫黄泉にて無色透明温度は攝氏五十度以上を保ち疥癬、脚氣、血症其他に効あり、温泉宿は古湯に岩松要、同苗傳兵衛の二戸あり、新湯に森谷、小池の二戸ありて何れも二層の高樓を構へ客室も亦清潔なり
定義温泉 是仙臺市を距る西方六里餘り、宮城郡大倉村に在り道路峻嶮にして車を通せず、温泉は白髭山の麓に在りて字定義と稱する所の巖石の間より湧出す、泉質は青根温泉と伯仲し温度は攝氏三十七八度を有す、婦人諸病、逆上、金創、梅毒、皮膚諸病に用ひて効あり、湯守は石垣加茂之助にして浴舎も清潔なり、此地山中の溪間に在るを以て夏時避暑に來る者多し

●岩切停車場 (宮城縣陸前國宮城郡岩切村)

岩切驛は仙臺を経て青森に至る東北鐵道線の分岐する所にして則ち直行すれば松島、小午田等を経て青森に達し、幹線より岐れて右折すれば鹽竈に至つて止む、其地は國道の一驛にして殊に松島、鹽竈に至るの要衝に在るを以て諸國の旅人茲に集まり頗る繁昌を爲す、此驛より至るべき古蹟は有名の多賀城址なり、其他近地に末の松山、千引石、野田玉川等の名あり、聞く靈元上皇仙臺の國主に勅して奥中の名勝を條上せしめたるに時人之を審らかにせず疎漏の事を記して上奏せしより遂に誤謬を傳へたり、末の松山千引石は盛岡、青森二縣内に在りといふ
多賀城址 岩切停車場より東南二十町、市川村市川橋の東に方四百間許りの丘陵あり是れ多賀城の古址なり、今猶ほ近傍より古瓦を掘出す事ありて好事家は之を硯に造りて珍重すといふ、此城始めは多賀の柵と稱へたるが寶龜十一年に至りて多賀城と呼べり、今は城址の在る所を多賀城村と名く、又多賀城の碑あり昔し多賀の城門に建て四境の遠近を示し